令和7年度新宿御苑日本館御殿工事設計図

令和 7 年 7月

環境省新宿御苑管理事務所

令和7年度新宿御苑日本館御殿工事設計図　　図 面 目 録

「表紙」「図面目録」共全　167　枚

図面番号		図 面 名 称		縮尺
		建築		
ー	ー	表紙		ー
ー	ー	図面目録		ー
01	A－01	木造特記仕様書（その1-1）		ー
02	A－02	木造特記仕様書（その1-2）		ー
03	A－03	木造特記仕様書（その1-3）		ー
04	A－04	木造特記仕様書（その1-4）		ー
05	A－05	木造特記仕様書（その1-5）		ー
06	A－06	木造特記仕様書（その1-6）		ー
07	A－07	木造特記仕様書（その1-7）		ー
08	A－08	別表（1）		ー
09	A－09	別表（2）		ー
10	A－10	工事区分表		ー
11	A－11	案内図		ー
12	A－12	現況図		1/200
13	A－13	配置図		1/200
14	A－14	求積図（1）	建築面積	1/100
15	A－15	求積図（2）	建面積・延べ面積	1/100
16	A－16	仕上表		ー
17	A－17	平面図		1/100
18	A－18	屋根伏図		1/100
19	A－19	立面図（1）	北側、南側	1/60
20	A－20	立面図（2）	東側、西側	1/60
21	A－21	断面図（1）	断面1～3	1/60
22	A－22	断面図（2）	断面4～8	1/60
23	A－23	天井伏図（1）		1/50
24	A－24	天井伏図（2）、天井詳細図		1/50
25	A－25	平面詳細図（1）		1/30
26	A－26	平面詳細図（2）		1/30
27	A－27	平面詳細図（3）		1/30
28	A－28	平面詳細図（4）		1/30
29	A－29	矩計図（1）	休憩所北側	1/20
30	A－30	矩計図（2）	休憩所南側	1/20
31	A－31	矩計図（3）	御座所南側	1/20
32	A－32	矩計図（4）	エントランス部	1/5
33	A－33	断面詳細図	エントランス部	1/20
34	A－34	展開図（1）	復元展示室A（御座所） 復元展示室B（御次の間）	1/30
35	A－35	展開図（2）	復元展示室C・前室 復元展示室廊下1,2	1/30
36	A－36	展開図（3）	エントランス部	1/30
37	A－37	展開図（4）	廊下1、ホール	1/30
38	A－38	展開図（5）	休憩スペースA,B,C,D,E,F	1/30
39	A－39	展開図（6）	WC前室、WC1,2、多機能トイレ	1/30
40	A－40	建具・雨戸キープラン		1/100
41	A－41	欄間キープラン		1/100
42	A－42	建具表（1）	共通事項	ー
43	A－43	建具表（2）	G：硝子障子	1/30
44	A－44	建具表（3）		1/30
45	A－45	建具表（4）	WDG：硝子障子戸	1/30
46	A－46	建具表（5）	WDM：舞良戸	1/30
47	A－47	建具表（6）	WDC：杉戸、WDB：板戸	1/30
48	A－48	建具表（7）	H：ふすま	1/30
49	A－49	建具表（8）	WDS：木製雨戸	1/30
50	A－50	建具表（9）	AD：アルミ製戸、AG：アルミガラリ網戸：アルミ枠網戸、WD：木製戸	1/30

図面番号		図 面 名 称		縮尺
		外構		
51	A－51	建具表（10）	WRGL：縦格子付き硝子入り欄間	1/30
52	A－52	建具表（11）	WRG：硝子入り欄間	1/30
53	A－53	建具表（12）	WRI、WRGI：糸引き欄間 WRT：竹節、P：障子欄間	1/30
54	A－54	壁詳細図		1/5
55	A－55	部分詳細図キープラン		1/70
56	A－56	部分詳細図（1）	家具、木造作	図示
57	A－57	部分詳細図（2）	木造作（戸袋）	図示
58	A－58	部分詳細図（3）	木造作、金物、石	図示
59	A－59	部分詳細図（4）	床、床脇	図示
60	A－60	部分詳細図（5）	エントランス自動ドア、照明ダクト	図示
61	A－61	部分詳細図（6）	廊下2自動ドア、防護柵	図示
62	A－62	部分詳細図（7）	御車寄、樋、中央エントランス	図示
63	L－01	現況平面図		1/150
64	L－02	外構撤去平面図（現況・計画重ね図）		1/150
65	L－03	園路広場施設配置平面図		1/150
66	L－04	雨水排水平面図-1（全体）		1/150
67	L－05	雨水排水平面図-2（流域A）		1/67
68	L－06	雨水排水平面図-3（流域B）		1/67
69	L－07	雨水排水平面図-4（流域C）		1/67
70	L－08	植栽計画平面図		1/150
71	L－09	詳細図-1	舗装・側溝・縁石	1/10
72	L－10	詳細図-2	舗装（石・砂利・脱色アスファルト）	1/150
73	L－11	詳細図-3	舗装止め・野面石積・ベンチ	1/10
74	L－12	詳細図-4	竜安寺垣	1/5
75	L－13	詳細図-5	浸透トレンチ・L型側溝・雨水桝	1/10
76	L－14	詳細図-6	横断溝	1/10
77	L－15	詳細図-7	ワイヤー支柱	図示
78	AL－01	詳細図-1	室外機置場	図示
79	AL－02	詳細図-2	配管ピット	1/20,1/40
80	AL－03	詳細図-3	塀	1/15
81	AL－04	詳細図-4	橋	1/15,1/25
82	AL－05	詳細図-5	橋_構造図	1/10
83	AL－06	詳細図-6	既存橋_撤去図	1/5,1/10, 1/30
84	AL－07	詳細図-7	和船（1）	1/8
85	AL－08	詳細図-8	和船（2）	1/8
86	S－01	構造関係特記仕様書		ー
87	S－02	構造関係共通事項1		ー
88	S－03	構造関係共通事項2		ー
89	S－04	木造基礎構造標準図		ー
90	S－05	木造特記仕様書1		ー
91	S－06	木造特記仕様書2		ー
92	S－07	木造特記仕様書3		ー
93	S－08	木造工事補足事項1		
94	S－09	木造工事補足事項2		ー
95	S－10	木造標準図1		ー
96	S－11	木造標準図2		ー
97	S－12	木造標準図3		ー
98	S－13	木造標準図4		ー
99	S－14	新御殿　基礎伏図		1/60

図面番号		図 面 名 称		縮尺
100	S－15	新御殿　土台伏図		1/60
101	S－16	新御殿　1階床伏図		1/60
102	S－17	新御殿　1階柱伏図		1/60
103	S－18	新御殿　小屋伏図		1/60
104	S－19	新御殿　各部伏図		1/60
105	S－20	新御殿　母屋伏図		1/60
106	S－21	新御殿　垂木伏図		1/60
107	S－22	新御殿　化粧垂木伏図		1/60
108	S－23	新御殿　柱頭柱脚金物伏図1		1/60
109	S－24	新御殿　柱頭柱脚金物伏図2		1/60
110	S－25	新御殿　柱頭柱脚金物伏図3		1/60
111	S－26	新御殿　軸組図1		1/100
112	S－27	新御殿　軸組図2		1/100
113	S－28	新御殿　軸組図3		1/100
114	S－29	新御殿　御車寄せ詳細図		図示
115	S－30	新御殿　断面リスト		1/5
116	S－31	新御殿　基礎断面リスト		1/15
117	S－32	新御殿　垂木詳細図		1/10
118	S－33	新御殿　柱脚-束石詳細図		1/5
119	E－01	特記仕様書		ー
120	E－02	電気設備凡例表		ー
121	E－03	電灯（照明）設備　参考機器姿図（1）		ー
122	E－04	電灯（照明）設備　参考機器姿図（2）		ー
123	E－05	電灯動力設備幹線系統図		ー
124	E－06	電灯分電盤結線図(1)		ー
125	E－07	電灯分電盤結線図(2)		ー
126	E－08	動力制御盤結線図		ー
127	E－09	動力制御盤標準回路図		ー
128	E－10	通信総合収納盤・端子盤構成表・HUB収納盤姿図		ー
129	E－11	誘導支援・監視カメラ設備参考機器姿図		ー
130	E－12	日本館御殿　電灯（照明）設備配線図		1/60
131	E－13	日本館御殿　電灯（非常用照明・誘導灯）設備配線図		1/60
132	E－14	日本館御殿　電灯（コンセント分岐）設備配線図		1/60
133	E－15	日本館御殿　電灯（幹線）設備ピット階配線図・構内配電線路図		1/60
134	E－16	日本館御殿　電灯（幹線・コンセント分岐）設備 1階配線図 構内配電線路図		1/60
135	E－17	日本館御殿　通信設備系統図		ー
136	E－18	日本館御殿　構内交換・構内情報通信網・ 誘導支援設備配線図・構内通信線路図		1/60
137	E－19	日本館御殿　映像・音響・監視カメラ設備配線図		1/60
138	E－20	日本館御殿　火災報知設備凡例・系統図		ー
139	E－21	日本館御殿　火災報知設備配線図		1/60
140	E－22	既設大木戸駐車場変電所単線結線図（改設）		ー
141	E－23	既設大木戸駐車場変電所姿図（改設）		ー
142	E－24	構内配電線路・構内通信線路線図		1/200
143	E－25	電灯（外構照明）設備配線図		1/100
144	M－01	特記仕様書-1		ー
145	M－02	特記仕様書-2		ー
146	M－03	機器表・衛生器具表		ー
147	M－04	空調・換気設備　ダクト系統図		ー
148	M－05	空調設備　ダクト平面図		1/60
149	M－06	換気設備　ダクト平面図		1/60

図面番号		図 面 名 称		縮尺
150	M－07	空調・換気設備ダクト断面図（1-1）		1/30
151	M－08	空調・換気設備ダクト断面図（1-2）		1/30
152	M－09	空調・換気設備ダクト断面図（3）		1/30
153	M－10	空調・換気設備ダクト断面図（4）		1/30
154	M－11	空調・換気設備ダクト断面図（5）		1/30
155	M－12	空調・換気設備ダクト断面図（6）		1/30
156	M－13	空調設備　配管系統図		ー
157	M－14	空調設備　配管平面図		1/60
158	M－15	空調・換気設備　機器支持金物配置図		1/75
159	M－16	空調設備　配線平面図		1/60
160	M－17	給排水衛生設備　平面図		1/60
161	M－18	給排水衛生設備　トイレ詳細図		1/25
162	M－19	屋外配管図		1/150
163	M－20	屋外配管縦断図		1/25 1/150
164	M－21	既設配管撤去図		1/150
参考	K－01	仮設備等計画図（参考図）		1/160

※縮尺はA1版の場合です。

令和7年度新宿御苑日本館御殿　工事設計図

特記仕様書

I.　工事概要

1．工事場所　東京都新宿区内藤町11

2．工　期
着　工　令和 7 年 10月 1 日
完成期限　令和 8 年 3月 31 日

3．敷地面積　583,061.00 m2

4．建物概要

1．建物	1)日本館御殿	木造１階建		新設一式
		建築面積	510.057 ㎡	
		延べ床面積	456.718 ㎡	
	~~2)付属棟~~	~~木造１階建~~		~~新設一式~~
		~~建築面積~~	~~177.112 ㎡~~	
		~~延べ床面積~~	~~173.332 ㎡~~	
2．工作物	1)囲障、竹垣			新設一式
	2)室外機置場			新設１箇所
3．外構	1)舗装（縁石とも）			新設及び改修一式
	2)砂利敷き			新設一式
	3)屋外排水設備			新設一式
	4)設備用トレンチ			新設一式
4．造園	1)樹木（芝張りとも）			新植一式
5．設備	1)電気設備			新設一式
	2)機械設備			新設一式
6．取り壊し	1)既存樹木（伐採、抜根）			とりこわし一式
	2)既存橋			とりこわし一式
7．その他.	1)橋			新設及び改修一式
	2)和船			新設一式

5．指定部分　・有　⊙無　対象部分（　　）
指定部分工期　年　月　日

6．工事範囲
※「3．工事種目」すべてを工事範囲とする。
・「3．工事種目」のうち　　の工事範囲は下記表のとおりとする。
ただし、他の工事種目はすべて今回工事範囲とする。

2 仮設工事	
3 土・地業・基礎工事	
4 木造工事	
5 軸組構法（壁構造系）工事	
6 軸組構法（軸構造系）工事	
7 枠組壁工法工事	
8 丸太組構法工事	
9 ＣＬＴパネル工法工事	
10 木工事	
11 防水工事	
12 石工事	
13 タイル工事	
14 屋根及びとい工事	
15 金属工事	
16 左官工事	
17 建具工事	
18 塗装工事	
19 内装工事	
20 断熱・防露、ユニット及びその他工事	
21 排水工事	
22 舗装工事	
23 植栽工事	

II.　建築工事仕様

（1）図面及び本特記仕様に記載されていない事項は、国土交通省大臣官房官庁営繕部制定の「公共建築木造工事標準仕様書 令和４年版」（以下「木造標準仕様書」という。）による。図面、本特記仕様書及び木造標準仕様書に記載されてない事項は、国土交通省大臣官房官庁営繕部制定の「公共建築工事標準仕様書（建築工事編) 令和４年版」（以下「標準仕様書」という。）による。

（2）電気設備工事及び機械設備工事を本工事に含む場合は、電気設備工事及び機械設備工事は、それぞれの工事特記仕様書を適用する。なお、電気設備工事の特記仕様書は（119／164）図、機械設備工事の特記仕様書は（144／145／164）図による。
（3）本特記仕様書の表記
1）項目は、番号に⊙ 印の付いたものを適用する。
2）特記事項は、⊙ 印の付いたものを適用する。
⊙ 印の付かない場合は、※印の付いたものを適用する。
⊙ 印と ※⊙ 印の付いた場合は、共に適用する。

3）特記事項に記載の＜　.　.　.＞内表示番号は、木造標準仕様書の当該項目、当該図又は当該表を示す。
4）特記事項に記載の（　.　.　.）内表示番号は、標準仕様書の当該項目、当該図又は当該表を示す。
5）G 印は、「国等による環境物品等の調達の推進等に関する法律（平成12年法律第100号）」に基づく「環境物品等の調達の推進に関する基本方針(平成31年2月8日変更閣議決定）」に定める特定調達物品における判断の基準（特定調達品目「公共工事」においては表1中の品目ごとの判断基準）を満たすものを示す。
グリーン購入法に基づく、環境物品等の調達に関する基本方針(以下「基本方針」という)(環境省ホームページに掲載)（毎年２月改定)において位置づけられた、「特定調達品目」に該当する材料及び建設機械等は、原則として基本方針に定める判断基準を満足するものを使用することとする。なお、やむをえず判断基準に満たないものを使用する場合は、監督職員の承諾を受けるものとする。また、「特定調達品目」の調達の実績（設備及び公共工事）について、当該年度の調達実績集計表（物品・役務及び公共工事）を環境省ホームページからダウンロードし、Excelファイルで作成し、提出する。

6）「公共建築物等における木材の利用の促進に関する法律」に基づき、国立公園等施設への木材利用量について、木材利用調査要領により、Excelファイルで作成し、提出する。

章	項　目	特　記　事　項
1 一般共通事項	⊙ 適用基準	1）図面、本特記仕様書木造標準仕様書及び標準仕様書に記載のない事項は次の基準による。 ・建築物解体工事共通仕様書 令和４年版　国土交通省大臣官房官庁営繕部 ・公共建築改修工事標準仕様書 令和４年版　国土交通省大臣官房官庁営繕部 2）本設計図書における「標準詳細図」とは、次の基準を指す。 建築工事標準詳細図（平成28年版）国土交通省大臣官房官庁営繕部整備課
	⊙ 適用区分	建築基準法に基づき定まる風圧力及び積雪荷重の算定には次の条件を用いる。 ☞ 風圧力 風速（Vo= 34 m/s) 地表面粗度区分　）　II ☞ 積雪荷重 平成12年5月31日建設省告示第1455号における区域　別表（24 ）
	⊙ 環境への配慮	<1.4.1> 1）建築物内部に使用する材料等は、設計図書に規定する所要の品質及び性能を有すると共に、次の①から④までを満たすものとする。 ① 合板、木質系フローリング、構造用パネル、集成材、単板積層材、ＭＤＦ、 パーティクルボード、その他の木質建材、ユリア樹脂板、壁紙、接着剤、保温材、 緩衝材、断熱材、塗料、仕上塗材、アセトアルデヒド及びスチレンを発散しない又は発散が極めて少ない材料で、設計図書に規定する「ホルムアルデヒドの放散量」の区分に応じた材料を使用する。 ② 接着剤及び塗料は、トルエン、キシレン及びエチルベンゼンの含有量が少ない材料を使用する。 ③ 接着剤は、可塑性（フタル酸ジ−ｎ−ブチル及びフタル酸ジ−２−エチルヘキシル等を含有しない難揮発性の可塑剤を除く）が添加されていない材料を使用する。 ④ ①の材料を使用して作られた家具、書架、実験台、その他の什器類は、ホルムアルデヒド、アセトアルデヒド及びスチレンを発散しないか、発散が極めて少ない材料を使用したものとする。 2）設計図書に規定する「ホルムアルデヒドの放散量」の区分において、「規制対象外」とは次の①又は②に該当する材料を指し、同区分「第三種」とは次の③又は④に該当する材料を指す。 ①建築基準法施行令第20 条の７第１項に定める第一種、第二種及び第三種ホルムアルデヒド発散建築材料以外の材料 ②建築基準法施行令第20 条の７第４項の規定により国土交通大臣の認定を受けた材料 ③建築基準法施行令第20 条の７第１項に定める第三種ホルムアルデヒド発散建築材料 ④建築基準法施行令第20 条の７第３項の規定により国土交通大臣の認定を受けた材料
	⊙ 材料の品質等	<1.4.2> 1）本工事に使用する材料は、特記なき限り設計図書に定める品質及び性能の他、通常有すべき品質及び性能を有するものとする。 2）備考欄に商品名が記載された材料は、当該商品又は同等品を使用するものとし、同等品を使用する場合は監督職員の承諾を受ける。 3）標準仕様書に記載されていない特別な材料の工法については、材料製造所の指定する工法とする。 4）本工事に使用する材料のうち、5）に指定する材料の製造業者等は、次の①から⑥すべての事項を満たすものとし、この証明となる資料（外部機関が発行する証明書の写し等）を監督職員に提出して承諾を受ける。ただし、あらかじめ監督職員の承諾を受けた場合はこの限りでない。 ①品質及び性能に関する試験データを整備していること。 ②生産施設及び品質の管理を適切に行っていること。 ③安定的な供給が可能であること。 ④法令等で定める許可、認可、認定又は免許を取得していること。 ⑤製造又は施工の実績があり、その信頼性があること。 ⑥販売、保守等の営業体制を整えていること。 5）製造業者等に関する資料の提出を求める材料 ・
2 仮設工事	⊙足場等	<2.2.4> 「手すり先行工法に関するガイドライン」に基づく足場の設置に当たっては、同ガイドラインの別紙１「手すり先行工法による足場の組立て等に関する基準」における2の(2)手すり据置き方式又は(3)手すり先行専用足場方式により行う。
3-1 土工事	⊙ 埋戻し及び盛土	材料及び工法　(3.2.3) ※標準仕様書3.2.1による 種別 ・A種　適用場所（　　） ⊙B種　適用場所（ 埋戻し　　）⊙適用箇所　基礎周り ・C種　適用場所（　　）土質（　　）受渡場所（　　） ・D種 適用場所（　　） （品質　細粒分（75μm以下）の含有率（重量百分率）の上限を50%未満とする。） ・材料（　　）　工法（　　）
	⊙ 建設発生土の処理	※ 現場説明書による　⊙構内指示の場所に堆積　・構内指示の場所に敷き均し　(3.2.5)
3-2 地業工事 3-3 鉄筋工事 3-4 コンクリート工事		※構造図　S-01 木造特記仕様書１ による
4 木造工事 5 軸組構法（壁構造系）工事		※構造図　S-02 木造特記仕様書２ S-03 木造特記仕様書３ による
10 木工事	⊙材料	<10.2.2> 木工事に使用する木材等は、使用材料表９による <10.2.3> 木工事に使用する合板等は、使用材料表10による <10.2.4> 釘 ⊙JIS A 5508 種類 / 材質 / その他 ⊙鉄丸くぎ / 表面処理された鉄 ・太め鉄丸くぎ / 表面処理された鉄 ⊙鉄丸くぎ / ステンレス鋼 ・ ☞JIS A 5508に規定されている釘以外の釘 材質（　　銅　　）　適用箇所（　銅板屋根　　） ☞造作材化粧面の釘打ち ※隠し釘打ち　　・釘頭埋め木 ・つぶし頭釘打ち　　・釘頭現し 木ねじ ⊙JIS B 1112 又は JIS B 1135 種類 / 材質 / その他 ⊙十字穴付き木ねじ / ステンレス製 / JIS B 1112 ・すりわり付き木ねじ / ステンレス製 / JIS B 1135 ・ ・JIS B 1112 又は JIS B 1135 に規定されているもの以外の木ねじ 材質（　　）
	⊙表面仕上げ	<10.1.3> ⊙製材の表面仕上げ 機械加工　⊙A種　⊙B種　・C種　<表10.1.1> 手加工　・H-A種　・H-B種　・H-C種　<表10.1.2> ※内部造作材はH-B種　※下地材はH-C種 ⊙造作用集成材の表面仕上げ 機械加工　・A種　⊙B種　・C種　<表10.1.1>
	⊙木材の耐候性処理	<10.3.1>(18.13.2) 屋外に使用する仕上げ木材 ⊙木材保護塗料塗り 施工箇所　※図示　・ 種別　・A種　⊙B種
	⊙木材の防虫処理	<10.3.2> 施工箇所　※図示　⊙　構造図による 処理方法　※図示　⊙　加圧注入工法
	・外壁通気構法下地	<10.8.2> 積雪地の場合の下地補強 工法種別 / 補強方法 / 補強高さ(mm) ・縦通気胴縁工法 / ※木造標準仕様書10.8.2（ｳ）(h)による ・ ・横通気胴縁工法 / ※木造標準仕様書10.8.2（ｳ）(i)による ・
	⊙和室の造作	<10.10.1> 柱　⊙背割不要の処理
11 防水工事	・FRP系塗膜防水	<10.2.2、4> ・ルーフドレン ・ＦＲＰ系塗膜防水用ルーフドレン　・鋳鉄製 ・オーバーフロー管 ※つば付き　製造所の指定する製品 ・下地合板の上の防火板 種類（・　　※ケイ酸カルシウム板) 厚さ（・　　※10mm) 防水層平場の勾配 ・　　※1/100以上 水張り試験　・行う
	⊙シーリング	<11.3.2> <表11.3.1><11.3.3> 下表以外は、木造標準仕様書表11.3.1による。 ただし、外装タイル接着剤張りの場合のシーリングは標準仕様書11章による。 施工箇所 / シーリング材の種類（記号） アルミ製建具 / MS-2 スチール製建具 / MS-2 シーリング材の目地寸法　※木造標準仕様書10.3.3(a)(1)～(3)による　・
	⊙防水テープ	<11.4.2> 両面粘着防水テープの幅 ※50mm以上　・ ⊙防水シートの材質：高密度ポリエチレン+アルミニウム（表面） 厚さ0.15～0.20mm ⊙同等品　フクビ　遮熱エアテックスRSTS01 デュポン　タイベックシルバー　同等品
	・バルコニー手すり	<11.4.3> バルコニー手すりの工法 ・図示 ※木造標準仕様書11.4.3（ｳ）①から⑤までによる固定方法
	・ケイ酸質系塗布防水	<11.5.1>(9.6.1、3) (表9.6.1、2) 防水層の種別 種別 / 施工箇所 / 種別 / 施工箇所 ※C－ＵＩ / / ・C－ＵＰ /
	⊙気密シート	⊙ポリエチレンフィルム　0.1mm
12 石工事	⊙ 施工 ⊙石材等	石材の割付け　※図示　・　(10.1.3) 天然石　(10.2.1、3)(表 10.2.1、2) 施工箇所 / 岩石の種類 / 形状及び寸法(mm) / 厚さ(mm) / 表面仕上げの種類 / 備考 石基壇 / 花崗岩(真壁石) / ⊙図示 / ⊙図示 / 水磨き / 面取り加工 化粧石束 / 花崗岩(御影石) / ⊙図示 / ⊙図示 / 水磨き / 面取り加工 稲田石程度 礎石 / 花崗岩(御影石) / ⊙図示 / ⊙図示 / 自然形状+割肌加工 / 玉石（300×300×300mm程度）ホゾ穴加工 稲田石程度 舗石/雨落縁石 / 花崗岩(稲田石) / ⊙図示 / ⊙図示 / ビシャン/水磨 外部床仕上 / 花崗岩(真壁石) / ⊙図示 / ⊙図示 / ビシャン 踏石 / 安山岩(鉄平石) / ⊙図示 / ⊙図示 / 水磨き 沓脱石 / 花崗岩(白御影石) / ⊙図示 / ⊙図示 / 天然形状+割肌加工 樋受石 / 花崗岩(御影石) / ⊙図示 / ⊙図示 / 天然形状+割肌加工 / 曲面加工 ジェットバーナー仕上げのバフ仕上げの有無 ・あり　・なし　＊全ての石については、サンプルを提出し監督員の了承を得ること テラゾブロック 施工箇所 / 種石の種類 / 種石の大きさ(mm) / 形状による区分 / 仕上げ面による区分 / 寸法(mm) / 表面仕上げの種類 / 備考 ※大理石・花こう岩 / ※1.5～12・ / ・平もの・役もの / ・片面・両面 テラゾタイル 施工箇所 / 種石の種類 / 種石の大きさ(mm) / 寸法による区分 / 表面仕上げの種類 / 備考 ※大理石・花こう岩 / ※1.5～12・ / ・300型・400型 その他の材料 取付け用モルタル ※専門工事業者の指定する製品 ・ 既調合の目地モルタル ※専門工事業者の指定する製品 ・ 浸透性吸水防水剤 ※専門工事業者の指定する製品 ・ 石裏面処理材 ※専門工事業者の指定する製品 ・ 裏打ち処理材 ※専門工事業者の指定する製品 ・ ドレンパイプの材質 ・樹脂ネット製パイプ　クロスメッシュ巻き　25～35φ ・ 金物の固定に使用する充填材料等 ※専門工事業者の指定する製品
	⊙ 外壁湿式工法	⊙ 適用箇所：基壇部　(10.2.2、3)(10.3.2、3) 受金物 材質 ※SUS304　・ 形状及び寸法 ・L-75×75×6(mm)の加工　長さ100mm又は150mm アンカーの材質及び寸法 材質 ※SS400　・ 寸法 ・ あと施工アンカーの材質、寸法等 種類　・ 材質　・ 寸法　・ ドレンパイプ ・設ける(設置位置：図示による) ・設けない 石裏面処理 ⊙適用する　・適用しない 裏打ち処理 ⊙適用する　・適用しない 下地ごしらえ ※あと施工アンカー・横筋流し工法 ・あと施工アンカー工法 ・流し筋工法 目地 一般目地 ・目地モルタル　(目地幅　・　) ・既調合の目地モルタル　(目地幅　・　) ※シーリング材　(種類　※標準仕様書 表9.7.1による　・　) (目地幅及び深さ　・　) 伸縮調整目地 位置 ・図示による シーリング材の種類 ※標準仕様書 表9.7.1による ・ 目地寸法 ※幅・深さとも10mm以上

香山建築研究所 KOHYAMA　ATELIER 一級建築士事務所第12399号(有)香山建築研究所　東京都文京区本郷2-12-10UT本郷3F 管理技術者　長谷川祥久（一級建築士第289714号） 一級建築士事務所第12399号(有)香山建築研究所　東京都文京区本郷2-12-10UT本郷3F 意匠主任技術者　松本洋平（一級建築士第367970号）	令和7年度新宿御苑日本館御殿工事 木造特記仕様書（その1-1）　A1 ： ― / A3 ： ― 環境省新宿御苑管理事務所	A-01 01 164

・内壁空積工法

受金物 (10.2.2)(10.4.2、3)
材質
※SUS304 ・
形状及び寸法
・L-75×75×6(mm)の加工 長さ100mm又は150mm
・
あと施工アンカーの材質、寸法等
種類 ・
材質 ・
寸法 ・
石裏面処理
・適用する ・適用しない
裏打ち処理
・適用する ・適用しない
下地ごしらえ
※あと施工アンカー・横筋流し工法
・あと施工アンカー工法
一般目地
・目地モルタル (目地幅 ・)
・既調合の目地モルタル (目地幅 ・)
・シーリング材 (種類 ※標準仕様書表9.7.1による ・)
(目地幅及び深さ ・)
伸縮調整目地
位置
・6m程度
・
シーリング材の種類
※標準仕様書 表9.7.1による
・
目地寸法

・外壁乾式工法

乾式工法の方式による金物の種類、形状、寸法等 (10.2.2)(10.5.2、3)(表10.2.4)
※標準仕様書 表10.2.4による
（方式： ・スライド方式 ・ロッキング方式）
・図示による
あと施工アンカーの材質、寸法等
種類 ・
材質 ・
寸法 ・
だぼ用の穴の位置
※標準仕様書10.5.2(2)(ｱ)による
・図示による

裏打ち処理
・適用する ・適用しない
建築基準法に基づく風圧力に対応した工法
1章 適用区分による風圧力の（・1 ・1.15 ・1.3）倍の風圧力に対応した工法
シーリング材
種類
※標準仕様書 表9.7.1による
・
目地幅及び深さ
・
目地寸法
※幅・深さとも10mm以上
・図示による

⊙床及び階段の石張り

浸透性吸収防水剤 (10.6.2、3)
(床石張り) ・適用する ・適用しない
石裏面処理
(床石張り) ⊙適用する ・適用しない
(階段張り) ・適用する ・適用しない
裏打ち処理
(床石張り) ・適用する ・適用しない
一般目地
・目地モルタル (目地幅 ・)
⊙既調合の目地モルタル (目地幅 ⊙屋外 4mm以上、屋内 3～6mm)
・シーリング材 (種類 ※標準仕様書表9.7.1による ・)
(目地幅及び深さ ・)
伸縮調整目地
位置
※標準仕様書 10.6.2(5)(a)による
・図示による
シーリング材の種類
※標準仕様書 表9.7.1による
・
目地寸法
※幅・深さとも10mm以上
・図示による

・笠木、甲板等の石張り

取付け工法 (10.2.2) (10.7.2)
・湿式工法
・乾式工法
特殊部位用金物
材質
※SUS304 ・
寸法等
引金物
※標準仕様書表10.2.3による
・
だぼ
※標準仕様書表10.2.3による
・
かすがい
※標準仕様書表10.2.3による
・
受金物
※標準仕様書10.2.2(1)(ｲ)による
・
乾式工法の方式による金物の種類、形状、寸法等
ファスナー
※標準仕様書表10.2.4に準ずる
（方式：・スライド方式 ・ロッキング方式）
・図示による
あと施工アンカーの材質、寸法
種類 ・
材質 ・
寸法 ・
石裏面処理
・適用する ・適用しない

乾式工法の場合の取付け代
※70mm程度 ・
石材の裏面の補強用モルタル
・適用する ・適用しない
一般目地
・目地モルタル (目地幅 ・)
・既調合の目地モルタル (目地幅 ・)
・シーリング材 (種類 ※標準仕様書 表9.7.1による ・)
(目地幅及び深さ ・)
伸縮調整目地
位置
※標準仕様書 10.6.2(5)(a)による
・図示による
シーリング材の種類
※標準仕様書 表9.7.1による
・
目地寸法
・図示による

⊙基壇部、舗装の石張り

石裏面処理 ⊙適用する ・適用しない
一般目地
⊙既調合の目地モルタル (目地幅 ⊙屋外 4mm以上、屋内 3～6mm)

13 タイル工事

⊙伸縮調整目地及び
ひび割れ誘発目地

位置 (11.1.3)(表11.1.1)
※標準仕様書 表11.1.1による
・図示による
目地寸法
・図示による

⊙見本焼き
試験施工

見本焼き (11.1.4)
⊙行う(施工箇所：北、南、中央エントランス床) ・行わない
試験張り
・行う( ) ⊙行わない

⊙セメントモルタル
によるタイル張り

タイルの形状、寸法等 (11.2.2、6)

施工箇所	種類	形状/寸法(mm)	再生材料の適用G	吸水率による区分			うわぐすり		役物		色			耐凍害性		耐滑り性	備考
				I類	II類	III類	無ゆう	無ゆう	有	無	標準	特注		有	無		
①		300×300	・	・	⊙	・	・	・	⊙	・	⊙	・	・	・	⊙	⊙	
②			・	・	・	・	・	・	・	・	・	・	・	・	・	・	
③			・	・	・	・	・	・	・	・	・	・	・	・	・	・	

①施工箇所： 北,南エントランス 同等品 越前セラミカ ECHIZEN ANCIENT
中央エントランス

②施工箇所：

③施工箇所：

標準的な曲がりの役物は一体成形とする。
既調合モルタル（品質・性能、試験方法は別表による）
モルタル下地としたタイル工事に使用する張付け用モルタルとして、セメント、細骨材、混和剤等を予め工場において所定の割合に配合した材料とする。
既調合目地材（品質・性能、試験方法は別表による）

下地モルタル塗りを行うコンクリート素地面の下地処理
※目荒し工法（高圧水洗処理）
・MCR工法
・
壁タイル張りの工法
内外装タイル
・密着張り
・改良圧着張り
内装タイル以外のユニットタイル
・マスク張り
・モザイクタイル張り

・有機系接着剤による
タイル張り

タイルの形状、寸法等 (11.3.2～5)

施工箇所	種類	形状/寸法(mm)	再生材料の適用□	吸水率による区分			うわぐすり		役物		色			耐凍害性		耐滑り性	備考
				I類	II類	III類	無ゆう	無ゆう	有	無	標準	特注		有	無		
①			・	・	・	・	・	・	・	・	・	・	・	・	・	・	
②			・	・	・	・	・	・	・	・	・	・	・	・	・	・	
③			・	・	・	・	・	・	・	・	・	・	・	・	・	・	

①施工箇所： 備考：
②施工箇所： 備考：
③施工箇所： 備考：
標準的な曲がりの役物は一体成形とする
内装タイル接着剤張りの接着剤のホルムアルデヒド放散量
※F☆☆☆☆ ・
目地のシーリング材
打継ぎ目地
※ポリウレタン系シーリング材
・
ひび割れ誘発目地
※ポリウレタン系シーリング材
・
伸縮調整目地及びその他の目地
※変成シリコーン系シーリング材
・
下地調整塗材塗りを行うコンクリート素地面の下地処理
※目荒し工法（高圧水洗処理）
・MCR工法
・
外装タイルの目地詰め
※行う ・行わない

14 屋根及びとい工事

⊙金属板葺

<木14.3.2、3、7、8>

施工箇所	板及びｺｲﾙの種類	塗膜の耐久性、めっき付着量等の種類及び記号	厚さ(mm)	屋根葺形式	備考
⊙下屋 ⊙瓦屋根谷部 ⊙ｴﾝﾄﾗﾝｽﾎｰﾙ部屋根 ⊙中央ｴﾝﾄﾗﾝｽ部屋根 ~~・付属棟~~	※JIS G 3322の屋根用 ⊙JIS H3100（銅板）		⊙0.35 ⊙0.40（谷部）	⊙平葺（一文字葺） ・心木あり瓦棒葺 ・心木なし瓦棒葺 ・横葺 ・立平葺	

⊙銅板の見え掛り部は、酸化緑青処理を行う

下葺材料 <木14.2.2>
※改質アスファルトルーフィング下葺材（一般タイプ）
⊙アスファルトルーフィング 940 ⊙ゴムアスファルトルーフィング（谷樋部分）
改質アスファルトルーフィングの積雪寒冷地対策 ・行う

固定釘の材質 <木14.3.2>
木造標準仕様書表14.3.2による
（材質：銅 ）

・心木の防腐・防蟻処理方法（ ）

⊙平葺（一文字葺）の工法 <木14.3.4>
はぜの作り方
※図示による ○ 折曲げ

・心木あり瓦棒葺の工法 <木14.3.5>
・銅板以外の板による屋根一般部分の工法
溝板及びキャップの留付け方法
※木造標準仕様書14.3.5(3)(ｱ)(c)による
・
瓦棒の間隔
※図示による ・
・銅板による屋根一般部分の工法
瓦棒の間隔
※図示による ・

・心木なし瓦棒葺の工法 <木14.3.6>
屋根の流れ方向に平行な壁との取合い部
・雨押えを付ける場合
※木造標準仕様書14.3.6(4)(ｱ)(a)による
・
・雨押えを用いない場合
※木造標準仕様書14.3.6(4)(ｱ)(b)による
・
工法
吊子、各部の釘の留付け間隔
・図示による ⊙吊子ピッチ：303

1章 適用区分による風圧力の（・1 ⊙1.15 ・1.3）倍の風圧力に対応した工法

雪止め
・設置する（図示による）
⊙設置しない

・折板葺

<木14.4.2><木表14.3.1>

施工箇所	形式	山高、山ﾋﾟｯﾁによる区分		耐力による区分	材料による区分	厚さ(mm)	軒先面戸板	耐火性能
		山高	山ﾋﾟｯﾁ					
	・重ね形 ・はぜ締め形			（ ）種	※鋼板製 ・		・有り ・無し	・30分 ・無し
	・			・	・			

材料
板及びコイルの種類（ ）
塗膜の耐久性、めっき付着量等の種類及び記号（ ）

断熱材張り
・行う （断熱材の種別： 厚さ(mm)： 防火性能： 時間）
・行わない

タイトフレームを留め付ける下地材

材質	形状	寸法

工法
1章 適用区分による風圧力の（・1 ・1.15 ・1.3）倍の風圧力に対応した工法
耐雪性能に対応した工法
・適用する ・適用しない

⊙粘土瓦葺

<木14.5.2>

施工箇所	種類			役物							大きさ	産地等
	形状による区分	製法による区分	寸法による区分	軒瓦	その瓦	のし瓦	冠瓦	半瓦	雪止め瓦	鬼瓦	巴瓦		
	⊙J形瓦	いぶし瓦	64版	⊙	⊙	⊙	⊙	⊙	⊙	⊙	⊙		国産
	・S形瓦			・	・	・	・	・	・	・	・		
	・F形瓦			・	・	・	・	・	・	・	・		

＊瓦の詳細形状については、沼津御用邸の屋根瓦、及び敷地内遺構調査の出土品を参照すること。
・三州瓦（凍害が生じないもの）
⊙同等品
越前セラミカ 越前瓦いぶし銀
アスカ工業株式会社 いぶし簡略瓦

瓦桟木
材質
※杉 ・
寸法
※木造標準仕様書14.5.2(2)(ｱ)による ⊙排水用切欠W30程度@900
・図示による
防腐・防蟻処理の種類
⊙ 防腐防蟻塗料塗布
棟補強用心材
材質
※杉 ・
寸法
※木造標準仕様書14.5.2(3)による
・図示による
防腐・防蟻処理の種類
⊙ 防腐防蟻塗料塗布

瓦緊結用釘又はねじ

製品規格

種類	材質等	径及び長さ
⊙瓦緊結用釘	ステンレス製	
⊙瓦緊結用ねじ	ステンレス製	

棟補強用金物等

種類	材質等	形状、寸法及び留付け方法
⊙棟補強用金物	ステンレス製又は溶融亜鉛めっき処理を行った鋼製	

工法 <木14.5.3>
1章 適用区分による風圧力の（・1 ⊙1.15 ・1.3）倍の風圧力に対応した工法
瓦の緊結方法等工法
※図示による ⊙ステンレス釘又はステンレスネジによる固定（軒、けらば：3本/枚 平部：2本以上/枚、棟：冠瓦をネジで芯材に緊結）
瓦桟木の留付け工法
※図示による ⊙ステンレス釘又はステンレスネジによる固定
棟の工法
・7寸丸伏せ棟又はF形用冠瓦伏せ棟
⊙のし積み棟
・
面戸、雀口及び葺土の露出する瓦接合部に仕上げを施す場合
・モルタル
⊙瓦葺き用しっくい

・スレート葺

<木14.6.2>

種類	寸法（mm）（全長さ×全幅）	役物 棟	役物 けらば	着色（色調）	備考
・平形		・	・	・無 ・有（ ）	
・波形		・	・	・無 ・有（ ）	

工法 <木14.6.3>
1章 適用区分による風圧力の（・1 ・1.15 ・1.3）倍の風圧力に対応した工法

雪止め
・設置する（図示による）
・設置しない

・アスファルトシングル葺

<木14.7.2>

品質	形状	色調	寸法(mm)	備考

工法 <木14.7.3>
1章 適用区分による風圧力の（・1 ・1.15 ・1.3）倍の風圧力に対応した工法

軒先、けらば等に曲面を設ける場合
※半径500mm以上 ・

雪止め
・設置する（図示による）
・設置しない

⊙とい

といの材料 <木14.8.2、3><木表14.8.1><木表14.8.2>
・金属板（銅板を除く）
種類
・木造標準仕様書14.8.1（ ）
板厚
・
⊙谷どい
種類
・木造標準仕様書14.8.1（ 銅板 ）
板厚
⊙0.4mm
⊙銅板
板厚
※一般部0.35mm、谷どい部0.4mm ⊙軒樋/這樋/呼樋/竪樋（化粧カバー）：0.5mm
⊙銅板の見え掛り部は、酸化緑青処理を行う
⊙硬質塩化ビニル樹脂製 ○ 竪樋芯材
種類（ VP管 ）
外径（ φ100 ）
厚さ（ t6.6 ）
長さ（ L=300mm/L=3000mm ）
とい受金物
材種 ・溶融亜鉛めっきを行った鋼板製 ⊙銅板製
形状 ・市販品（とい径100以下） ⊙25×4.5以上
足金物
材種 ・溶融亜鉛めっきを行った鋼板製 ⊙銅板製

多雪地域
・適用する ⊙適用しない

硬質塩化ビニル製集水器の形状
・図示による ・

硬質塩化ビニル製あんこうの形状
・図示による ・

香山建築研究所
KOHYAMA ATELIER
一級建築士事務所第12399号(有)香山建築研究所 東京都文京区本郷2-12-10UT本郷3F
管理技術者 長谷川祥久（一級建築士第289714号）
一級建築士事務所第12399号(有)香山建築研究所 東京都文京区本郷2-12-10UT本郷3F
意匠主任技術者 松本洋平（一級建築士第367970号）

令和7年度新宿御苑日本館御殿工事
木造特記仕様書（その1-2） A1：— A3：—
環境省新宿御苑管理事務所

15 金属工事

⊙ アルミニウム及び
アルミニウム合金の
表面処理

(14.2.1)(表 14.2.1)

種類	色合い等				施工箇所 （成形板、笠木、建具以外）
・AB-1種					
・AB-2種	・ｱﾝﾊﾞｰ	・ﾌﾞﾛﾝｽﾞ	・ﾌﾞﾗｯｸ系	・ｽﾃﾝｶﾗｰ	
・AC-1種					
・AC-2種	・ｱﾝﾊﾞｰ	・ﾌﾞﾛﾝｽﾞ	・ﾌﾞﾗｯｸ系	・ｽﾃﾝｶﾗｰ	
・BA-1種					
・BA-2種	・ｱﾝﾊﾞｰ	・ﾌﾞﾛﾝｽﾞ	・ﾌﾞﾗｯｸ系	・ｽﾃﾝｶﾗｰ	
・BB-1種					
・BB-2種	・ｱﾝﾊﾞｰ	・ﾌﾞﾛﾝｽﾞ	・ﾌﾞﾗｯｸ系	・ｽﾃﾝｶﾗｰ	
・BC-1種					
・BC-2種	・ｱﾝﾊﾞｰ	・ﾌﾞﾛﾝｽﾞ	・ﾌﾞﾗｯｸ系	・ｽﾃﾝｶﾗｰ	
⊙C種	・				エントランスホール棟外装パネル

色合い等（シルバー、アンバー、ブロンズ、ブラック系、ステンカラー、特注色（　いぶし銀）
陽極酸化皮膜の着色方法
※二次電解着色
・三次電解着色

⊙ 鉄鋼の亜鉛めっき

(14.2.2)(表 14.2.2)

表面処理方法	種別	施工箇所（手すり、タラップ以外）
⊙ 溶融亜鉛めっき	⊙A種	エントランスホール棟　外壁アルミパネル下地金物 樋下地金物　＊りん酸処理
	・C種	
・ 電気亜鉛めっき	・D種 ・E種 ・F種	

⊙溶融亜鉛メッキリン酸処理対象鋼材の厚さは6mm以上とする。

⊙ 軽量鉄骨天井下地

野縁等の種類　(14.4.2～4)(表14.4.1)
屋外
※25形　・19形
屋内
※19形　・25形
屋外の形式及び寸法
野縁受け、つりボルト及びインサートの間隔　・図示による　・
周辺部の端からの間隔　・図示による　・
野縁の間隔　・図示による　・
・つりボルトの間隔が900mmを超える場合
(補強方法　※図示による　・　)
・天井のふところが3.0mを超える場合
(補強方法　※図示による　・　)
・天井下地材における耐震性を考慮した補強
(補強箇所　・図示による　・　)
(補強方法　※図示による　・　)
耐震性能
建築非構造部材の耐震性能に係る特記事項による。
屋外の軒天井、ピロティ天井の工法
1章 適用区分による風圧力の（・1　⊙1.15　・1.3）倍の風圧力に対応した工法

・ 軽量鉄骨壁下地

スタッド、ランナの種類　(14.5.3、4)(表 14.5.1)
※標準仕様書 表14.5.1によるスタッドの高さによる区分に応じた種類
・図示による
・
スタッドの高さが5.0mを超える場合
※図示による　・
出入口及びこれに準ずる開口部の補強
※標準仕様書14.5.4.(5)による
・

⊙ 金属成形板張り

(14.6.2、3)(表 14.2.1)

種別	製法	形状	板幅（mm）	板厚（mm）	表面処理 種別	表面処理 色合い等
⊙アルミニウム	・押出し ・ロール ・プレス ⊙金型鋳造	ｽﾊﾟﾝﾄﾞﾚﾙ形 パネル形	899	5	素地+パフ研磨80＃+スコッチ60＃	いぶし銀

＊パネル厚はt20
同等品：株式会社制作美術研究所　アルミダイキャストパネル
株式会社ミック　アルミ鋳物製品　外装パネル
株式会社北陸アルミニウム株式会社　Vプロアルミキャスト
取付け用下地
※標準仕様書14.4による
・図示による
伸縮調整継手
・設ける
（施工箇所　・図示による　・　）
☞ 設けない
屋外の軒天井、ピロティ天井の工法
1章 適用区分による風圧力の（・1　・1.15　・1.3）倍の風圧力に対応した工法

・ アルミニウム製笠木

種類　(14.7.2、3)(表 14.2.1)(表 14.7.1)
・250形　・300形　・350形
表面処理
種別（　）種
色合等　・標準色（　）　・特注色（　）

⊙ 銅製 飾金物

対象	材料	表面処理	製造方法
釘隠し（六葉）	銅板t2.0	金鍍金	打込み+毛彫/鋳型製造
釘隠し（丸型）	銅板t2.0	煮色仕上	鋳型製造
出隅金物+雨戸回転金物	銅板t2.0	金鍍金	鋳型製造
違棚装飾金具（金物A、金物B、金物C、金物D、筆返し金物）	銅板t2.0	金鍍金	打込み+毛彫
襖装飾金具（引き手、天袋/地袋引き手、装飾A、装飾B、装飾C）	銅板t2.0	金鍍金	打込み+毛彫/鋳型製造

⊙同等品　小西美術工芸社　銅製金物
制作美術研究所　銅製金物
土屋金属工芸　銅製金物

※銅板厚については、監督職員と協議により決定すること。
※金鍍金（電気又は貼り付け工法）仕上げについては、純金99.7%以上の軟質メッキとし、金の厚さは2ミクロン以上とする。
※金鍍金には剥落防止用の塗装を施すこと。
※詳細形状については、敷地内遺構調査の出土品を参照すること。

⊙ 真鍮製 飾金物

対象	材料	表面処理	製造方法
欄干金物（笹金物）	真鍮板t2.0	撥水材	鋳型製造

※真鍮板厚については、監督職員と協議により決定すること。
※詳細形状については、敷地内遺構調査の出土品を参照すること。

16 左官工事

⊙ モルタル塗り

モルタル　(15.3.2、5)
・現場調合材料
⊙既調合材料
既製目地材
⊙設ける
施工箇所（　）　形状（※図示による　・　）
・設けない
床の目地
⊙設ける
目地割り
※2㎡程度（最大目地間隔3m程度）
・
目地の種類
※押し目地
・
・設けない
屋外のタイル張り下地及び屋内の吹抜け部分等のタイル張りの下地モルタル塗り及び下地調整塗材塗りの接着力試験
・適用する　○ 適用しない
防水剤（品質・性能、試験方法は別表による）

・ ラス系下地

ラス系下地　(15.2.4)
・二層下地通気構法
・単層下地通気構法
換気口部の措置　（※公共木造建築工事標準仕様書11.4.3.(2)(ｳ)　・　）
・直張りラスモルタル下地
・直張りラスシートモルタル下地
ラスの材料
種類及び記号　（　）
単位面積当たりの質量（　）
ラスシートの材料
ラス目による区分（※M　・　）
山高、山ピッチ、質量及び溶接区分による区分
（※LS4(建築基準法に基づく耐力壁)　・　）
ステープルの形状及び寸法（　）
リブラス　※L925TS以上
波形ラス　※L1019JS以上
直張りラスシートモルタル下地で建築基準法に基づく耐力壁のラスシートの施工
（　）
合板/セメント、石膏
約5.2kg/ m2、約4.5kg/ m2

⊙ せっこうボード
その他のボード下地

せっこうボード及びせっこうラスボードの種類及び厚さ　(15.2.5)
種類（ ラスボード　）　厚さ（ 7.5　mm）
木質系セメント板の種類及び厚さ
種類（ラスカットボード ）　厚さ（ 9.0　mm）

・ こまい下地

建築基準法に基づく耐力壁の指定（・あり　・なし）　(15.2.6)

・ 木ずり下地

木ずり用小幅板の種類（※すぎ(心去り材)　・　）　(15.2.7)

⊙ 仕上塗材仕上げ

内装仕上げに用いる塗材のホルムアルデヒド放散量　(15.6.2)
※F☆☆☆☆　・
・
仕上塗材の種類
⊙薄付け仕上塗材

種類（呼び名）	防火材料	仕上げの形状 工法
・外装薄塗材Ｓi	・	仕上げの形状及び工法
・可とう形外装薄塗材Ｓi	・	・砂壁状
・外装薄塗材Ｅ	・	・ゆず肌状（・吹付け　・ローラー塗り）
・可とう形外装薄塗材Ｅ	・	・さざ波状
・防水形外装薄塗材Ｅ	・	⊙平たん状
・外装薄塗材Ｓ	・	・凹凸状（・吹付け　・こて塗り）
・内装薄塗材Ｃ	・	・着色骨材砂壁状（・吹付け　・こて塗り）
・内装薄塗材Ｌ	・	⊙ 砂壁状じゅらく
⊙内装薄塗材Ｓi	・	・京壁状じゅらく
⊙内装薄塗材Ｅ	・	
・内装薄塗材W	・	吸放湿性　・適用する　・適用しない

⊙砂壁状じゅらくには、茶根岸砂（天然砂＋岩石の砕砂）

・厚付け仕上塗材

種類（呼び名）	防火材料	仕上げの形状
・外装厚塗材Ｃ	・	仕上げの形状及び工法
・外装厚塗材Ｓi	・	・吹放し　・凸部処理　・平たん状
・外装厚塗材Ｅ	・	・凹凸状　・ひき起こし　・かき落とし
・内装厚塗材Ｃ	・	
・内装厚塗材Ｌ	・	吸放湿性　・適用する　・適用しない
・内装厚塗材Ｇ	・	上塗材　・適用する　・適用しない
・内装厚塗材Ｓi	・	
・内装厚塗材E	・	

・複層仕上塗材

種類（呼び名）	防火材料	仕上げの形状及び工法等
・複層塗材Ｃ E	・	仕上げの形状及び工法
・可とう形複層塗材Ｃ E	・	・ゆず肌状　・凸部処理　・凹凸状
・複層塗材Ｓi	・	
・複層塗材Ｅ	・	耐候性　※耐候形３種　・
・複層塗材Ｒ E	・	上塗材の種類
・防水形複層塗材Ｃ E	・	溶　媒　※水系　・溶剤系　・弱溶剤系
・防水形複層塗材Ｅ	・	樹　脂　※アクリル系　・
・防水形複層塗材Ｒ E	・	外　観　※つやあり　・つやなし　・メタリック

・軽量骨材仕上塗材

種類（呼び名）	防火材料
・吹付用軽量塗材	・
・こて塗用軽量塗材	・

⊙漆喰調塗料

主成分：消石灰
工法　：素地調整（ワイヤーブラシなどによるゴミや汚れを除去。（pH10以下、含水率8%以下
下塗り　1回、上塗り2回
塗装方法：ローラー　♂ 同等品　：関西ペイント　アレスシックイ
：池田コーポレーション　スイス漆喰カルクウォール

・マスチック塗材塗り

種別　(15.7.2)
・A種　・B種

・ロックウール吹付け

ロックウールのホルムアルデヒド放散量　(15.12.2、3)
※F☆☆☆☆
接着剤のホルムアルデヒド放散量
※F☆☆☆☆
仕上げ吹付け厚さ
・図示による
・25㎜

⊙ しっくい塗り

しっくい　(15.10.2～4)
⊙既調合材料　※本漆喰
色しっくい　・適用する　⊙適用しない
⊙同等品　：株式会社あじま左官工芸　漆喰塗り
：庄内左官しっくい仕上
・現場調合材料
下地
・せっこうボード　・せっこうラスボード　・モルタル塗り　・木ずり
・こまい　・下塗りをせっこうプラスターとし上塗りに使用する場合
⊙ ラスカットボード（合板+セメントラス）
既調合しっくいの調合
・せっこうボード下地　※標準仕様書表15.10.1　・
・モルタル塗り下地　※標準仕様書表15.10.2　・
・せっこうラスボード下地　※製造所の仕様による　・
現場調合しっくいの調合及び各層の塗厚
・木ずり下地　※標準仕様書表15.10.3　・
・せっこうプラスター下地、こまい下地　※標準仕様書表15.10.4　・
既調合しっくいの上塗り仕上げ工法
・なで切り仕上げ　・パターン仕上げ

・ こまい壁塗り

のり　(15.11.2～5、7、8)
・土壁用ののり
※つのまた
・ふのり
・ぎんなんそう
・粉末海藻
・
・砂壁用ののり
※ふのり
・つのまた
・こんにゃくのり
・にかわ
・合成高分子系混和剤
・
色土
・土物仕上げに用いる色土の種類（　）
・大津仕上げに用いる色土の種類（　）
色砂の種類
・天然砂と岩石の砕砂
・人工的に着色・製造したもの

下塗りの調合
※標準仕様書表15.11.2
・
塗厚
※標準仕様書表15.11.8による
・建築基準法に基づく耐力壁の指定がある場合（　）
・
こまい壁の工程
※A種　・B種
こまい壁塗りの上塗りとする土物仕上げの工法の種類
・土物仕上げ工法
・水ごね土物1工法
・水ごね土物2工法
・のりさし土物工法
・のりごね土物工法
・砂壁仕上げ工法
・切返し仕上げ工法
こまい壁塗りの上塗りとする大津仕上げの工法の種類
・普通大津仕上げ工法
・大津みがき仕上げ工法

17 建具工事

・ 防火戸

・建具表による　(16.1.3)
・

・ 見本の製作等

建具見本の製作　・行う（建具符号：　）　(16.1.4)
・行わない
建具見本製作の目的等　・
特殊な建具の仮組　・行う（建具符号：　）
・行わない

・ 防犯建物部品

・適用する（・建具表による　・　）　(16.1.6)
・適用しない

⊙ アルミニウム製建具

性能値等　(16.2.2～5) (表14.2.1)（表16.2.1、2)
耐風圧性の等級（⊙　S-2　）
（建具符号　⊙建具表による　・　）
気密性の等級（⊙　A-3　）
（建具符号　⊙建具表による　・　）
水密性の等級（⊙　W-3　）
（建具符号　⊙建具表による　・　）
外部に面する建具の種別

種　別	耐風圧性	気密性	水密性	枠見込み(mm)	施工箇所
・A種	S-4	A-3	W-4	・70 ・100	※ 図示による
・B種	S-5				※ 図示による
・C種	S-6	A-4	W-5	・	※ 図示による
⊙D種	S-2	A-3	W-3	・	⊙AD-1,AD-2,AD-3,AG1,AG2
・E種	S-3			・	※ 図示による

防音ドア・防音サッシ
遮音性の等級（　）
（建具符号：・建具表による　・　）
断熱ドア・断熱サッシ Ⓖ
断熱性の等級（ H-1　）
（建具符号　・建具表による　・　）
材料
ステンレス鋼板
※SUS304、SUS430J1L又はSUS443J1　・
ステンレス製のくつずりの仕上げ
※HL　・

・ 樹脂製建具

形状及び仕上げ
表面処理
外部に面する建具
種別（標準仕様書表14.2.1）
・BB-1　⊙BB-2（着色　・標準色　⊙特注色）
屋内の建具
種別（標準仕様書表14.2.1）
・BC-1　⊙BC-2（着色　・標準色　⊙特注色）
結露水の処理方法
・水貯め式　⊙排水式
工法
水切り板、ぜん板
※図示による　・
木下地の場合の内付け建具
・適用しない　⊙適用する

⊙ 網戸等

(16.2.3)

種類	材質	線径	網目
⊙防虫網	※合成樹脂製 ⊙ガラス繊維入り合成樹脂製 ・ステンレス(SUS316)製	※0.25mm以上 ・	※16～18メッシュ ・
・防鳥網	ステンレス(SUS304)線材	1.5mm	網目寸法15mm

⊙設置箇所
WW-9、WDL-9、WW-10、WDL-10
⊙収納方法　プリーツ式収納
⊙枠材質　アルミ製

・ 樹脂製建具

性能値等　(16.2.5) (16.3.2～5)（表16.3.1～3)
耐風圧性の等級（　）
気密性の等級　（　）
水密性の等級　（　）
外部に面する建具の種別

種　別	耐風圧性	気密性	水密性	枠見込み(mm)	施工箇所
・A種	S-4	A-4	W-4	・	※ 図示による
・B種	S-5		W-5	・	※ 図示による
・C種	S-6			・	※ 図示による
・D種	S-2		W-3	・	※ 図示による
・E種	S-3			・	※ 図示による

防音ドア・防音サッシ
遮音性の等級（・T-1　・T-2 ）
（建具符号　・建具表による　・　）
断熱ドア・断熱サッシ Ⓖ
断熱性の等級（・H-4　・H-5　・H-6　・H-7　・H-8 ）
（建具符号　・建具表による　・　）
外部 に面する建具の日射熱取得性の等級　・
枠の見込み寸法　・建具表による　・
材料
ガラス
※複層ガラス （組合せは建具表による）
・
ステンレス製のくつずりの仕上げ
※HL　・
形状及び仕上げ
表面色　・標準色　・特注色
工法
水切り板、ぜん板　※図示による　・
木下地の場合の内付け建具　・適用しない　・適用する

⊙ 鋼製建具

性能値等　(16.2.2) (16.4.2～4)（16.4.6）(表16.4.2)
簡易気密型ドアセット
・適用する
（建具符号　・建具表による　・　）
⊙適用しない
外部に面する建具の耐風圧性
耐風圧性の等級（・　）
（建具符号　・建具表による　・　）
防音ドア・防音サッシ
遮音性の等級（・　）
（建具符号　・建具表による　・　）
断熱ドア・断熱サッシ Ⓖ
断熱性の等級（　）
（建具符号　・建具表による　・　）
耐震性能
建築非構造部材の耐震性能に係る特記事項による
材料
ステンレス鋼板
※SUS304、SUS430J1L又はSUS443J1　・
ステンレス製のくつずりの仕上げ
※HL　・
形状及び仕上げ
鋼板類の厚さ
※標準仕様書 表16.4.2による
・
使用箇所（　）
標準型鋼製建具の形式及びす法
※建具表による　・

香山建築研究所
KOHYAMA　ATELIER
一級建築士事務所第12399号(有)香山建築研究所　東京都文京区本郷2-12-10UT本郷3F
管理技術者　長谷川祥久（一級建築士第289714号）
一級建築士事務所第12399号(有)香山建築研究所　東京都文京区本郷2-12-10UT本郷3F
意匠主任技術者　松本洋平（一級建築士第367970号）

令和7年度新宿御苑日本館御殿工事
木造特記仕様書（その1-3）　A1 ： ―　A3 ： ―
環境省新宿御苑管理事務所

⊙ 鋼製軽量建具

性能値等 (16.2.2) (16.5.2～4)(16.5.6)(表16.5.1)
簡易気密型ドアセット
・適用する
（建具符号　・建具表による　・　）
・適用しない
防音ドア・防音サッシ
遮音性の等級（・　）
（建具符号　・建具表による　・　）
断熱ドア・断熱サッシ G
断熱性の等級（　）
（建具符号　・建具表による　・　）
耐震性能
建築非構造部材の耐震性能に係る特記事項による
材料
鋼板
・亜鉛めっき鋼板
・ビニル被覆鋼板
・カラー鋼板
・ステンレス鋼板
ステンレス鋼板
※SUS304、SUS430J1L又はSUS443J1
・
ステンレス製のくつずりの仕上げ
※HL　・
形状及び仕上げ
鋼板類の厚さ（mm）
※標準仕様書 表16.5.1による
・
使用箇所（　）
標準型鋼製軽量建具の形式及び寸法
※建具表による　・

⊙ ステンレス製建具

性能値等 (16.2.2)(16.4.2)(16.6.2～5)
簡易気密型ドアセット
・適用する
（建具符号　・建具表による　・　）
・適用しない
外部に面する建具の耐風圧性
耐風圧性の等級　（・　）
（建具符号　・建具表による　・　）
防音ドア・防音サッシ
遮音性の等級（・　）
（建具符号　・建具表による　・　）
断熱ドア・断熱サッシ G
断熱性の等級（　）
（建具符号　・建具表による　・　）
耐震性能
建築非構造部材の耐震性能に係る特記事項による。
材料
ステンレス鋼板
※SUS304、SUS430J1L又はSUS443J1
・
ステンレス製のくつずりの仕上げ
※HL　・
形状及び仕上げ
表面仕上げ
※HL　・鏡面仕上げ　・
工法
ステンレス鋼板の曲げ加工
※普通曲げ　・角出し曲げ　・

⊙ 木製建具

建具材の加工、組立時の含水率 (16.7.2～4)
※A種　・
建物内部の木製建具に使用する表面材及び接着剤のホルムアルデヒド放散量
※F☆☆☆☆　・
⊙フラッシュ戸
表面材のホルムアルデヒド放散量等
※標準仕様書16.7.2(2)(ｲ)(a)による　・
表面材の合板の種類

合板の種類	規格等	備考
⊙普通合板 G	表面の樹種 ⊙スギ/カラマツ/ヒノキ 板面の品質（※広葉樹1等　・　） 接着の程度（⊙1類　・2類）	
⊙天然木 化粧合板 G	樹種名（　ヒノキ、ケヤキ　） 接着の程度（⊙1類　・2類）	
・特殊加工 化粧合板 G	化粧加工の方法 ※プリント ・ポリエステル化粧合板 ・メラミン化粧合板 ・ 接着の程度（・1類　・2類）	
・MDF G		

表面板の厚さ
※表16.7.6による　・
引戸の召合せかまちのいんろう付きの適用
・適用しない　・適用する
⊙かまち戸
かまち樹種（ヒノキ（板目））鏡板樹種　（スギ（板目）(WDG-1～WDG14)
見込み寸法　※36mm　・建具表による　・
⊙ふすま
張りの種別（⊙I型　・II型）
上張り（押入等の裏側以外）
⊙鳥の子
・新鳥の子又はビニル紙程度
縁仕上げ
・生地縁（素地）
⊙塗り縁
・生地縁（ウレタンクリヤー塗装）
見込み寸法　※19.5mm　⊙建具表による　・
・戸ぶすま
表面板の仕上　・建具表による
見込み寸法　※30mm　・建具表による　・
⊙紙張り障子
見込み寸法　※30mm　・建具表による　・

枠、くつずりの材料
・建具表による　⊙ヒノキ（枠）、ヒノキ、レール部は樫埋木（敷居）

⊙ 建具用金物

金物の種類及び見え掛り部の材質等 (16.8.2、3)(表16.8.1～5)
※標準仕様書 表16.8.1により適用は建具表による
・
金属製建具に使用する丁番の枚数及び大きさ
※標準仕様書 表16.8.2による
・建具表による
樹脂製建具に使用する丁番の枚数及び大きさ
※標準仕様書 表16.8.3による
・建具表による
木製建具に使用する丁番の枚数及び大きさ
※標準仕様書 表16.8.4による
・建具表による
木製建具に使用する戸車及びレール
※標準仕様書 表16.8.5による
・建具表による
握り玉及びレバーハンドル、押板類、クレセントの取付け位置
⊙建具表による
・
シリンダ箱錠及びシリンダ本締まり錠（品質・性能、試験方法は別表による）
クローザ類（品質・性能、試験方法は別表による）
⊙鋼製　打ち込み＋毛彫の上金鍍金（御座所、お次の間）
鋳型複製製造（上記以外の部屋）

⊙仕様（襖）鋼製　打出し＋毛彫加工＋金鍍金
⊙形状　⊙図示
⊙同等品　土屋金属工芸　真鍮製金物
制作美術研究所　真鍮製金物

⊙ 鍵

マスターキー (16.8.4)
⊙製作する　・製作しない
鍵の製作本数
※各室3本1組（室名札付き）　・
鍵箱
※有り　・無し

⊙ 自動ドア開閉装置

戸の開閉方式 (16.9.2、3)
⊙建具表による　・
⊙引き戸用駆動装置
性能値
※標準仕様書 表16.9.1　(防錆　※適用する　・適用しない)
・以下による
種類・開閉方式　（　）
耐電圧　（　）
温度上昇　（　）
耐久性（サイクル）　（　）
防錆　（　）
電源　（　）
⊙車椅子使用者用便房出入り口引き戸用駆動装置
性能値
※標準仕様書 表16.9.2　(防錆　※適用する　・適用しない)
・以下による
耐電圧　（　）
温度上昇　（　）
耐久性（サイクル）　（　）
防錆　（　）
電源　（　）
⊙引き戸用検出装置
性能値
※標準仕様書表16.9.3　(防錆　※適用する　・適用しない)
・以下による
耐電圧　（　）
防錆　（　）
防滴　（　）
電源　（　）
引き戸用検出装置の種類　標準仕様書 表16.9.4
・建具表による　⊙　光線反射、電波方式
タッチスイッチの種類
・無線式タッチスイッチ　・光線式タッチスイッチ
車椅子使用者用便房スイッチの種類
・大形押しボタンスイッチ　・非接触スイッチ
凍結防止措置
・行う　⊙行わない

・ 自閉式上吊り引戸装置

性能値等 (16.10.3)（表16.10.1）
※標準仕様書表16.10.1
・以下による
手動開き力　（　）
手動閉じ力　（　）
閉じ速度の調整　（　）
制動区間　（　）
開閉繰返し　（　）
耐衝撃性　（　）

・ 重量シャッター

シャッターの種類 (16.11.2、3)
・管理用シャッター
・外壁用防火シャッター
・屋内用防火シャッター
・防煙シャッター
外壁開口部に設ける重量シャッターの耐風圧強度（　）pa
開閉方式の種類
※電動式（手動併用）　・手動式
安全装置
電動式シャッターの急降下制動装置、急降下停止装置
（設置箇所　・建具表による　・　）
電動式シャッターの障害物感知装置
（設置箇所　・建具表による　・　）
屋内用防火シャッター若しくは防煙シャッターの危害防止装置
（設置箇所　・建具表による　・　）
管理用シャッターのシャッターケース
・設ける　・設けない
スラット及びシャッターケース用鋼板
鋼板の種類
・JIS G 3302（溶融亜鉛めっき鋼板及び鋼帯）
・JIS G 3312（塗装溶融亜鉛めっき鋼板及び鋼帯）
めっきの付着量
※Z12又はF12
・
ガイドレール、まぐさ、雨掛りに用いる座板及び座板のカバー、雨掛りに用いるスイッチボックス類のふたの材質
ステンレス鋼板
※SUS304、SUS430J1L又はSUS443J1
・

・ 軽量シャッター

開閉方式の種類 (16.12.2～4)
※手動式
・電動式（手動併用）
耐風圧強度（　）pa
安全装置
電動シャッターの障害物感知装置
（設置箇所　・建具表による　・　）
スラットの材質の種類
・JIS G 3312（塗装溶融亜鉛めっき鋼板及び鋼帯）
めっきの付着量（※Z06又はF06　・　）
・JIS G 3322（塗装溶融55％アルミニウム－亜鉛合金めっき鋼板及び鋼帯）
めっきの付着量（※AZ90　・　）
スラットの形状
・インターロッキング形
・オーバーラッピング形

・ オーバーヘッドドア

(16.13.2、3)

セクション材料による区分	風圧力による強さの区分	開閉方式による区分	収納形式による区分	ガイドレールの材料
※スチールタイプ ・アルミニウムタイプ ・ファイバーグラスタイプ	・50 ・75 ・100 ・125	※バランス式 ・チェーン式 ・電動式	・スタンダード形 ・ローヘッド形 ・ハイリフト形 ・バーチカル形	※溶融亜鉛めっき鋼板 ・ステンレス鋼板

電動式オーバーヘッドドアの障害物感知装置
（設置箇所　・建具表による　・　）

⊙ガラス

適用は以下によるほか、ガラスの種類、厚さの組み合わせは (9.7)(16.14.2～4)
建具表及び図面による。 (図16.14.1)
⊙フロート板ガラス

フロート板ガラスの品種及び厚さの呼びによる種類	※建具表による　・

・型板ガラス

型板ガラスの厚さによる種類	※建具表による　・

・網入板ガラス及び線入板ガラス

網又は線の形状、板の表面の状態及び厚さの呼びによる種類	※建具表による　・

・合わせガラス

材料板ガラスの種類及び厚さの組合せ並びに合わせガラスの合計厚さ	※建具表による　・
形状による種類	・平面合わせガラス　・曲面合わせガラス
落球衝撃はく離特性及びショットバック衝撃特性による種類	・I類　・II-１類　・II-２類　・III類

⊙強化ガラス

形状による種類、材料板ガラスの種類による名称	※建具表による　・
破片の状態及びショットバック衝撃特性による種類	・I類　・III類

・熱線吸収板ガラス

板ガラスの種類及び厚さによる種類	※建具表による　・
性能による種類	・１種　・２種

・複層ガラス

材料板ガラスの種類及び厚さの組合せ並びに複層ガラスの厚さ	※建具表による　・
断熱性による区分	・Ｔ１・Ｔ２・Ｔ３・Ｔ４・Ｔ５・Ｔ６
日射取得性及び日射遮蔽性による区分	・Ｇ　・Ｓ
乾燥気体の種類	・空気　・アルゴン

・熱線反射ガラス

材料板ガラスの種類及び厚さによる種類	※建具表による　・
日射熱遮へい性による区分	・１種　・２種　・３種
耐久性による区分 (日射熱遮蔽性が２種の場合)	・Ａ種　・Ｂ種

・倍強度ガラス

材料板ガラスの種類及び厚さによる種類	※建具表による　・

⊙くもりガラス　同等品

ガラスの留め材及び溝の大きさ (16.14.2)(9.7)

建具の種類	ガラス留め材の種別	ガラス溝の大きさ(mm)
アルミニウム製	⊙シーリング材 ・グレイジングチャンネル ・	・図示による ※建具製造所の仕様による ・
鋼製及び鋼製軽量	⊙シーリング材 ・	・図示による ※建具製造所の仕様による ・
ステンレス製	・シーリング材 ・	・図示による ※建具製造所の仕様による ・
樹脂製	・グレイジングガスケット ・	・図示による ※建具製造所の仕様による ・

耐震性能
構造体の層間変形に対する追従性
以下の構造体の層間変形角に対して、破損、脱落が生じないよう取り付けられているものとする。
構造体の層間変形角　・1/100
⊙ 1/200

⊙ガラスフィルム

⊙仕様　可視光線　日射透過率　75％以上　透過率80％以上
⊙同等品　3M　防犯フィルム　ULTLA S2200

・ ガラスブロック積み

(16.14.5)

呼び寸法（mm）	厚さ（mm）	色調	目地幅（mm）	伸縮調整目地位置（mm）	防火性能
・160×160	・95 ・				
・200×200	・95 ・				

壁用金属枠及び補強材
※図示による　・
力骨
材質
※ステンレス鋼(SUS304)　・
寸法
※径5.5mm　・
形状
※はしご形状複筋及び単筋　・
化粧目地モルタルの色（・白　・グレー）
シーリングの種類　（・SR-1　・PS-1）

金属製化粧カバー
材質
・ステンレス製　・アルミニウム製　・
寸法
※図示による　・
形状
※図示による　・
木下地の場合のアンカー等の取付け間隔
・図示による　・
目地部の横力骨の納まり
※ガラスブロック製造所の仕様による
・図示による
・
工法
1章 適用区分による風圧力の（・1　・1.15　・1.3）倍の風圧力に対応した工法
・

18 塗装工事

⊙ 材料

屋内で使用する塗料のホルムアルデヒド放散量 (18.1.3)
※F☆☆☆☆　・
防火材料
※屋内の壁、天井仕上げは防火材料とする。
・以下の箇所を除き防火材料とする。
（箇所：　）

⊙ 素地ごしらえ

(18.2.2～7)

下地面等		種別
木部	不透明塗料塗りの場合	※A種　・B種
	透明塗料塗りの場合	※B種　・A種
鉄鋼面（DP以外）		※C種　・A種　・B種
鉄鋼面（DPのみ）		※B種　・A種　・C種
亜鉛めっき鋼面		⊙A種　・B種
モルタル面及びせっこうプラスター面		※B種　・A種
コンクリート面（DP以外）及びALCパネル面		※B種　・A種
押出成形セメント板面		※B種　・A種
コンクリート面（DPのみ）		※A種　・B種
せっこうボード面及びその他ボード面	目地：継目処理工法	※A種　・B種
	目地：継目処理工法以外	※B種　・A種

⊙ 錆止め塗料塗り

(18.3.2、3)

下地面	塗料の種別	錆止め塗料の種別	錆止め塗料塗りの工程
鉄鋼面	SOP	A種	見え掛り：A種 見え隠れ：B種
	DP	C種及びD種	表18.3.4
	EP-G	・A種　※B種	見え掛り：A種 見え隠れ：B種
亜鉛めっき鋼面	SOP	※A種　・B種	鋼製建具等：A種 上記以外：B種
	DP	B種	表18.3.6
	EP-G	C種	鋼製建具等：C種 上記以外：B種

香山建築研究所
KOHYAMA　ATELIER
一級建築士事務所第12399号(有)香山建築研究所　東京都文京区本郷2-12-10UT本郷3F
管理技術者　長谷川祥久（一級建築士第289714号）
一級建築士事務所第12399号(有)香山建築研究所　東京都文京区本郷2-12-10UT本郷3F
意匠主任技術者　松本洋平（一級建築士第367970号）

令和7年度新宿御苑日本館御殿工事
木造特記仕様書（その1-4）　A1：－　A3：－
環境省新宿御苑管理事務所

⊙ 塗装

(18.4.1～18.12.2)

塗装		種別	塗料の種類	高日射反射率塗料 G
⊙合成樹脂調合ペイント塗り(SOP)	木部屋外	※A種　・B種	－	－
	木部屋内	※B種　・A種		－
	鉄鋼面	※B種　・A種		・適用する
	亜鉛めっき鋼面	－		・適用する
⊙クリヤラッカー塗り(CL)		※B種　・A種	－	－
・アクリル樹脂系非水分散形塗料塗り(NAD)		※B種　・A種	－	－
⊙耐候性塗料塗り(DP)	鉄鋼面	－	上塗り塗料の等級(　)級	・適用する
	亜鉛めっき鋼面	－	上塗り塗料の等級(1)級	－
	ｺﾝｸﾘｰﾄ面 押出成形ｾﾒﾝﾄ板面	・A種　・B種 ・C種	－	－
・つや有合成樹脂エマルションペイント塗り(EP-G)	ｺﾝｸﾘｰﾄ面 ﾓﾙﾀﾙ面 せっこうﾌﾞﾗｽﾀｰ面 せっこうﾎﾞｰﾄﾞ面 その他ﾎﾞｰﾄﾞ面等	※B種　・A種	－	－
	屋内の木部 鉄鋼面 亜鉛めっき鋼面	※B種　・A種	－	－
⊙合成樹脂エマルションペイント塗り(EP)		※B種　・A種	－	－
⊙ウレタン樹脂ワニス塗り(UC)		※B種　・A種	－	－
・ステイン塗り		・ピグメントステイン塗り ・オイルステイン塗り(OS)	－	－
⊙木材保護塗料塗り(WP)		※B種　・A種	－	－

WP同等品（外部）：
池田コーポレーションリボス タヤ　クリヤ
WP同等品（内部）：
池田コーポレーション　リボス クノス クリヤ

高日射反射率塗装 Gを適用する場合の適用箇所は屋上、屋根面の金属面とする。
クリヤラッカー塗り A種の工程2の適用
・適用しない
・適用する(着色剤：・溶剤系着色剤　・油性染料着色剤)
ウレタン樹脂ワニス塗りの工程1の着色の適用
・適用する
・適用しない
オイルステン塗りの工程等
※製造所の仕様による

19 内装工事

⊙ 接着剤

ビニル床シート、ビニル床タイル、ゴム床タイル用接着剤のホルムアルデヒド放散量　(19.2.2)
※F☆☆☆☆　・

施工箇所の下地がセメント系下地及び木質系下地以外の場合の接着剤の種別
・図示による　・

・ 下地の工法

標準仕様書19.2.3(1)～(3)以外の下地の工法　(19.2.3)
・図示による　・

⊙ ビニル床シート G

(19.2.2、3)

種類の記号	色柄	厚さ（mm）	備考
※FS(複層ﾋﾞﾆﾙ床ｼｰﾄ) ・	・無地 ・マーブル柄 ⊙柄物	※2.0 ・	⊙防滑抗菌仕様

⊙同等品：東リ株式会社　消臭NSトワレNW

接合部の処理
※熱溶接工法　・

・ ビニル床タイル G

(19.2.2)

種類の記号	色柄	寸法（mm）	厚さ（mm）	備考
※ KT　(ｺﾝﾎﾟｼｼｮﾝﾋﾞﾆﾙ床ﾀｲﾙ) ・ TT　(単層ﾋﾞﾆﾙ床ﾀｲﾙ) ・ FT　(複層ﾋﾞﾆﾙ床ﾀｲﾙ) ・ FOA(置敷きﾋﾞﾆﾙ床ﾀｲﾙ) ・ FOB(薄型置敷きﾋﾞﾆﾙ床ﾀｲﾙ)	・無地 ・柄物	・300×300 ・450×450 ・500×500 ・	※2.0 ・2.5 ・3.0 ・	

⊙ 特殊機能床材

(19.2.2)

シート種別	厚さ、寸法、形状	性能	種類
・帯電防止床シート	(mm)		
・帯電防止床タイル	×　(mm)		
⊙視覚障害者用床タイル	t6　300 × 300 (mm)	視覚障害者誘導ブロック等の突起の形状・寸法及びその配列はJIS T 9251による	ステンレス鋲
・耐動荷重性床シート	(mm)		
・防滑性床シート	(mm)		
・防滑性床タイル	×　(mm)		

⊙ ビニル幅木

(19.2.2)

材質の種類
⊙軟質　・硬質
高さ(mm)
※60　・75　・100
厚さ(mm)
※1.5以上　・

・ ゴム床タイル

(19.2.2)

種類
・単層品　・積層品
色柄（　　）
厚さ(mm)
・3.0　・4.5　・6.0　・9.0
寸法(mm)（　　×　　）

⊙ カーペット敷き G

⊙ 織じゅうたん

(19.3.2、3)(表19.3.1)(表19.3.2)

織り方	パイル形状
⊙ウィルトンカーペット ・ダブルフェースカーペット ・アキスミンスターカーペット	⊙カットパイル ・ループパイル ⊙カット/ループパイル

⊙タフテッドカーペット

パイル形状	ﾊﾟｲﾙ長さ（mm）	工法	帯電性	備考
⊙カットパイル	・5～7　⊙12	・全面接着工法 ・ｸﾞﾘｯﾊﾟｰ工法 ・下記による	⊙適用する ・適用しない	
・ループパイル	・4～6　・			
・カット、ループ併用				

下敷き材(グリッパー工法の場合)
※反毛フェルト（JIS L 3204）の第2種2号　呼び厚さ 8mm
・

タフテッドカーペット用接着剤のホルムアルデヒド放散量
※F☆☆☆☆　・

⊙カーペット区分、仕様

⊙絨毯A:特注カーペット（畳下地）
製法：ハンドタフテッドカーペット
糸番手：2.6番単糸　4本引き揃え
組成：ウール100%　※原産地：英国羊毛100%
パイル長：12mm　カットパイル
全厚：15mm
色数：12色以内
模様：日光田母沢御用邸御食堂程度
パイル重量：3,500g/㎡
※周囲裏面綿布折り返しＲＵＧ置き敷き
※裏面周囲に滑り止めメッシュ（GS-300）敷きとする。
特殊加工：カービング（全体の20%）

⊙絨毯B: 特注カーペット（畳下地）
シングルウィルトン3越織
打ち込み：8羽×8段
織巾：3.64 m
パイル長：5 mmカット／5 mmループ
全厚：7 mm
色数：無地織　縞だて2色柄（特注色対応）
組成：ウール100 %
※イベリコ有色ウール100 2/10×4本引き揃え
※ベース：スペイン産有色メリノウール混
ライン：スペイン産メリノウール混
糸目付重量：2.0 Kg/㎡
※周囲オーバーロック加工の上、置き敷き
※裏面周囲に滑り止めメッシュ（GS-300）敷きとする。

⊙絨毯C: 特注カーペット(木合板下地)
シングルウィルトン3越織
打ち込み：8羽×8段
織巾：3.64 m
パイル長：8 mmカット
全厚：11 mm
色数：1色（特注色対応）
組成：ウール100%
※英国羊毛100%
糸目付重量：2.6 Kg/㎡
工法：フェルトグリッパー工法
アンダーレイ：ハイクッション 8mm

・タイルカーペット

パイルの形状	種類	施工箇所	寸法（mm）	総厚さ（mm）	備考
※ループパイル	※第一種 ・第二種		※500×500 ・	※6.5 ・	
・カットパイル	・第一種 ・第二種		※500×500 ・	※6.5 ・	
・カット・ループ併用	・第一種 ・第二種		※500×500 ・	※6.5 ・	

タイルカーペット用接着剤のホルムアルデヒド放散量
※F☆☆☆☆　・

タイルカーペットの敷き方
平場
※市松敷き
・模様流し
・
階段部分
※模様流し
・市松敷き
・
見切り、押え金物
材質（　　）
種類（　　）
形状等
※図による　・

・ 合成樹脂塗床

(19.4.2、3)(表19.4.4、5)

種別	施工箇所	工法	仕上げの種類
・厚膜型塗床材 弾性ｳﾚﾀﾝ樹脂系塗床			※平滑仕上げ ・防滑仕上げ ・つや消し仕上げ
・厚膜型塗床材 ｴﾎﾟｷｼ樹脂系塗床		・薄膜流しのべ工法 ・厚膜流しのべ工法 ・樹脂ﾓﾙﾀﾙ工法	・平滑仕上げ ・防滑仕上げ
・薄膜型塗床材 ｴﾎﾟｷｼ樹脂系塗床			※平滑仕上げ
・ｱｸﾘﾙ樹脂塗り床材 (防塵塗料塗り)		※製造所の指定による	工程 塗布量（kg/㎡） ※0.25kg/㎡以上 表面仕上げ ※平滑　・防滑 溶剤 ※水性　・溶剤系　・無溶剤系 仕上げ色 ※標準色　・

塗床材のホルムルデヒド放散量
※F☆☆☆☆　・

⊙ フローリング張り G

フローリングのホルムアルデヒドの放散量等　(19.5.2～5)(表19.5.1～6)
※標準仕様書19.5.2(2)による
・

各工法に使用する接着剤のホルムアルデヒドの放散量
※F☆☆☆☆　・

単層フローリング
⊙ フローリングボード1等

工法	⊙釘留め工法（・根太張り　⊙直張り）　・接着工法
樹種	※ なら　⊙ヒノキ圧密材
厚さ、大きさ	※標準仕様書 表19.5.1による　⊙板厚15mm、板幅120、L900
仕上塗装	※ 塗装品　・無塗装品
間伐材等の適用	⊙適用する　・適用しない

⊙ヒノキ圧密フローリング同等品　後藤木材株式会社　圧密無垢フローリング
飛騨産業　HIDA 圧縮材
天龍プレパーク　タフフローリング

・ フローリングブロック 1 等

工法	※接着工法
樹種	※ なら　・
厚さ、大きさ	※標準仕様書 表19.5.1による
仕上塗装	※ 塗装品　・無塗装品
間伐材等の適用	・適用する　・適用しない

複合フローリング
・ 天然木化粧複合フローリング

工法	・釘留め工法（・根太張り　・直張り）　・接着工法
樹種	※ なら　・
種別(表19.5.2)	・A種　・B種　・C種
仕上塗装	※ 塗装品　・無塗装品
間伐材等の適用	・適用する　・適用しない

接着工法の場合の不陸緩和材　※合成樹脂発泡シート　・
現場塗装仕上げ　・行う（施工箇所　　）
※ウレタン樹脂ワニス塗り
・オイルステインの上、ﾜｯｸｽ塗り
・生地のままﾜｯｸｽ塗り

⊙ 畳敷き

種別　（A種：御座所、お次の間、その他：D種）　(19.6.2)(表 19.6.1)
⊙A種　・B種　・C種　⊙D種（畳床：・KT-I　⊙KT-II　・KT-III　・KT-K　・KT-N）
下地の種類
⊙標準仕様書 表12.6.1による床組
・ポリスチレンフォーム床下地（ノンフロン G
・
畳表及び畳床はホルムアルデヒド、アセトアルデヒド及びスチレンを発散しないか、発散が極めて少ない材料を使用したものとする。
衝撃緩和型畳（畳表：・C1　・C2）

⊙せっこうボードその他のボード張り

MDF及びパーティクルボードのホルムアルデヒド放散量　(19.7.2、3)(表 19.7.1)
※F☆☆☆☆　・
合板のホルムアルデヒド放散量
※標準仕様書 19.7.2(2)(ｲ)の(a)～(d)のいずれか
・
接着剤のホルムアルデヒド放散量
※F☆☆☆☆　・

木質系セメント板 G

種　類	厚さ(mm)、規格等
・ 硬質(HW)	・ 15　・ 20　・ 25　・
・ 中質(MW)	・ 15　・ 20　・ 25　・
・ 普通(NW)	・ 15　・ 20　・ 25　・

木片セメント板 G

種　類	厚さ(mm)、規格等
・ 硬質(HF)	・ 12　・ 15　・ 18　・ 21　・
・ 普通(NF)	・ 30　・

繊維強化セメント板

種　類	厚さ(mm)、規格等
⊙ けい酸カルシウム板	普通ボード0.8FK　タイプ２（無石綿）　⊙ 6　・ 8
⊙ 化粧けい酸カルシウム板	普通ボード0.8FK　タイプ２（無石綿）　⊙ 6　・ 8 表面への化粧張り等の加工　⊙アクリル樹脂系焼付け ・

火山性ガラス質複層板

種　類	厚さ(mm)、規格等
・ 火山性ガラス質複層板	・ 図示による

繊維板 G

種　類	厚さ(mm)、規格等
ハードボード（素地） スタンダードボード（無処理）	・素地ﾊｰﾄﾞﾎﾞｰﾄﾞ（・未研磨板(RN)　・研磨板(RS)） ・内装用化粧ﾊｰﾄﾞﾎﾞｰﾄ(DI) 厚さ ・2.5　・3.5　・5　・7
テンパードボード（処理）	・素地ﾊｰﾄﾞﾎﾞｰﾄﾞ（・未研磨板(RN)　・研磨板(RS)） ・外装用化粧ﾊｰﾄﾞﾎﾞｰﾄ(DE) 厚さ ・2.5　・3.5　・5　・7
・ ミディアムデンシティファイバーボード(MDF) G	・ 3　・ 7　・ 9　・ 12
・ インシュレーションボード G	A級（・ 天井仕上げ　・ 内装仕上げ　・　） ・ 9　・ 12　・ 15　・ 18

パーティクルボード G

種　類	厚さ(mm)、規格等
・ 単板張りパーティクルボード	・ 無研磨板（VN）・ 研磨板　（VS） ・ 10　・ 12　・ 15　・ 18
・ 化粧パーティクルボード	・ 単板ｵｰﾊﾞｰﾚｲ(DV) ・ﾌﾟﾗｽﾁｯｸｵｰﾊﾞｰﾚｲ(DO) ・ 塗装 (DC) ・ 10（難燃）・ 12（難燃）・

・ 壁紙張り

吸音材料

種　類	厚さ(mm)、規格等
⊙ ロックウール化粧吸音板(DR)	⊙ フラットタイプ （⊙9 (不燃) 12　(不燃)　） ・ 凹凸タイプ （・12 (不燃)・15 (不燃)・　）
・ ロックウール吸音ﾎﾞｰﾄﾞ1号	・ 25　・
⊙ グラスウール吸音ﾎﾞｰﾄﾞ32K	・ 25(ガラスクロス包)　⊙45

せっこうボード製品

種　類	厚さ(mm)、規格等
⊙ せっこうボード (GB-R)	⊙12.5 (不燃)　・ 15 (不燃)
・ 不燃積層せっこうボード(GB-NC)	9.5 (不燃)　・ 化粧無（下地張り用） ・ 化粧有（トラバーチン模様）
⊙ シージングせっこうボード (GB-S)	⊙12.5 （※ 不燃　・ 準不燃）・ 15（不燃）
・ 強化せっこうボード (GB-F)	・ 12.5 （不燃）　・ 15 （不燃）
・ せっこうラスボード (GB-L)	9.5
・ 化粧せっこうボード(GB-D)	・木目　12.5（不燃）幅 440mm 程度 模様（・柾目　・板目）　専用下地材有り ・ﾄﾗﾊﾞｰﾁﾝ模様　9.5（準不燃）

⊙ラスボード　（同等品）：　吉野石膏株式会社　ニューラスボード t7.5mm
⊙ラスカットボード　（同等品）：　株式会社ノダ　ラスカットボード　LC-369 t9.0mm

合板 G

種　類	厚さ(mm)、規格等
⊙ 普通合板	表面の樹種　針葉樹 生地、透明塗料塗り (※ラワン合板程度 ・　) 不透明塗料塗り（※しな合板程度 ・　） 板面の品質　・B 厚さ(mm)　※図示による　⊙12mm、15mm 防虫処理　・行う　・行わない
⊙ 天然木化粧合板	化粧板の樹種名　⊙ スギ ケヤキ ヒノキ 厚さ(mm)　※図示による　⊙6mm 防虫処理　・行う　・行わない
・ 特殊加工化粧合板	化粧加工の方法 ・ｵｰﾊﾞｰﾚｲ・ﾌﾟﾘﾝﾄ・塗装 表面性能　・　(タイプ) 厚さ(mm)　※図示による　・ 防虫処理　・行う　・行わない

化粧板

⊙ メラミン樹脂化粧板	JIS K 6903 による　（※ 1.2　・　）
・ ポリエステル樹脂化粧板	

⊙ 同等品：アイカ工業　セラール

天井のボード類(ロックウール吸音板を除く)の重ね張りを行う場合
※図示による　・
合板類の張付け
⊙A種　・B種　・
せっこうボードの目地工法等
目地工法の種類　※仕上表による

突付け工法のエッジの種類	⊙ベベルエッジ　・スクェアエッジ
目透かし工法のエッジの種類	⊙ベベルエッジ　・スクェアエッジ

ホルムアルデヒド放散量　(19.8.2、3)
※F☆☆☆☆　・

施工箇所	壁紙の種類						防火性能	備考
	紙	繊維	塩化ビニル	プラスチック	無機質	その他		
	・	・	・	・	・	・	・不燃・準不燃・難燃	
	・	・	・	・	・	・	・不燃・準不燃・難燃	
	・	・	・	・	・	・	・不燃・準不燃・難燃	
	・	・	・	・	・	・	・不燃・準不燃・難燃	

モルタル及びせっこうプラスター面の素地ごしらえの種別
※B種　・A種
コンクリート面の素地ごしらえの種別
※B種　・A種
せっこうボード面の素地ごしらえの種別
※B種　・A種

・ 断熱材 G

フェノールフォーム断熱材、保温材又は接着剤のホルムアルデヒド放散量　(19.9.2～4)
※F☆☆☆☆　・
開口部等補修のための張付け用の接着剤のホルムアルデヒド放散量
※F☆☆☆☆　・

※断熱材打込み工法

種類	厚さ（mm）	施工箇所
・ビーズ法ポリスチレンフォーム保温板 (・　)	・	
・押出法ポリスチレンフォーム断熱材（スキン層なし） (・2種bA　・3種bA　・3種bC　・3種bD)	・	
・硬質ウレタンフォーム断熱材	・	
・フェノールフォーム断熱材	・	

・断熱材現場発泡工法
断熱材の種類
・A種1　・A種1H　・
吹付け厚さ（mm）
・30mm
施工箇所
・図示による　・
(品質・性能、試験方法は別表による)

香山建築研究所
KOHYAMA　ATELIER
一級建築士事務所第12399号(有)香山建築研究所　東京都文京区本郷2-12-10UT本郷3F
管理技術者　長谷川祥久（一級建築士第289714号）
一級建築士事務所第12399号(有)香山建築研究所　東京都文京区本郷2-12-10UT本郷3F
意匠主任技術者　松本洋平（一級建築士第367970号）

20の1 断熱・防露 ユニット及びその他の工事

⊙ 断熱・防露工事

材料 <20.2.2>

断熱材のホルムアルデヒド放散量

※F☆☆☆☆ ・

⊙ 断熱材 G

断熱材の種類		規格番号	厚さ又は密度等
分類	材料名		
○フェルト状断熱材	⊙グラスウール	⊙JIS A 9521	24kg/m³,45,60,90mm 32kg/m³,45mm
⊙ボード状断熱材	・グラスウール		
	⊙ロックウール		10mm
	・ビーズ法ポリスチレンフォーム		
	⊙押出法ポリスチレンフォーム		50mm
	・硬質ウレタンフォーム		
	・ポリエチレンフォーム		
	⊙フェノールフォーム 1種2号C		45mm、60mm
	・インシュレーションファイバー		
・ばら状断熱材	・グラスウール	・JIS A 9523	
	・ロックウール		
	・セルローズファイバー		
・現場発泡断熱材	⊙吹付硬質ウレタンフォームA種1又はA種1H（難燃性を有するもの）	⊙JIS A 9526	

⊙現場発泡断熱材（品質・性能、試験方法は別表による）

施工箇所

※図示による ・

⊙断熱材現場発泡工法

断熱の種類

⊙A種1又はA種1H ・

吹付け厚さ（mm）

・20 ⊙25 ・30 ・

施工箇所

⊙図示による ・

⊙防湿材

種類

木造標準仕様書20.2.2(2)による

⊙(a) ・(b) ・(c)

⊙アルミ付き

厚さ

・図示による ⊙ 0.2mm

施工箇所

⊙図示による ・

⊙気密材

種類

木造標準仕様書20.2.2(3)による

・(a) ・(b) ・(c) ・(d) ・(e) ・(f) ・(g)

厚さ

・図示による ⊙ 0.2mm

施工箇所

⊙図示による ・

・防風材

種類

※JIS A 6111に基づく透湿防水シートB

・

厚さ

・図示による ・

施工箇所

・図示による ・

断熱材及び防湿層の施工 <20.2.4>

⊙充填断熱工法

・外張断熱工法

防蟻処理

・行う（適用箇所： ）（処理の種類： ）

・行わない

・防湿層の施工

・省略する

各部位の工法 <20.2.5>

※木造標準仕様書20.2.5(ｱ)から(ｺ)までによる

・

・サイディング工事

・窯業系サイディング工事 <20.3.2>

サイディング

種類	形状	働き長さ・働き幅	厚さ (mm)	表面仕上げ	耐凍害性能	防火・耐火性能

通気胴縁

樹種名 ※杉 ・

・防腐処理種類（ ）

施工

張り方

・縦張り工法 ・横張り工法

換気口部の防水措置

※木造標準仕様書20.3.2(3)(ｱ)(c)①から④による

・図示による

現場塗装用サイディングの下地処理及び仕上げ

・

・複合金属サイディング工事 <20.3.3>

サイディング

種類	形状	有効幅 (mm)	長さ (mm)	厚さ (mm)	表面材・しん材の種別	防火・耐火性能

通気胴縁

樹種名 ※杉 ・

・防腐処理種類（ ）

施工

張り方

・縦張り工法 ・横張り工法

換気口部の防水措置

※木造標準仕様書20.3.2(3)(ｱ)(c)①から④による

・図示による

・ALCパネル（薄形パネル）工事

薄形パネルの区分 <20.4.2><20.4.3>

形状による区分	表面加工の有無による区分	厚さ(mm)	幅(mm)	長さ(mm)
・一般パネル	・平パネル ・意匠パネル	・	・	・
・コーナーパネル	・平パネル ・意匠パネル	・	・	・

通気胴縁

樹種名 ※杉 ・

・防腐処理種類（ ）

施工

パネルの構法

・通気構法 ・直張り構法

パネルの取付け

・横張り工法 ・縦張り構法

20の2 ユニット及びその他の工事

・フリーアクセスフロア (20.2.2)

施工箇所	構法	寸法（mm）	高さ(mm)	耐震性能	所定荷重	表面仕上材	備考
	・置敷式 ・支柱 調整式	・500×500 ・		・1.0G ・0.6G	・3,000N ・5,000N ・	・帯電防止床ﾀｲﾙ ・ﾀｲﾙｶｰﾍﾟｯﾄ ・	

寸法精度

※標準仕様書20.2.2(2)(ｵ)(a)～(c)による

・以下による

パネルの長さの寸法精度

（ ）

パネルの平面形状（角度）の寸法精度

（ ）

フリーアクセスフロアの高さの寸法精度

（ ）

帯電防止性能

・評価値（U）≧0.6以上

・評価値（U）≧1.2以上

感電防止性能

漏えい抵抗（R）≧1×10^6Ω

(品質・性能、試験方法は別表による)

・可動間仕切 (20.2.3)

構造形式による種類	構成基材の種類		パネル表面仕上げ	遮音性 (dB/500Hz)	防火性能
	ｽﾀｯﾄﾞ	ﾊﾟﾈﾙ			
・スタッド式(内蔵) ・スタッド式(露出) ・スタッドパネル式 ・パネル式			・ﾒﾗﾐﾝ樹脂焼付又はｱｸﾘﾙ樹脂焼付 ・壁紙張り ・	・0 ・12 ・20 ・28 ・36	・不燃

パネル内に取付ける建具

・有り（※図示による ・ ）

・無し

パネル内に取り付ける建具のドアクローザー、丁番、錠前、上げ落としは、標準仕様書16章8節の建具用金物に対応する材質とする。

表面仕上材を壁紙張りとする場合の品質、性能は標準仕様書19章による。

パネル材料のホルムアルデヒド放出量

※F☆☆☆☆ ・

・移動間仕切 (20.2.4)

走行方向	操作方法による種類	パネル圧接装置の操作方法	総厚さ (mm)	パネル表面材 材質	パネル表面材 仕上げ	遮音性 (dB/500Hz)
・平行方向 移動式 ・二方向 移動式	・手動式 ・電動式 ・部分電動式	・ﾌﾟｯｼｭ式 ・ﾊﾝﾄﾞﾙ式 ・		・鋼板 ・	・焼付塗装 ・壁紙張り ・	・36未満 ・36以上

パネル表面仕上げ材の壁紙張りの品質、性能は標準仕様書19章による。

ハンガーレールの取付け下地の補強

※取付け全重量の5倍以上の荷重に対して、使用上支障のない耐力及び変形量となるように補強する

・図示による

パネルをランナーに取り付ける部品

※ランナーに加わる重量の5倍以上の荷重に耐えられるもの

・

ハンガーレール及びランナー

※パネル重量の5倍の荷重を、パネル１枚に使用するランナー数で除した値に対して、耐力及び変形量が使用上支障のないもの

(品質・性能は別表による)

・

・トイレブース (20.2.5)

表面材の材料	脚部 種類	ドアエッジ 材質	ドアエッジ 形状
・メラミン樹脂系化粧板 ・ポリエステル樹脂系化粧板 ・	※幅木タイプ ・	※製造所の仕様による ・アルミニウム製 ・ステンレス製 ・表面材と同材	・標準 ・Rタイプ

(品質・性能、試験方法は別表による)

⊙ 手すり

材料の種類及び仕上げ (20.2.6)

・SUS304 表面処理 ※HL程度 ・

・鋼製 表面処理 溶融亜鉛めっき（※標準仕様書 表14.2.2による種別（ 種））

・アルミニウム 表面処理（※標準仕様書 表14.2.1による種別（ 種））

色合等 ・標準色（ ） ・特注色（ ）

手すりの握り部分

材種	表面仕上げ	直径(mm)	取付箇所	備考
⊙集成材 （材種： ヒノキ ）	⊙クリアラッカー ・	・30程度 ・35程度 ⊙38程度	内部階段1 内部スロープ2	
・ビニル製ハンドレール		・30程度 ・35程度 ・45程度		
⊙ステンレス	⊙HL	⊙30程度	内部中央ｴﾝﾄﾗﾝｽ	

・階段滑り止め

材種 (20.2.7)

・ステンレス製

・黄銅製押出型材

・アルミニウム製押出型材

・

形状

※タイヤ型(タイヤの材質：ゴム又は合成樹脂合等)

・タイヤレス型 ・周辺仕上げ材との明度差30%以上

端部の形状

・フラットエンドあり

・フラットエンドなし

寸法(幅)

・35㎜程度 ・40㎜程度 ・50㎜程度

取付け工法

※接着工法

・埋込み工法

・黒板及びホワイトボード G

・黒板 (20.2.9)

区分

※焼き付け ・

種類

・鋼製黒板

・ほうろう黒板

・

色

※緑 ・

・ホワイトボード

⊙ 鏡 (20.2.10)

取付け箇所（日本館：WC1、WC2、多機能トイレ ~~（付属棟：WC1、WC2、多機能トイレ）~~

寸法（mm）

⊙図示による ・

厚さ（mm）

※5 ・

⊙四方見切り：SUS-FB t3 HL 同等品 リクシル 防錆化粧鏡 KF-4560A

TOTO 化粧鏡（耐食鏡）角型 YM4560F

⊙ 表示 (20.2.11)

衝突防止表示

⊙設置場所 ※図示による ⊙AD-1,AD-2,AD-3のガラス面FL+900付近

形状・寸法（・30φ ⊙ 円形φ20×4@900 ）

材質 （ ◎ ステンレス製 ・塩ビシート ）

・設置しない

誘導標識、非常用進入口等の表示

※消防法に適合する市販品 ・

室名札、ピクトグラフ、案内板等の形状、寸法、材質、色、書体、印刷等の種別、取付け形式等(案内用図記号はJIS Z 8210による)

※図示による

・タラップ

材質及び仕上げ (20.2.12)

・SUS304（スリップ止め加工 ※あり ・なし ）

・鋼製 表面処理 溶融亜鉛めっき

（※標準仕様書表 14.2.2による種別（※C種 ・ 種））

・煙突ライニング

適用安全使用温度 (20.2.13)

・

工法

※鋼製ユニット煙突(煙突用成形ライニング材)

・

・ブラインド (20.2.14)

形式	操作方法	操作方法の種類	ｽﾗｯﾄの種類	ｽﾗｯﾄ幅	ﾎﾞｯｸｽ・ﾚｰﾙの材種	幅・高さ取付箇所
・横形	・手動	※ギヤ式 ・ｺｰﾄﾞ式 ・操作棒式	※ｱﾙﾐﾆｳﾑ合金製 G ・	※25 ・	※鋼製 ・	・図示による ・
	・電動	―				
・縦形	・手動	※2本操作ｺｰﾄﾞ式 ・1本操作ｺｰﾄﾞ式	・ｱﾙﾐｽﾗｯﾄ ・ｸﾛｽｽﾗｯﾄ	・80 ・100	※ｱﾙﾐﾆｳﾑ合金製 ・	・図示による ・
	・電動	―				

縦型ブラインドのスラットの材質

・アルミスラット 焼付け塗装仕上げ

・クロススラット 消防法で定める防炎性能の表示がある特殊樹脂加工

ポリエステル繊維又は植物を原料とする合成繊維を使用した製品を使用する場合はG とする

・ロールスクリーン (20.2.15)

操作方法	スクリーンの材種	その他の材料	幅・高さ取付箇所	品質等
・スプリング式 ・コード式 ・電動式	・ガラス繊維製 ・合成・天然繊維製	※製造所の仕様	・図示による ・	・

スクリーンの仕様

消防法で定める防炎性能の表示があるもの

ポリエステル繊維又は植物を原料とする合成繊維を使用した製品を使用する場合はG とする

・カーテン (20.2.16)

形式		開閉操作	ひだの種類	生地の種別、品質、特殊加工等	取付け箇所	備考
・ｼﾝｸﾞﾙ ・ﾀﾞﾌﾞﾙ	・片引き ・引分け	・手引き ・ひも引き ・電動	・つまみひだ ・箱ひだ、片ひだ ・ﾌﾟﾚｰﾝひだ		・図示による ・	
						（暗幕）

生地の仕様

消防法で定める防炎性能の表示があるもの

ポリエステル繊維又は植物を原料とする合成繊維を使用した製品を使用する場合はG とする

暗幕用カーテンの両端、上部及び召合せの重なり

※300mm以上

・

・カーテンレール

材料による区分 (20.2.16)

※アルミニウム及びアルミニウム合金の押出し成型材

・ステンレス製

強さによる区分

※10-90 ・

仕上げ

※アルマイト ・

形状

※角形 ・

・ブラインドボックス及びカーテンボックス

溝幅×深さ（mm）

・90×150 ・120×80

・120×150 ・150×80

・図示による

材種

・集成材（仕上げ： ）

・アルミニウム製 押出し型材（市販品）

標準仕様書表14.2.1による種別

・BC-1 ・BC-2 ・

色合い

・標準色（ ） ・特注色（ ）

・鋼製（仕上げ： ）

⊙ 天井点検口

材種	寸法	形式		外枠	内枠
※ アルミニウム製 ・	⊙450×450 ・600×600 ・	⊙一般形	・屋内外用 ⊙屋内用	・額縁タイプ ⊙目地タイプ	・額縁タイプ ⊙目地タイプ
		・気密形			

(品質・性能、試験方法は別表による)

⊙点検口仕上材：天井仕上同材

⊙ 床点検口

材種	寸法	形式		備考
・アルミニウム製 ⊙ステンレス製 ・樹脂製	・450×450 ⊙600×600 ・	・一般形 ・密閉形	⊙屋内外用 ・屋内用	⊙鍵付き

密閉形とは、ボルト、ナット等メカニカル構造にパッキンを装着したものとする。

(品質・性能、試験方法は別表による)

⊙ 同等品 カネソウ MSEM-M-D

・くつふきマット

材種	受け枠	備考
・塩化ビニル又はゴム製 ・硬質アルミニウム合金製 製ステンレス鋼（SUS304） ・	・ステンレス鋼（SUS304） ・硬質アルミニウム合金 ・	

⊙ フェンス

フェンスの種類

・ビニル被覆エキスパンドフェンス

・樹脂塗装メッシュフェンス

・鋼管フェンス

・アルミフェンス

⊙ 木製フェンス（ 設置箇所：室外機置場1）

高さ

⊙図示による ・

・プレキャストコンクリート

コンクリートの設計基準強度 (20.3.3、4)

※水セメント比55%以下、単位セメント量の最小値300kg/m³を満足する調合強度

・図示による

配筋

※配筋を定めた計算書を監督職員に提出する

・図示による

取付け方法

※図示による ・

・間知石及びコンクリート間知ブロック積み (20.4.2、3)

	材種	種類	質量区分	備考
・間知石	・花こう岩 ・凝灰岩	―	―	
・コンクリート間知ブロック	―		・A ・B	

積み方

※谷積み ・布積み

⊙ 収納家具

材料のホルムアルデヒド放散量

※F☆☆☆☆ ・

材質、形状、寸法

※図示による ・

⊙自立式外部衝立（可動）

⊙ 仕上げ材：木製（ヒノキ）/ 形状寸法H900 / 設置箇所：御車寄

21 排水工事

⊙ 屋外雨水排水

材料 (21.2.1、2)(表 21.2.1、2)

材種	種類・記号	形状	呼び径	備考
・ 遠心力鉄筋コンクリート管	外圧管（1種）	・B形管 ・	・図示による ・	
⊙ 硬質ポリ塩化ビニル管	・RF-VR G		・図示による ・	
	・RS-VU G		・図示による	
	⊙VP		・図示による ⊙φ200	
	⊙VU	⊙有孔	⊙φ200 ⊙φ150	

基床の厚さ及び種類
・図示による ・
硬質ポリ塩化ビニル管の継手に用いる材料
※接着剤 ・ゴム輪
側塊の形状及び寸法
・図示による ・
排水桝、ふたの種類
・図示による ・
砂地業に用いる材料
・シルト ・山砂 ・川砂 ・砕砂
砂利地業に用いる材料
・再生クラッシャラン G
・切込砂利又は切込砕石
・現場打ちの場合のコンクリート材料
種類 ※普通コンクリート
設計基準強度(N/mm2) ※18 ・
スランプ(cm) ※15又は18 ・
・現場打ちの場合の鉄筋
種類の記号 ※SD295 ・
・現場打ちの場合のコンクリート材料
種類 ※普通コンクリート
設計基準強度(N/mm2) ※18 ・
スランプ(cm) ※15又は18 ・
・現場打ちの場合の鉄筋
種類の記号 ※SD295 ・
・排水枡が現場打ちの場合の足掛け金物
※標準仕様書21.2.2(6)(ｲ)
材質
・ステンレス製
・鋼製
・合成樹脂被覆加工されたもの
凍上抑制層の厚さ ・図示による ・
凍上抑制層に用いる材料
・
（砂を用いる場合の粒度試験）
・行う ・行わない

⊙ 鋳鉄製ふた (21.2.1)

名称	種類	適用荷重	鍵	備考
鋳鉄製マンホールふた	・水封形 ⊙簡易密閉形（ﾊﾟｯｷﾝ式） ・密閉形（ﾃｰﾊﾟ・ﾊﾟｯｷﾝ式） ・中ふた付き密閉形（ﾃｰﾊﾟ・ﾊﾟｯｷﾝ式） ・	⊙T-2用 ・T-6用 ・T-20用 ・	・有り ⊙無し	左記以外の品質等は（公社）空気調和衛生工学会SHASE-S209による。

⊙ グレーチング (21.2.1)

材質	形式	用途	適用荷重	ﾒｯｼﾊﾟｰﾋﾟｯﾁ	亜鉛めっき（付着量）	上面形状
・鋼製	・受枠付き、ボルト固定 ・	・溝ふた（横断用） ・溝ふた（側溝用） ・桝ふた ・U字溝用	・歩行用	・細目 ・	・ （ ）	・凹凸形 ・
			・T-2用 ・T-6用 ・T-14用 ・T-20用	・普通目 ・細目	・ （ ）	・平形 ・
⊙ｽﾃﾝﾚｽ製	・受枠付き、ボルト固定	・溝ふた（横断用） ・溝ふた（側溝用） ⊙桝ふた ・U字溝用	⊙歩行用	⊙細目	－	・凹凸形 ・
			・T-2用 ・T-6用 ・T-14用 ・T-20用	・	－	・平形 ・

(品質・性能、試験方法は別表による)

⊙ 街きょ、縁石及び側溝

街きょ、縁石、側溝 (21.3.1、2)(表21.3.1)

種類	形状・寸法
⊙縁石	⊙図示 ・
⊙L形側溝	⊙図示 ・
・U形側溝	・図示 ・
⊙U形側溝ふた	⊙図示 ・
・	・図示 ・

砂地業に用いる材料
・シルト ・山砂 ⊙川砂 ・砕砂
砂利地業に用いる材料
・再生クラッシャラン G ⊙切込砂利又は切込砕石
砂利地業の厚さ（mm）
※100 ⊙図示
⊙現場打ちの場合のコンクリート材料
種類 ※普通コンクリート
設計基準強度（N/mm²） ※18 ・
スランプ（cm） ※15又は18 ・
・現場打ちの場合の鉄筋
種類の記号
※SD295
凍上抑制層に用いる材料
・
（砂を用いる場合の粒度試験）
・行う ・行わない

⊙ 埋戻し

⊙B種 ・ (21.2.1)(表3.2. 1)

22 舗装工事

⊙ 路床

路床の材料 (22.2.2、3、5)(表22.2.1)

種別	材料	厚さ(mm)
⊙盛土	⊙A種 ⊙B種 ・C種 ・D種 ・建設汚泥から再生した処理土 G	⊙図示 ・
・凍上抑制層	・再生クラッシャラン G ・クラッシャラン ・切込み砂利 ・砂（標準仕様書表21.2.2による）	・図示 ・
・フィルター層	・標準仕様書22.2.3.(3)による	・図示 ・

（凍上抑制層に用いる材料に砂を用いる場合の粒度試験）
・行う
⊙行わない
・路床安定処理
安定処理の方法
・置き換え工法 （・ ）
・安定処理工法
路床安定化処理用添加材料
種類
・普通ポルトランドセメント
・高炉セメントB種 G
・フライアッシュセメントB種
・生石灰（・特号 ・1号）
・消石灰（・特号 ・1号）
添加量
・ kg/m³（CBR ※3以上 ・ ）
・ジオテキスタイル
単位面積質量
・60g/㎡以上 ・
厚さ(mm)
・0.5～1.0 ・
引張強さ
・98N/5cm（10kgf/5cm）以上 ・
透水係数
・1.5×10⁻¹cm/sec以上 ・
試験
路床土の支持力比（ＣＢＲ）試験 ・行う（ 箇所） ・行わない
現場ＣＢＲ試験 ・行う（ 箇所） ・行わない
安定処理土のＣＢＲ試験 ・行う ・行わない
路床締固め度の試験 ・行う（ 箇所） ・行わない
六価クロム溶出試験 ・行う（現場説明書による） ・行わない

⊙ 路盤

路盤及び厚さ (22.3.2、3)(表 22.3.1)
⊙図示 ・
路盤材料（標準仕様書 表22.3.1による種別）

種 別	
砕 石	・クラッシャラン
	・粒度調整砕石
再生材	⊙ 再生クラッシャラン G
	・再生粒度調整砕石 G
鉄鋼スラグ	・クラッシャラン鉄鋼スラグ G
	・粒度調整鉄鋼スラグ G
	・水硬性粒度調整鉄鋼スラグ G

⊙ アスファルト舗装

アスファルト舗装の構成及び厚さ (22.4.2～6)(表 22.4.4)
※図示による ・
材料
アスファルト
・再生アスファルト G ⊙脱色アスファルト
（標準仕様書 表22.4.1による種類： ・60～80 ・80～100）
・ストレートアスファルト
骨材
・道路用砕石 ⊙ 天然石川砂利6号 自然色 白色系 4色以上混合
・アスファルトコンクリート再生骨材 G
加熱アスファルト混合物等の種類
・密粒度アスファルト混合物(13)
・細粒度アスファルト混合物(13)
・密粒度アスファルト混合物(13F)

舗装の平たん性
※通行の支障となる水たまりを生じない程度
・
試験
アスファルト混合物等の抽出試験
・行う
⊙行わない

⊙ 砂利敷き

種別 (22.9.2)
・A種（施工範囲： ・図示による ・通路 ・ ）
⊙B種（施工範囲： ⊙図示による ・建物周囲その他 ・ ）
⊙ 大磯砂利 3分 （天然石 4色以上混合）
⊙ 白玉砂利 3分 （大理石）

・ 路面標示用塗料

路面標示用塗料はJIS K 5665による。

種類	施工	適用	色	幅（mm）	塗布厚さ(mm)
※3種1号	溶融	粉体状	・白 ・	・150 ・100	・1.0 ・
・1種 G	常温	液状			
・2種 G	加熱				

低揮発性有機溶剤型の路面標示用水性塗料 G

23 植栽及び屋上緑化工事

・ 植栽地の確認等

土壌の水素イオン濃度指数（pH）試験 (23.1.3)
・行う ・行わない
電気伝導度（EC）の試験
・行う ・行わない

⊙ 植栽基盤の整備

(23.2.2、4)

樹木の植栽基盤の整備
⊙適用する ・適用しない

植栽	工法	有効土層の厚さ（mm）	整備範囲	土壌改良材
⊙樹木	※A種 ・B種 ⊙C種 ・D種	樹高12m以上 （※100 ・120 ・150） 樹高7m以上～12m未満 （※80 ・100） 樹高3m以上～7m未満 （※60 ・80） 樹高3m未満 （※50 ・60）	⊙葉張り部分 ・植栽帯部分 ・図示による ・	・適用する ⊙適用しない
※芝、地被類	※B種 ・	※20 ・	⊙植栽部分 ・図示による ・	・適用する ⊙適用しない

植栽基盤の排水設備
・設ける（※図示による ・ ）
⊙設けない

⊙ 植込み用土

⊙現場発生土の良質土 (23.2.3)
・客土

・ 土壌改良材

種類及び指定量等 (23.2.3)
・バーク堆肥 G
施工箇所
※植栽範囲 ・図示による
使用量
植栽基盤面積1㎡あたり（・50L ・ ）
・汚泥発酵肥料（下水汚泥コンポスト）G
施工箇所
※植栽範囲 ・図示による
使用量
植栽基盤面積1㎡あたり（・10L ・ ）
材料
「金属等を含む産業廃棄物に係る判定基準を定める省令」の別表第1の基準に適合する原料を使用したもので、植害試験の調査の結果、害が認められないものとする。
・

⊙ 樹木

樹種、寸法、株立数等 (23.3.2)
※図示 ・

⊙ 支柱

支柱材 (23.3.2、3)
※丸太（間伐材） G ・真竹 ・
防腐処理方法
※加圧式防腐処理丸太材 ・
形式
⊙図示 ・

・ 幹巻き用材料

材料 (23.3.2)
※幹巻き用テープ ・わら及びこも

⊙ 芝

種類 (23.4.2、3)
※コウライシバ ・ノシバ ・
芝張りの工法
平地
※目地張り ⊙べた張り
法面
※べた張り法面 ・目地張り

・ 吹付けは種

(23.4.2)

種子の種類	発芽率	種子の量（g/㎡）	備考
※洋芝類（採取後2年以内）	※発芽率80%以上		
・	・		

⊙ 地被類

(23.4.2)

樹種	コンテナ径	単位面積当たりのコンテナ数	芽立数
⊙ キチジョウソウ	⊙10.5cm	⊙ 25株/㎡	・

⊙ 新植、芝等の枯補償、移植樹木の枯損処置

新植樹木（芝張り、吹付けは種及び地被類を含む）の枯補償の期間 (23.3.4、6) (23.4.7)(23.5.5)
※引渡しの日から1年 ・無し ・
移植樹木の枯損処置を行う期間
※引渡しの日から1年 ・無し ・

・ 屋上緑化 G

植栽基盤及び材料 (23.5.2～4)
・屋上緑化システム
土壌層の厚さ
・図示による ・
排水層
・軽量骨材（層の厚さ： ）
・板状成形品
植込み用土
※改良土
・人工軽量土
樹木、芝及び地被類の樹種又は種類、寸法、株立数等
※図示による ・
見切り材、舗装材、排水孔、マルチング材等
※図示による ・
(品質・性能、試験方法は別表による)
支柱
・設置する
・設置しない
形式
・図示による
・
かん水装置
・設置する
・設置しない
種類
・図示による
・
工法
「屋根ふき材及び屋外に面する帳壁の風圧に対する構造耐力上の安全性を確かめるための構造計算の基準を定める件」（平成12年5月31日 建設省告示第1458号）に基づく風圧力に対応した工法
・図示による

香山建築研究所
KOHYAMA ATELIER
一級建築士事務所第12399号(有)香山建築研究所 東京都文京区本郷2-12-10UT本郷3F
管理技術者 長谷川祥久（一級建築士第289714号）
一級建築士事務所第12399号(有)香山建築研究所 東京都文京区本郷2-12-10UT本郷3F
意匠主任技術者 松本洋平（一級建築士第367970号）

項目	品質　性能　試験方法

乾式保護材

〈乾式保護材〉

【標準仕様書9章・改修標準仕様書3章】

窯業系パネル:無石綿の繊維質原料等を主原料として、板状に押出成形しオートクレーブ養生したもの。

金属合板:金属板と樹脂を積層一体化したもの。

(品質・性能)

分類・規格		窯業系 パネルⅠ類（寒冷地仕様）	窯業系 パネルⅡ類（一般地仕様）	金属複合板
寸法の許容差		厚さ:+10%、-5%、幅:ｱ1%		
外観		割れ、貫通、き裂がない。欠け、ねじれ、そり、異物の混入、汚れ、はく離など使用上支障がない。		
含水率		出荷時において10%以下		–
曲げ強さ・曲げﾓｰﾒﾝﾄ(N・cm)(ｽﾊﾟﾝ40cmにおける単位幅1cmあたりの曲げﾓｰﾒﾝﾄ)	標準時	550N・cm以上	450N・cm以上	300N・cm以上
	凍結融解完了時（試験サイクル数）	400N・cm以上（300）	320N・cm以上（200）	250N・cm以上（300）
吸水率(%)		20以下	20以下	1以下
吸水による長さ変化率(%)		0.07以下	0.07以下	0.01以下
難燃性		不燃	不燃	表面材は不燃
耐凍結融解性能		300サイクル後、著しい割れ、剥離がなく、外観上の異常がないこと。	200サイクル後、著しい割れ、剥離がなく、外観上の異常がないこと。	300サイクル後、著しい割れ、剥離がなく、外観上の異常がないこと。(明らかに吸水しないと認められるものは耐凍結融解試験を省略できる。)
耐衝撃性能		質量1,000g のなす形おもりを高さ1.0mから試験体の弱点部に落としたとき、裏面に達する穴があかないこと。		質量500gのなす型おもりを高さ1.0mから試験体の弱点部に落としたとき、裏面に達する穴があかないこと。残留変形量1/100以下
剛性(Eﾗl)（スパン40cm幅30cmの中央曲げ時に荷重720Nの時、たわみ4mm以下となる剛性）		–	–	80000N・㎠以上

(試験方法)

(1)寸法の測定方法

(厚さ)供試体の周辺から20mm以上内側の四隅を0.05mmまで測定できる測定器で測り、4点の平均値を求めてパネルの厚さとする。

(幅)供試体を平らな台に置き、供試体のほぼ中央1箇所の幅寸法をJIS B 7512「鋼製巻尺」に規定する目量が1mmの1級コンベックスルール又は、JIS B 7516「金属性直尺」に規定する目量が1mmの1級直尺を用いて測定する。

(2)曲げ強度試験は、JIS A 1408「建築用ボード類の曲げ及び衝撃試験方法」による。試験体は3号試験体とする。

幅及び厚さは製品寸法とし、支持スパン長さは400mmとする。試験方法は試験体の表面からスパン中央全幅に集中荷重を載荷し、試験体が破壊した時の最大荷重を測定する。同時に破壊時の中央部のたわみ量について、変位計を用いて測定する。

測定項目については、凍結融解試験前、同試験100、200、300サイクル完了後の合計4項目に亘って測定する。

(窯業系パネルⅡ類は 200 サイクルまでとする。)　　なお、荷重を加える時の平均速度は、1～3分間で予想最大荷重に達する程度とする。

(3)吸水率試験は、JIS A 5430「繊維強化セメント板」に準じて行う。

(4)難燃性試験は、JIS A 1321「建築物の内装材料及び工法の難燃性試験方法」に準じて行う。

(5)吸水による長さ変化率試験は、試験体(幅40 mmﾗ長さ160 mmﾗ素材厚さ)を乾燥機に入れ、その温度を60ｱ3℃に保ち24時間経過した後取り出してJIS K 8123「塩化カルシウム(試薬)」に規定する塩化カルシウム又は JIS K 1464「工業用乾燥剤」に規定する品質に適合するシリカゲルで調湿したデシケータに入れ、常温まで冷却する。

次に、試験片の標線間隔が140 mmになるように標線を刻む。その後、1/150 mm以上の精度をもつコンパレータを用いて標線間の長さを測定し、それを基準(L1)とする。次に試験片の長さ方向を水平にこば立てし、その上端が水平下約30㎜となるように保持して、常温の水中に浸せきする。

24時間経過した後、試験片を水中から取り出して湿布で表面に付着した水を拭き取り、再び標線間の長さ(L2)を測る。

吸水による長さ変化率(ΔL)は、次式によって求める。

(ΔL)＝(L2 － L1)／ L1 ﾗ100　ΔL :吸水による長さ変化率(%)

L1:乾燥時の標線間の長さ(mm)　　L2 :吸水時の標線間の長さ(mm)

(6)耐凍結融解性能試験は、JIS A 5422「窯業系サイディング」の気中凍結水中融解法によって行う。

100、200、300各サイクル完了時の曲げ強度測定及び外観の状態を観察する。

(窯業系パネルⅡ類は200サイクルまでとする。)　　凍結融解操作の試験条件は、試験片の切断小口面をあらかじめシールし、5～35℃の清水中に24時間浸せきさせた後、凍結融解試験装置の槽内に設置し、－20ｱ3℃の気中で約2時間の凍結、20ｱ3℃の水中で約1時間の融解を行う約3時間を1サイクルとする。

(7)耐衝撃性能試験は、JIS A 1408「建築用ボード類の曲げ及び衝撃試験方法」の衝撃性試験に準じて行う。試験体の支持装置は、記号S2対辺単純支持方法による。

試験体の大きさは、4号(長さ400 mm, 幅300 mm)とする。　　おもりは、鋼製のなす型おもり又は球型おもりとし、記号(W -1,000)、質量1,000とする。　　試験体を支持装置で支持して、堅固な床に水平に置き、おもりを試験体のほぼ中央の鉛直上1.0mから試験体の弱点部に自然落下させ、裏面に達する穴の「有・無」を確認する。

金属複合板の残留変形量は、最大くぼみ深さを測定する。

ポリマーセメントモルタル

〈ポリマーセメントモルタル〉

【改修標準仕様書4章】

(品質・性能)

項目			品質・性能
だ　れ	下がり量(mm)		5以内
	表面の状態		ひびわれの発生が無いこと。
曲げ強さ(N/m㎡)			6.0以上
圧縮強さ(N/m㎡)			20.0以上
接着強さ (N/m㎡)	標準条件		1.0以上
	特殊条件	湿潤時	0.8以上
		低温時	0.5以上
透 水 性			裏面のぬれ、水滴の付着が無いこと。
そ の 他			1)均質で有害と認められる異物の混入がないこと。 2)高分子エマルションは、常温常湿において製造後6か月保存しても、変質しないこと。

(試験方法)

1)だれの試験方法は、JIS A 5371「ﾌﾟﾚｷｬｽﾄ無筋ｺﾝｸﾘｰﾄ製品」に規定する普通平板N300の表面をワイヤブラシ等で清浄し、その上に厚さ10mm、幅100mm、長さ50mmの寸法にポリマーセメントモルタルを塗り付け、塗り付け開始から5分後に、平らにおかれていた平板を直角に立て起し、そのままの状態で静置する。24時間後のポリマーセメントモルタルの変形状態を観測し、その形状の異常の有無とだれ長さを測定する。

2)曲げ強さ、圧縮強さの試験方法は、JIS A 1171「ポリマーセメントモルタルの試験方法」の7.3による。

3)接着強さの試験方法は、JIS A 5371に規定する普通平板N300の表面をワイヤブラシ等で清浄し、その上に厚さ10mmになるようポリマーセメントモルタルを塗り、14日経過した後に、その上面に縦40mm、厚さ10mmの鉄片を張り付けて単軸引っ張りを加える。最大荷重(P)を断面積(A)で除し、接着強さを求める。

4)透水性試験は、JIS A 5430「繊維強化セメント板」の8.6に定める方法による。

試験体の形状は、その上に厚さ10mm、幅300mm、長さ300mm(内寸法)の型枠に、製造者の定める方法によりポリマーセメントモルタルを充填し、24時間静置した後脱型する。その後、標準状態で8日間養生する。

5)接着耐久性試験(温冷繰返し後)は、JIS A 1171の7.5による。

6)透水量試験は、JIS A 6916「建築用下地調整塗材」の7.15による。

7)吸水量試験は、JIS A 1171の7.6による。

8)長さ変化率試験は、JIS A 1171の7.8による。

9)試験室は、温度20ｱ2℃、湿度60%以上とする。

既調合モルタル

〈既調合モルタル〉

【標準仕様書11章・改修標準仕様書4章】

モルタルを下地としたタイル工事に使用する張付け用モルタルとして、セメント、細骨材、混和剤等を予め工場において所定の割合に配合した材料とする。

(品質・性能)

項目		品質・性能
保水率		70.0%以上
単位容積質量		1.8kg/L以上
接着強さ	標準時	0.6N/m㎡以上
	温冷繰り返し後	0.4N/m㎡以上
長さ変化率		0.20%以下
曲げ強さ		4.0N/m㎡以上

(試験方法)

(1)試料の調製

製造業者の定める、正味質量と標準練り上がり量より換算して、所定量の試料を練り上げるのに要する材料と練り混ぜ水を計算して用意する。練り混ぜは、JIS R5201「セメントの物理試験方法」の 10.2 に規定する練り混ぜ機を使用し、練りばちに用意した水を入れ、攪拌しながら30秒間に材料を投入し、3分間練り混ぜて試料とする。

(2)保水率の試験方法

JIS R3202「フロート板ガラス及び磨き板ガラス」に規定する磨き板ガラス(縦150mm、横150mm、厚さ5mm)の上にJIS P3801「ろ紙(化学分析用)」に規定する5 Aろ紙(直径11cm)をのせ、その中央部に真ちゅう製リング型わく(内径50mm、高さ10mm、厚さ3mm)を設置し、(1)で調製した試料を金べらで平滑に詰込む。その後、直ちにリング型わく上部にガラス板を当てて上下を逆さまにし、ろ紙部分が上部になるようにして静置する。60分後にろ紙へにじみ出した水分の広がりが最大と認められた方向とこれに直角な方向の長さをノギスを用いて、1mmの単位まで測定する。試験は3回実施し、その平均値を用いて次式により保水率を求める。

保水率＝50／平均値ﾗ100　(注) 50:リング型わくの内径 mm

(3)単位容積質量の試験方法

JIS A 1171「ポリマーセメントモルタルの試験方法」に準ずる。

(4)接着強さ(標準時)の試験方法

イ)適用タイルが「モザイクタイル」の場合

(試験体の作製)

JIS A5371「プレキャスト無筋コンクリート製品」に規定する普通平板

N－300を下地板とし、表面をサンドペーパーを用いて軽く研磨した後、水湿しを行い 直ちに(1)で調製した試料を厚さ5mmになるように塗付ける。直ちにJIS A 5209「セラミックタイル」に規定するタイルで押出し又はプレス成形による施ゆうの「50角ユニットタイル(外のり寸法約300mmﾗ300mm)」を圧着する。

その後、28日間、温度20ｱ2℃、湿度80%以上の状態で湿空養生を行い、これを試験体とする。

(試験方法)

JIS A6909「建築用仕上塗材」の7.9付着強さ試験に準じて行う。試験体をダイヤモンドカッターを用いて、タイル周辺に沿って下地板に達するまで切り込みを入れ、エポキシ樹脂接着剤で鋼製アタッチメントを接着し、引張試験機を用いて接着強さ 試験を行う。なお、接着強さの測定箇所は、試験体の中からまんべんなく5箇所を選び抜き取る。

また、試験後の部材破断位置の表示を下記の中から選び明記する。

T :タイルの母材破断

TM:既調合モルタルとタイルの界面破断

M :既調合モルタルの母材破断

MG:既調合モルタルと下地板の界面破断

G :下地板の母材破断

(なお、標準時の接着強さは、抜き取った試験片5箇所ともすべて、0.60N/mmｲ以上確保していること。)

ロ)適用タイルが「小口タイル・二丁掛けタイル」の場合

(試験体の作製)

JIS A5371「プレキャスト無筋コンクリート製品」に規定する普通平板

N－300を下地板とし、表面をサンドペーパーを用いて軽く研磨した後、水湿しを行い直ちに(1)で調製した試料を厚さ7mmになるよう 塗付ける。直ちに JIS A 5209「セラミックタイル」に規定する外装壁モザイクタイルで乾式成形の I 類(施ゆう)「小口タイル108mmﾗ60mmﾗ12mm」を4枚2列、計8枚を圧着する。

その後、28日間、温度20ｱ2℃、湿度80%以上の状態で湿空養生を行い、これを試験体とする。

(試験方法)

「モザイクタイル」の場合と同様に行う。

(5)接着強さ(温冷繰返し後)の試験方法

(試験体の作製)

「モザイクタイル」及び「小口タイル・二丁掛タイル」とも、各々(4) 接着強さ(標準時)の試験方法の「試験体」と同様とする。

(温冷繰返し試験)

「モザイクタイル」及び「小口タイル・二丁掛タイル」とも、各々JIS A 6909「建築用仕上塗材」の 温冷繰返し試験に準じて行う。

試験の手順は、試験体を20ｱ2℃の水中に18時間浸せきした後、直ちに－20ｱ2℃の 恒温器中で3時間冷却し、次いで50ｱ ℃の別の恒温器中で3時間加温し、この24時間を1サイクルとする操作を10回繰返した後、試験室に2時間静置し、ひび割れ及び膨れ の有無を目視によって調べる。

(温冷繰返し後の接着強さ試験方法)

「モザイクタイル」及び「小口タイル・二丁掛タイル」 とも、各々温冷繰返し試験完了後の試験体を標準状態で2日間静置養生した後、標準時の接着強さ試験方法と同様に行う。

なお、温冷繰返し後の接着強さは、抜き取った試験片5箇所ともすべて0.4N/mmｲ以上を確保していること。

(6)長さ変化率の試験方法

JIS A6203「セメント混和用ポリマーディスパージョン及び再乳化形粉末樹脂」9.9長さ変化率に準ずる。

(7)曲げ強さの試験方法

JIS A6916「建築用下地調整塗材」7.11 の曲げ強さ試験に準ずる。

試験室の状態 : 試験室は、温度20ｱ2℃、湿度65ｱ10%とする。

既調合目地材

〈既製調合目地材〉

【標準仕様書11章・改修標準仕様書6章】

(品質・性能)

項目	品質・性能
保水率	30.0%以上
長さ変化率	0.2%以下(収縮)
吸水量	50g以下
単位容積質量	1.80kg/L以上

(試験方法)

(1)試験の条件

試験室は、温度20±2℃、湿度65±5% RHの標準状態とする。また、試験に使用する材料、器具などを、あらかじめ24時間以上標準状態に置いた後使用する。

(2)試料の調整

正味質量と標準練り上がり量より、1.0～1.2 L の試料を練り上げるのに要する材料に相当する量を計算して用意し、さらに標準加水量より用意した材料に相当する量の練り混ぜ水を計算して用意する。練り混ぜは、JIS R 5201「セメントの物理試験方法」 に規定する練り混ぜ機を使用し、練りばちに用意した水を入れ、攪拌しながら30秒間に材料を投入し3分間練り混ぜて試料とする。

(3)保水性(ろ紙法)

JIS R 3202「フロート板ガラス及び磨き板ガラス」に規定する磨き板ガラス(縦200㎜、横200㎜、厚さ5㎜)の上にJIS P 3801「ろ紙(化学分析用)」に規定する5 Aろ紙(直径 18.5 cm)をのせ、その中央部に真鍮製リング型わく(内径50㎜、高さ10㎜、厚さ3㎜)を設置し、2)で練り混ぜた試料を金べらで平滑に詰め込む。

その後、直ちにリング型わく上部にガラス板を当て上下を逆さにし、ろ紙部分が上部になるようにして静置する。10分後にろ紙へにじみ出した水分の広がりが最大と認められた方向とこれに直角な方向の長さをノギスを用いて1㎜まで測定する。試験は3回実施し、その平均値を用いて次式により保水率を求める。

保水率(%)＝50／平均値ﾗ100 注)50:リング型わくの内径(㎜)

(4)単位容積質量

(2)で練り混ぜた試料を、JIS A 1171「ポリマーセメントモルタルの試験方法」の6.4に規定する方法で求める。

(5)長さ変化率

(2)で調整した試料を用いてJIS A 1171の7.8長さ変化率試験に従って行う。

(6)吸水量

(3)で調整した試料を用いてJIS A 1404「建築用セメント防水剤の試験方法」10.に規定する方法で24時間の吸水量を求める。試験体数は3個とし、その平均値とする。

防水剤

〈防水剤〉

【標準仕様書15章・改修標準仕様書6章】

(品質・性能)

項目	品質・性能
防水剤の種別	建築用のモルタルに用いるセメント防水剤
混合割合	セメント重量の5%以下
凝結及び安定性	凝結時間　始発:1時間以上　終結:10時間以内 安定性　収縮性、膨張性のひび割れ及びがない。
曲げ及び圧縮強度比	防水剤を混入したもの、しないものの曲げ強度比及び圧縮強度比　70%以上
吸水比	防水剤を混入したもの、しないものの吸水比　95%以下
透水比	防水剤を混入したもの、しないものの透水比　80%以下

(試験方法)

JIS A 1404 「建築用セメント防水剤の試験方法」による。ただし、透水試験における水圧は、3.0ﾗ10^{5}Paとし1時間行う。

錠前類

〈錠前類〉【シリンダ箱錠及びシリンダ本締まり錠】

【標準仕様書16章・改修標準仕様書5章】

(品質・性能)

デッドボルトの出寸法は17mm以上とする。鍵付きのものはマスターキー、グランドマスターキー、コンストラクションキーなどのキーシステムが構築できるものとする。

項目	品質・性能
使用頻度による性能	1)(シリンダ箱錠のみ)ラッチボルトの開閉繰り返し試験(40万回)を行った後、ハンドルでの開閉操作力及びラッチングカが試験前の2倍未満であり、動作に支障がない。
	2)キーによるデッドボルトの施解錠繰り返し試験(10万回)を行った後、試験前の回転トルクの2倍未満であり、施解錠操作に支障がない。(シリンダ本締り錠のみ)シリンダ単体の施解錠繰り返しの評価は、シリンダだけの回転トルクが10N･cm以下とする。
	3)キーによる施錠機構の施解錠繰り返し試験(10万回)を行なった後、試験前の回転トルクの2倍未満であり、施解錠操作に支障がない。
	4)キーの抜き差し繰り返し試験(10万回)を行なった後、キーの抜き差しに要する荷重は10N以下である。また、未使用の合鍵でシリンダが回転でき、かつ、1箇所1段差浅い刻みをもつ異なるキーでは、シリンダが回転しないこと。(キーに加えるトルクは、150N･cmとする)
外力に対する性能	1) デッドボルトの押込み強度試験(10 KN)を行なった後、荷重を除い ときのデッドボルトの出寸法は8 ㎜ 以上であること。
	2) デッドボルトの側圧強度試験(10 KN)を行なった際、加圧板がデッドボルトを通過しない。
	3) デッドボルトの押込み強度(衝撃荷重)試験(58.8 J)の衝撃荷重を加えたとき、解錠状態(デッドボルトの突出量が8 ㎜未満)にならないこと。
	4)デッドボルトの側圧強度(衝撃荷重)試験(58.8J)の衝撃荷重を加えたとき、解錠状態(加圧板がデッドボルトを通過した状態)にならないこと。
	5)(シリンダ本締り錠はグレード3以上の彫込錠の場合)ストライクプレートの厚さ1.5 ㎜以上のステンレス鋼製とし、トロヨケは厚さ1.6 ㎜ 以上の鋼製の一体絞りとする。又はストライクの強度と同等以上の強度をもつものとする。
使用扉の質量に対する性能(シリンダ箱錠のみ)	1) ラッチボルトの側圧強度試験(4 KN)を行い、荷重を除いたとき、ハンドル操作及びラッチングに支障がない。
	2) レバーハンドルのねじり強度試験(3.5 KN･cm)を行なった後、トルクを除いたとき、ハンドルが正常に作動していること。また、施錠時ハンドルが固定される錠は、施錠状態が維持され、かつ、施解錠操作に支障がない。
	3) 握り玉のねじり強度試験(3 KN･cm)を行なった後、トルクを除いたとき、握り玉が正常に作動していること。また、施錠時握り玉が固定される錠は、施錠状態が維持され、かつ、施解錠操作に支障がない。
	4) ハンドルの引張強度試験(2 KN)を行い、荷重を除いたとき、ハンドルが正常に作動していること。また、施錠時ハンドルが固定される錠は、施錠状態が維持され、かつ、施解錠操作に支障がない。
	5) ハンドルの垂直荷重強度試験(2 KN)を行い、荷重を除いたとき、ハンドルが正常に作動していること。また、施錠時ハンドルが固定される錠は、施錠状態が維持され、かつ、施解錠操作に支障がない。
鍵	1) かぎ(鍵)数は、1.5万以上とする。ただし、異なるキーウェイ形状であっても、共通のキーセクションが存在する場合は、有効かぎ(鍵)違い数とみなさないものとする。
	2) 同一タンブラーの使用数は、60 % 以下とする。また、6 本タンブラーにおいては、キーの同一刻みは、最大2連続までとしていること。

試験方法は、JIS A 1541-1(建築金物－錠－第1部:試験方法)による。

クローザ類

〈クローザ類〉

【標準仕様書16章・改修標準仕様書5章】

(品質・性能)

性能試験項目			区分	① ドアクローザ		② ヒンジクローザ		③ フロアヒンジ	
初期値	閉じ力及び効率による区分(注1)(注2)	Grade2	番手	閉じﾓｰﾒﾝﾄ(N･m)	効率(%)	閉じﾓｰﾒﾝﾄ(N･m)	効率(%)	閉じﾓｰﾒﾝﾄ(N･m)	効率(%)
			1	5以上	30以上	5以上	30以上	5以上	30以上
			2	10以上	30以上	10以上	30以上	10以上	30以上
			3	15以上	35以上	15以上	35以上	15以上	35以上
			4	25以上	40以上	25以上	40以上	25以上	40以上
			5	35以上	45以上	35以上	45以上	35以上	45以上
			6	45以上	45以上	45以上	45以上	45以上	45以上
	閉じ速度(秒)			常温(5～35℃)無風状態において、開扉(70－)から全閉(0－)までの時間を5～8秒に調整できること。					
	温度依存性(℃)			緩衝油の流動点は、JIS K 2269(原油及び石油製品の流動点並びに石油製品曇り点試験方法)により測定し、－15℃以下であること。					
	ストップ力	ストップ入力		60 N･m以下 但し、ｺﾝｼｰﾙﾄﾞ型は200 N･m以下		100 N･m以下		100 N･m以下	
		ストップ解除力		8 N･m以上		3 N･m以上		10 N･m以上	
	バックチェック性能(秒)(バックチェック機能を有する機種のみ適用)			ドア開扉方向に荷重60 N／㎡を開扉50－から負荷する。バックチェック開始角度(70～85－)から更に20－まで開く間の時間は0.8秒以上としていること。		–		–	
	ディレードアクション性能(秒) ディレードアクション解除角度(60～75－)(ディレードアクション機能を有する機種のみ適用)			開扉90－の位置からディレードアクション解除角度までの時間が10 秒以上確保でき、また、その時間の調整が可能であること。		–		–	
	戸の閉鎖位置(中心吊り込み両自由のみに適用)			–		–		ｱ3mm以内	
耐久性	繰返し開閉後の閉じﾓｰﾒﾝﾄ(N･m)	Grade2		耐久試験後も上記初期値を満足していること。		耐久試験後も上記初期値を満足していること。		耐久試験後も上記初期値を満足していること。	
	繰返し開閉後の効率(%)	Grade2		耐久試験後も上記初期値を満足していること。		耐久試験後も上記初期値を満足していること。		耐久試験後も上記初期値を満足していること。	
	繰返し開閉後の閉じ速度(秒)			耐久試験後も上記初期値を満足していること。					
	繰返し開閉後のバックチェック性能(秒)			耐久試験後も上記初期値を満足していること。		–		–	
	繰返し開閉後のディレードアクション性能(秒)			耐久試験後も上記初期値を満足していること。		–		–	
	繰り返し開閉後の戸閉鎖位置(mm)			–		–		耐久試験後 ｱ6mm以内	
耐久性の試験回数(繰り返し開閉回数)		Grade2		20万回		10万回		30万回	

注1.ﾊﾟﾗﾚﾙ取付けは、右記の閉じﾓｰﾒﾝﾄの70%程度までとする。

注2.ｺﾝｼｰﾙﾄﾞ型は右記の閉じﾓｰﾒﾝﾄの50%程度までとする。

Grade1を選定する場合は、図示による。

(試験方法)

1)性能試験は、JIS A 1510-3(建築用ドア金物の試験方法－第3部:フロアヒンジ、ドアクローザ及びヒンジクローザ)に規定する試験方法による。

2)試験ドアの質量は、1番手は25kg、2番手は40kg、3番手は60kg、4番手は80kg、5番手は100kg、6番手は120kgとする。

現場発泡断熱材

〈現場発泡断熱材〉

【標準仕様書19章・改修標準仕様書9章】

(品質・性能)

項目	品質・性能
難燃性	下記のいずれかによっていること (1)JIS A 1321「建築物の内装材及び工法の難燃性試験方法」による難燃2級表面加熱試験又は難燃3級表面加熱試験に適合していること。 (2)法定準不燃材料、難燃材料の評価方法に使用している発熱性試験(コーンカロリー試験)に適合していること。
発熱性	準不燃材料試験の加熱時間は10分、難燃材料試験の加熱時間は5分において次の(1)～(3)に適合していること。 (1)総発熱量が 8 MJ／㎡以下であること。 (2)防火上有害な裏面まで貫通する亀裂及び穴がないこと。 (3)最高発熱速度が、10秒以上継続して 200 KW／㎡を超えないこと。

(試験方法)

(1)原液試験(原液粘土試験)

JIS K 7117-1「ﾌﾟﾗｽﾁｯｸｰ 液状、乳濁状又は分散状の樹脂－ﾌﾞﾙｯｸﾌｨｰﾙﾄﾞ形回転粘度計による見掛け粘度の測定方法」による。

(2)発泡品試験

1)試料の作成は、JIS A 9526「建築物断熱用吹付け硬質ウレタンフォーム」の6.2.1による。

2)試料の状態調節は、JIS A 9526の6.2.2による。

3)試験片の作製は、JIS A 9526の6.2.3による。

4)試験場所は、JIS A 9526の6.2.4による。

5)圧縮強さ試験は、JIS A 9526の6.2.5による。

6)熱伝導率試験は、JIS A 9526の6.2.6による。

7)接着強さ試験は、JIS A 9526の6.2.7による。

8)透湿率試験は、JIS A 9526の6.2.8による。

(3)難燃性試験は、下記のJIS A 1321に規定する表面試験及び発熱性試験による。

1)難燃性の試験については、JIS A 1321に規定する試験方法に準じる。

2)発熱性試験

建築基準法に基づく指定性能評価機関が準不燃材料、難燃材料の評価方法に使用している試験方法に準ずる。

項目	品質　性能　試験方法

フリーアクセスフロア

〈フリーアクセスフロア〉
【標準仕様書20章】
（性能）
標準仕様書表20.2.2によるほか以下による。
（1）耐震性能
イ）固定台試験による耐震性能　（設計床高さ H=300mm超え、600mm以下の場合）

項目	性能
① ベースプレート又はアンカーが耐力に達したとき又はコンクリート接着面が剥離したとき	水平荷重の1/2が下記の＜適用地震時水平力＞以上
② 上記①以外の部分が耐力に達したとき	水平荷重の1/1.5が下記の＜適用地震時水平力＞以上
③ 適用地震時水平力を加力した時の支柱頂部の変位	構造床面からの高さの1/50以下

＜適用地震時水平力＞
3,000N 0.6Gタイプ 支柱一本が負担する床加重[(㎡当り自重+3,000N)/㎡当りの支柱本数]ﾗ0.6
3,000N 1.0Gタイプ 支柱一本が負担する床加重[(㎡当り自重+3,000N)/㎡当りの支柱本数]ﾗ1.0
5,000N 0.6Gタイプ 支柱一本が負担する床加重[(㎡当り自重+5,000N)/㎡当りの支柱本数]ﾗ0.6
5,000N 1.0Gタイプ 支柱一本が負担する床加重[(㎡当り自重+5,000N)/㎡当りの支柱本数]ﾗ1.0

ロ）振動台試験による耐震性能（設計床高さ≦300mmの場合のみ）
パネルの脱落や使用上支障をきたす損傷、せり上がり、隙間及び水平移動がない。
（2）歩行感
通常の歩行において空洞音やがたつきがなく、歩行感に違和感がない
（3）メンテナンス性
交換が必要な部品については交換できるよう設計されている。

（試験方法）
（1）耐震性能
1）設計床高さ≦300mmの場合
試験体ユニット1000mm×2500mm程度
所定の重りの質量　3000N：200kg　5000N：350kg
加振　0.6G：所定加速度600cm／S^2　1.0G：所定加速度1000cm／S^2
2）300mm＜設計床高さ≦600mmの場合
① 固定台による耐震性能試験
イ、支柱調整式－支柱分離型・支柱固定タイプの全てのタイプ共、下記の試験方法－1　又は、試験方法－2による。
ロ、原則として、試験方法－1はパネル単体設置（Aタイプ）に適用し、試験方法－2はパネル連結設置（Bタイプ）に適用するものとする。
②試験方法－1
イ、試験は、ｺﾝｸﾘｰﾄ(JIS A 5371ﾌﾟﾚｷｬｽﾄ無筋ｺﾝｸﾘｰﾄ製品 種類：N300)に接着した支柱の頂部に対し、水平方向に適用地震時水平力及び水平最大耐力まで加力し、各測定点における水平力、支柱頂部の変形量を測定する。
ロ、加力方向は、支柱要素に対して最も不利な方向とする。試験体数は、3個とする。
③試験方法－2
イ、試験は、ｺﾝｸﾘｰﾄ(JIS A 5371ﾌﾟﾚｷｬｽﾄ無筋ｺﾝｸﾘｰﾄ製品　種類：N300)に接着した数ユニットの支柱の頂部に対し、水平方向に数ユニット分相当の、適用地震時水平力及び水平最大耐力まで加力し、各測定点における水平力、支柱頂部の変形量を測定する。加力方向は、支柱要素に対して最も不利な方向とする。
ロ、最終的に水平力を支持する支柱の本数で除した値を、支柱1本当たりの水平力とする。また、800mmﾗ800㎜に荷重板3,200 N（5,000 N／1㎡ 相当）を1箇所設ける。
試験体数は、1セットとする。
④零点補正及び測定記録
試験体と試験機の隙間等を除去するため、始めに適用地震時水平力の1／2程度の 水平力を加力した後、速やかに除荷して“0”にした状態を零点とする。また、水平力による各測定点の荷重及び変形曲線を測定し記録する。
3）共通事項
試験に使用する表面仕上材
種類：タイルカーペット　　繊維素材：ナイロン100 ％
パイル携帯：ループパイル　　パイル長：3.0㎜～4.0㎜
パッキング素材：塩化ビニル樹脂　　全厚：6.0㎜～7.0㎜
単位質量：4.0kg/㎡～64.0kg/㎡　　人体耐電圧：2KV以下

移動間仕切

〈移動間仕切〉
【標準仕様書20章】
（標準仕様書表20.2.4によるほか以下による。）
（品質）
（1）パネル（表面材、心材、フレーム材、幅木、笠木及び補強材）及びハンガーレールは、JIS A 6512「可動間仕切」の表9 材料 又はこれらと同等以上の品質性能を有し、かつ、接触腐食をおこさないもの又は防食処理を施したものとする。
（2）パネルの外観
JIS A 6512「可動間仕切」に規定する5.a)～c)による。

（性能）
（1）パネルの操作性
パネル操作の初動力は98N以下とする。
（2）パネル圧接装置の耐久性
パネル圧接装置の固定・解除は、7,500回の繰返し耐久試験実施後、質量50kg衝撃試験で異常のないものとする。
（3）耐衝撃性
パネル圧接装置の耐久性試験後、質量50kgにおける衝撃試験において構造部材の折れ、曲りの異常がなく、表面の割れ、はがれのないものとする。また、接点・接床部が外れないこと及び多少のずれがあっても圧接装置の調整で元に戻せるものとする。
（4）レールの耐久性
レールは普通パネルで、吊り車の通過回数が30,000回以上で異常のないものとする。
（5）吊り車の耐久性
吊り車は、走行距離60kmで操作性に異常がなく、レールに大きな変形がないものとする。
（6）ランナーの引張強度
引張試験を実施し、普通パネル重量の5倍の荷重を、パネル1枚に使用するランナーの数で除した値以上の強度があるものとする。
（7）吊りボルトの引張強度
一本にかかる荷重の15倍以上の引張強度があるものとする。
（8）遮音性能
JIS A 6512に規定する透過損失単位に基づく区分ごとに、500Hzの音について透過損失の規定値に適合すること。遮音性能試験は 、JIS A 1416「実験室における建築部材の空気音遮断性能の測定方法」に規定する試験方法又はJIS A 1441-1「音響－音響インテンシティ法による建築物及び建築部材の空気音遮断性能の測定方法－第1部：実験室における測定」による。
（9）ホルムアルデヒド等
JIS等の材料規格において放散量が規定されているものについては、F☆☆☆☆とする。

トイレブース

〈トイレブース〉
【標準仕様書20章】
（標準仕様書表20.2.5によるほか以下による。）
（品質・性能）
（1）付属金物

項目	品質・性能
ヒンジ	耐食性のあるものとする。
ラッチセット	
戸当り	腐食の恐れのある材料には防錆処理を施してあるものとする。 戸当り部のゴムは、使用に十分耐える材質であるものとする。

（2）外観は、JIS A 6512「可動間仕切」の5.b) による。

（3）パネル表面材の耐薬品性・耐汚染性・耐ひっかき性・開閉耐久性

項目	品質・性能		
	耐薬品性及び耐汚染性	耐引っかき性	開閉耐久性
メラミン樹脂系化粧板及び メラミン樹脂系 単一材	JIS K 6903 (2008)「熱硬化性樹脂高圧化粧板」の表8 品質　による耐汚染性（B法）の規定を満足していること。	-	JIS A 4702「ドアセット」9.4開閉繰り返し試験によるスイングドア（開閉回数10万回）を満足すること及び試験終了時点で構造金物、固定金具等に緩みのないこと。
低圧メラミン樹脂系化粧板	下記項目のポリエステル樹脂系加工化粧合板、ポリエステル樹脂系化粧MDF、ポリエステル樹脂系化粧パーティクルボードのいずれかの品質に適合していること。		
ポリエステル樹脂系加工化粧合板	JAS「合板の日本農林規格」第9条（特殊加工化粧合板の規格）に規定する耐汚染性B試験を満足していること。	JAS「合板の日本農林規格」第9条（特殊加工化粧合板の規格）に規定する引っかき硬度B試験を満足していること。	
ポリエステル樹脂系化粧MDF	JIS A 5905「繊維板」に規定する表18の化粧MDFの品質に適合していること。		
ポリエステル樹脂系化粧ﾊﾟｰﾃｨｸﾙﾎﾞｰﾄﾞ	JIS A 5908「パーティクルボード」に規定する表11の化粧パーティクルボードの品質に適合していること。		

（試験方法）
（1）ヒンジは、JIS A 1510-2「建築用ドア金物の試験方法－第2部：ドア用金物」の規定による。
（2）戸当りの衝撃試験は、JIS A 1510-2の規定による。

煙突用成形ライニング材

〈煙突用成形ライニング材〉
【標準仕様書20章】
（品質・性能）

種類	ゾノトライト系けい酸カルシウムライニング材
加熱線収縮率	2.0％以下
曲げ強度	0.8N／㎟以上
圧縮強度	1.0N／㎟以上
ｽﾎﾟｰﾘﾝｸﾞ性	試験体に亀裂の発生、剥離あるいは脱落等がないものとする。
透水性	試験体裏面に水滴が生じないものとする。
耐酸性	試験体に形状変化が見られず、崩壊する危険性がないものとする。
石綿	使用不可。
ﾗｲﾆﾝｸﾞ材とｺﾝｸﾘｰﾄの境界温度	100℃以下とする。

加熱線収縮率、曲げ強度、圧縮強度の確認は、社内試験成績書によることができる。

（試験方法）
（1）スポーリング性試験
適用安全使用温度（300 ℃）から適用安全使用温度まで100℃間隔で30分間加熱冷却を繰り返し、各温度設定時の加熱後及び冷却時の試験体亀裂、剥離、脱落の状況を観察する。（試験体は完成品とし、サイズは内径600mmﾗ長さ1000mm程度とする。）
（2）透水性試験
JIS A 5430「繊維強化セメント板」 .6 透水性試験による。
（3）耐酸性試験
1.0％濃度の硝酸及び硫酸水溶液に下記の方法で浸せきした後、試験体の外観を調べる。
試験は、試験体を温度20℃、湿度60％の試験室に24時間以上静置した後、酸水溶液に1週間（168時間）浸せきする。（ただし、酸水溶液は48時間毎に交換する。）その後、48時間以上温度20℃、湿度60 ％の試験室に静置した後に外観観察を行う。（試験体のサイズは、100mmﾗ50mmとする。）
（4）熱伝導率測定
JIS R 2616「耐火断熱れんがの熱伝導率の試験方法」による。
試験設定温度は100 ℃、150 ℃、300 ℃、450 ℃、600 ℃とする。

天井点検口

〈天井点検口〉
【標準仕様書20章】
（品質・性能）
（1）内外枠の材質は、アルミニウム製とする。
イ）JIS H 4100「アルミニウム及びアルミニウム合金の押出形材」に規定するA6063St5又は同等の性能を有するものとする。
ロ）表面処理は、JIS H 8601「アルミニウム及びアルミニウム合金の陽極酸化被膜」に規定するAA6又は同等の性能を有するものとする。
（2）内枠及び外枠のコーナーピース
鋼板に亜鉛めっき等の防錆処理を行ったもの又は同等の性能を有するものとする。
（3）外枠の取付け金物
イ）吊り金具
鋼板に亜鉛めっき等の防錆処理を行ったもの又は同等の性能を有するものとする。
ロ）吊り金具取付けボルト
鋼板に亜鉛めっき等の防錆処理を行ったもの又は同等の性能を有するものとする。
（4）内枠の仕上げ材留付金物
アルミニウム及びアルミニウム合金押出形材、亜鉛めっき鋼板の類い又は同等以上の品質並びに仕上げ材を固定する性能を有するものとする。
（5）寸法許容差（枠の許容差）
枠の寸法許容差　ｱ0.5mm
外枠と内枠のクリアランス（片側）2.0mm以内
（6）耐久性能（繰り返し開閉試験）
1）繰返し試験後の内蓋の垂れ下がりが、50回、100回及び300回で0.5㎜以内とする。
2）開閉試験後、使用上支障をきたす異常がないこと。

（試験方法）
内蓋（内枠）の繰り返し開閉試験
（1）試験体は、枠見込み40㎜程度のものとする。
（2）吊り金物は、外枠を天井下地取付け用補強材に直接留付ける方式（天井ボードなどの仕上材を挟んで固定しない方式）とする。標準仕様書14章4節により製作した試験体固定用天井下地開口補強に試験体の天井点検口450㎜ﾗ450㎜を吊り金具4箇所にて各メーカー仕様に従い取付ける。
（3）野縁の種類は19形とし、仕上材はせっこうボード厚さ9.5㎜（JIS A 6901「せっこうボード製品」に規定するGB－Rの難燃2級又は発熱性2級以上）二重張りとする。
（4）試験は、内蓋を閉じた状態から自由開放状態にする動作を繰り返し行う。
（5）測定は、上記繰り返し試験において、各50回、100回、300回毎に内蓋の垂れ下がり寸法を測定する。

床点検口

〈床点検口〉
【標準仕様書20章】
（品質・性能）以下のもの又は同等のものとする。

部材名	材質	屋内外用	屋内用
受枠材 蓋枠材	アルミニウム及びアルミニウム合金押出形材	JIS H 4100「アルミニウム及びアルミニウム合金の押出形材」に規定するA6063S-T5（表面処理）JIS H 8602「アルミニウム及びアルミニウム合金の陽極酸化塗装複合被膜」に規定するB種又はJIS H 8601「アルミニウムの及びアルミニウム合金の陽極酸化被覆」に規定するAA15	
	ステンレス製	JIS G 4305「冷間圧延ステンレス鋼板及び鋼帯」に規定するSUS304、SUS430J1L、SUS443J1 （表面処理）HL又は2B仕上げ程度	JIS G 4305のSUS430 （表面処理）HL又は2B仕上げ程度
	鋼製	ー	鋼板又はJIS G 3313「電気亜鉛めっき鋼板及び鋼帯」の類いにメラミン樹脂焼付塗装等若しくは、標準仕様書表18.3.1及び表18.3.2の錆止め塗料塗り等の防錆処理を行ったもの
二重蓋の中蓋	鋳鉄	JIS G 5501「ねずみ鋳鉄品」に規定するFC150、FC200	
	その他	塩化ビニル樹脂製等	
目地材	黄銅	JIS H 3100「銅及び銅合金の板及び条」に規定する C2600、C2720、C2801 JIS H 3250「銅及び銅合金の棒」に規定する C3602、C3604	
	ステンレス	JIS G 4305 に規定するSUS304、SUS430J1L、SUS443J1 JIS G 4308「ステンレス鋼線材」に規定する SUS304	
底板材 コーナーピース 底板補強材	ステンレス鋼板	JIS G 4305 に規定する SUS304、SUS430J1L、SUS443J1 JIS G 4308 に規定する SUS304	JIS G 4305 に規定する SUS430
	アルミニウム板	JIS H 4000「アルミニウム及びアルミニウム合金の板及び条」に規定する A1100P H24 表面処理：陽極酸化塗装複合被膜 JIS H 8601に規定するAA15 JIS H 8602に規定するB	ー
	鋼材	ー	鋼板又はJIS G 3313「電気亜鉛めっき鋼板及び鋼帯」の類いにメラミン樹脂焼付塗装等若しくは、標準仕様書表18.3.1 及び表18.3.2の錆止め塗料塗り等の防錆処理を行ったもの

部材名	品質・性能
パッキン材	塩化ビニル系ゴム、軟質塩化ビニル、クロロプレン、スポンジラバー、エチレンプロピレン等 枠の材質、形状に適した弾力性、密着性、気密性を有するもの
アンカー材	鋼製に電気亜鉛めっき又は防錆塗料を行ったもの
取手	黄銅鋳鉄製、黄銅製、アルミニウム押出形材・合金鋳鉄製、ステンレス鋳鋼品、ステンレス製等 ステンレス鋼材、アルミニウム押出形材などで被覆した、合製樹脂製のものは、衝撃による変形・割れが生じないものとする
鍵	黄銅製、ステンレス製、亜鉛合金製とする 施錠・開錠は、鍵又は開閉用ハンドル式とする

（1）許容差
イ）受け枠基準寸法　600角程度まで
ロ）受け枠寸法の許容差　ｱ0.5mm
ハ）蓋付寸法の許容差　ｱ0.5mm
ニ）受け枠と蓋枠のクリアランス　片側2.0mm以内
（2）蓋の耐荷重性能
イ）加圧する荷重値Pn=1,000N
ロ）蓋中央部の残留たわみが点検口の有効径の0.08％以内
ハ）受け枠・蓋その他に使用上の支障がないこと
ニ）破壊荷重が、加圧荷重値Pnの2倍以上

（試験方法）
耐荷重試験
（1）試験体
イ）貼物用とし、600mm角程度とする。
ロ）枠見込みは、40mm以下とする。
（2）試験
イ）試験は、蓋枠の四周を支持させ、蓋の中央部にφ50mm の加圧板を設置し、加圧する。
ロ）本試験前に200Nを加圧した後、本試験を行う。
ハ）本試験は、1,000Nで加圧、荷重除去を3回繰り返し行った後、その後試験体が破壊する（終局荷重）まで加圧する。
（3）測定
測定は、蓋中央部にかかる加圧を200N増す毎にたわみと受け枠の変形その他の異常について1,000Nまで3回繰り返す。

グレーチング

〈グレーチング〉
【標準仕様書21章】
（品質・性能等）以下のもの又は同等のものとする。
＜鋼製グレーチング＞

項目	品質・性能
メインバー、サイドバー及びエンドプレート	JIS G 3101「一般構造用圧延鋼材」に規定するSS400
クロスバー	JIS G 3101に規定するSS400及びJIS G 3505「軟鋼線材」に規定するSWRM
受け枠用アングル材	JIS G 3101に規定するSS400及びJIS G 3132「鋼管用熱間圧延炭素鋼鋼帯」に規定するSPH
溶融亜鉛めっきの付着量	JIS H 8641「溶融亜鉛めっき」に規定する溶融亜鉛めっきの付着量がHDZ40以上又は、HDZ 50以上 又は、2種50（HDZ50）以上のもの
受け枠用アングル材	塗装仕上げとする場合は、樹脂系塗料

＜ステンレス製グレーチング＞

項目	品質・性能
メインバー、クロスバー	JIS G 4303「ステンレス鋼棒」、JIS G 4304「熱間圧延ステンレス鋼板及び鋼帯」、JIS G 4305「冷間圧延ステンレス鋼板及び鋼帯」、JIS G 4308「ステンレス鋼線材」、JIS G 4318「冷間仕上ステンレス鋼棒」に規定するSUS304 又は JIS G 4304、JIS G 4305に規定するSUS430J1L
サイドバー、エンドバー	メインバー及びクロスバーの材質並びにJIS G 4317「熱間成形ステンレス鋼形鋼」もしくは 、JIS G 4320「冷間成形ステンレス鋼形鋼」に基づく SUS304 又は JIS G 4304、JIS G 4305に基づくSUS430J1L
受け枠用アングル材	JIS G 4304、JIS G 4305、JIS G 4317、JIS G 4320 に規定するSUS304 又は JIS G 4304、 JIS G 4305 に規定するSUS430JIL
アンカー	JIS G 3101に規定するSS400の類いとし、塩害の多い地区は塩害に対する防錆処理を行っているもの

表面仕上げは、HL又はNo.2B程度とする。

（1）組み立て加工
イ）アンカーの間隔は、側溝の場合500mm内外とする。
ロ）平坦性は、変形がなく据付けに支障がないものとする。
ハ）ふたの幅及び長さの許容差は、ｱ3.0mmとする。
（2）耐荷重性能
設計荷重の1.5倍までの加力に対して、溶接部のはずれ等その他の異常がないものとする。

〈荷重試験方法〉
設計荷重は以下の通りとする。

歩車道区分	荷重種別	側溝用（KN）	横断溝用（KN）	加圧面積（cm）
車道	T-20	78.5	109.8	20ﾗ50
	T-14	54.9	76.9	20ﾗ50
	T-6	23.5	33.0	20ﾗ24
	T-2	7.8	11.0	20ﾗ16
歩道	4,903N/㎡の等分布荷重			

（1）試験体
溝ふた、U字溝ふたとし、下記の種別ごとに強度計算における応力度が最大となる製品について試験を行う。
イ）溝ふた　横断用　T-20～T-2のうち1体
歩道用　　のうち1体
側溝用　T-20～T-2のうち1体
ロ）U字溝用　側溝用　T-14～T-2のうち1体
歩道用　　のうち1体
（2）試験体への加力
イ）設計荷重を基準として一方向繰り返し加力を行う。加力速度は、4,903N/sとする。
ロ）繰り返し加力は3回行った後、残留ひずみ等がないか確認する。その後設計荷重の1.5倍まで加力し、溶接部のはずれ等異常の有無について確認する。

屋上緑化

〈屋上緑化システム〉
【標準仕様書23章・改修標準仕様書9章】
（品質・性能）

項目	品質・性能
透水フィルターの材質及び透水性能	材質は、合成樹脂等で耐腐食性及び耐久性のあるもの。透水性能は、その週の数値が直前の週の数値より高い値を維持し、透水係数の上昇傾向を確認できること。
透水、排水層等構成材の主要材質	合成樹脂等で耐腐食性及び耐久性のあるものであること。（保水層を有する場合は、保水層共）
排水層	植物の生育に必要な排水性能を持ち、通気性及び植込み土壌を支え、流出しない構造を
排水層の鉛直方向の排水性能	240ℓ／㎡・h以上
耐荷重性能 排水層の許容圧縮強度	最大有効土壌層厚の単位面積当たりの重量の1.5倍以上、かつ3ﾗ10^4N／㎡の載荷重で破損・有害なひずみなど異常のないこと。また、一般メンテナンス時の上部歩行に際し破損しないこと。（保水層を有する場合は保水層共）
耐根層	重ね合わせ部を含め、クマザサ等の地下茎伸長力の強い植物に対して3年以上の耐根性能（貫通防止能力）を有し、かつ、耐腐食性及び耐久性のあるものであること。
耐根層保護層	材質は、合成樹脂等とし、耐腐食性及び耐久性を有し、かつ、施工中及び施工後の耐根層を保護できること。ただし、耐根層を保護コンクリート（絶縁シートも含む）の下に設ける場合は省略することができるものとする。

（試験方法）
（1）透水フィルタの透水性能
イ）JIS A 1218「土の透水試験方法」の定水位透水試験に準じたインターロッキングブロックの透水性試験装置の下部に試験体（透水フィルタ）をセットし、その上に砂（JIS A5308「レディミクストコンクリート」付属書Aに規定する砂）及びシルト＃250を容積比9：1の割合で混合し、高さ80㎜の試験容器に加圧せずに均一に充填する。（試験体1体）
ロ）常温で1日置いた後、上部より給水する。給水5日間連続後取り出して自然水切り2日とした給水ｻｲｸﾙを繰り返す。
週2回を下回らない測定回数で圧力差の水頭差110mmを保持したまま1分間の透水量を計量し、透水係数を算出する。
なお、乾燥工程の試験室は室温20ｱ3℃　湿度60ｱ5％とする。
ハ）水切り工程は、試験体の入った試験装置を取り出し、試験室内に水が切れる状態で保管する。
ニ）各サイクルごとの透水係数の推移をグラフ化し、6週間を過ぎるまでにその週の数値が直前の週の数値より高い数値を維持し、透水係数の上昇傾向を確認できれば目詰まりが解消方向にあると判断し、合格とする。
ホ）試験開始後6週間、流水時間合計が30日を越えた時点で透水係数がまだ上昇に転じない場合は、その後も透水量が増加する方向へ向かうまで流水時間を延長して確認することも可とする。
（2）排水層の耐荷重性能
イ）最大土壌層厚の単位面積当たりの重量の1.5倍かつ3ﾗ104 N /㎡の等分布荷重による加圧試験を行ない、排水層及び耐根層等に有害な変形・破壊の起きないことを確認する。又その時の圧縮応力に対する歪み（％）を測定する。
（保水層を有する場合は保水層も対象とする。）
ロ）試験体は耐根層から透水層までを通常使用状態にセットした3体とする。加圧速度は10㎜／min以下とする。

〈屋上緑化軽量システム〉
【標準仕様書23章・改修標準仕様書9章】
（品質・性能）

項目	品質・性能
透水、排水層等構成材の主要材質	合成樹脂等で耐腐食性及び耐久性のあるものであること。（保水層を有する場合は、保水層共）
透水層	目詰まりにより植物の生育に支障を生じることがなく、植え込み用土を流出させない構造であること。
排水層	植物の生育に必要な排水性能を持ち、通気性及び植込み土壌を支え、流出しない構造をもつこと。
排水層の鉛直方向の排水性能	240L／㎡・h以上
耐荷重性能 排水層の許容圧縮強度	3ﾗ10^4 N／㎡以上の載荷重で破損・有害なひずみなど異常のないこと。また、一般メンテナンス時の上部歩行に際し破壊しないこと。
耐根層	重ね合わせ部を含め、クマザサ等の地下茎伸長力の強い植物に対して3年以上の耐根性能（貫通防止能力）を有し、かつ、耐腐食性及び耐久性のあるものであること。
耐根層保護層	材質は、合成樹脂等とし、耐腐食性及び耐久性を有し、かつ、施工中及び施工後の耐根層を保護するものであること。ただし、耐根層を保護コンクリート（絶縁シートも含む）の下に設ける場合は省略することができるものとする。

（試験方法）
（1）排水基盤の耐荷重性能
イ）3ﾗ10^4N /㎡ の等分布荷重による加圧試験を行ない、排水層及び耐根層等に有害な変形・破壊の起きないことを確認する。またその時の圧縮応力に対する歪み（％）を測定する。（保水層を有する場合は保水層も対象とする。）
ロ）試験体は耐根層から透水層までを通常使用状態にセットした3体とする。加圧速度は10㎜／min以下とする。

無収縮グラウト材

〈無収縮グラウト材〉
【改修標準仕様書8章】
（無収縮グラウト材の材質等）

混和材	セメント系（酸化カルシウム及びカルシウム・サルファ・アルミネート等によって膨張する性質を利用するもの）とする。
セメント	JIS R 5210「ポルトランドセメント」に適合した普通または早強ポルトランドセメントとする。
砂	土木学会コンクリート標準示方書に定められた品質を有するもので、特に精選されたものを絶対乾燥状態で使用する。 ただし、現場調合形に使用される砂の乾燥状態については、規定しない。

（無収縮グラウト材の品質及び試験方法）

コンシステンシー	Jロートによる流下時間 練り混ぜ完了から3分以内の値　：　8ｱ2秒
ブリージング	練り混ぜ2時間後のブリージング率　：　2.0％以下
凝結時間	凝結開始時間　：　1時間以上　　終結時間　：　10時間以内
無収縮性	材齢　7日　収縮しない
圧縮強度	材齢　3日　20.0N/mmｲ以上　　材齢　28日　40.0N/mmｲ以上
塩化物量	0.30kg/mｳ以下
試験方法	1）NEXCO試験方法312-1999「無収縮モルタル品質管理試験方法」による。プレミックス形と現場調合形で混和材が同一の場合の試験はプレミックス形のみとする。 2）塩化物の試験は、JIS A 1144「フレッシュコンクリート中の水の塩化物イオン濃度試験方法」による。

工事区分表

躯体関係

区分	項目	A	E	M	EV	備考
1．ＲＣ造（梁・壁・床）の貫通孔・開口部	貫通孔のスリーブ材及び取付け	○	○	○	○	
	補強を要する型枠材及び取付け	○				
	補強を要しない型枠材及び取付け	○	○	○	○	
	貫通孔・開口部の墨出し	○	○	○	○	
	貫通孔・開口部の補強	○				
	スリーブ・型枠の穴埋め	○	○	○	○	防火区画、防煙区画
2．Ｓ、ＳＲＣ造のはり貫通孔	Ｓ・ＳＲＣ造貫通鋼管スリーブ・補強	○				
	使用されたスリーブの穴埋め	○	○	○	○	防火区画、防煙区画
	予備スリーブの穴埋め	○	○	○	○	防火区画、防煙区画
3．設備機器の基礎	屋内の基礎（建築設計図に記入あるもの）	○				
	屋内の基礎（設備設計図に記入のあるもの）		○	○		
	屋外・屋上の基礎	○				
	屋上基礎で躯体等にアンカーしない軽微なもの		○	○		
	機器取付け用アンカー・架台		○	○		
	屋内受水タンク用の基礎	○				
	太陽電池アレイ用架台、架台取付け用アンカー	○	○			ＡとＥの区分は図示
4.昇降機関連	昇降路の躯体	○				
	機械室の躯体	○				
	機械室の床開口	○				
	機械室の床配管ピット・蓋	○				
	機械室の上げ床コンクリート打設・仕上	○				
	機械室内換気設備			○		
	巻上機周囲のチェッカープレート敷				○	
	昇降路内ピット防水・集水桝	○				
	点検用タラップ				○	
	各階出入口穴あけ・同補強	○				
	三方枠取付・枠廻り埋戻し・同補修				○	
	出入口扉，三方枠及び幕板				○	
	出入口扉，三方枠及び幕板の各補強鉄骨	○				
	昇降路がＳ造の時の出入口扉・三方枠及び幕板の受け	○				
	昇降路の中間ビーム、ブラケット、レールブラケット支持柱他昇降路内の鋼製部材一式				○	
	昇降路がＳ造の時の中間ビーム及びブラケット受けピース	○				
	機械室内大梁又は昇降路内にフックの取付（フックを含む）	○				
	ホール押釦・インジケータ・鋼索などの壁開口	○				
	点検用コンセント、煙感知器（壁付け感知器用点検ボックス含む）		○			
	ＥＶ制御盤への動力・照明用電源、アース、防災信号、拡声設備（館内放送用）の配管・配線工事		○			
	ＥＶ制御盤から、ＥＶ内監視カメラまでの配管・配線工事				○	監視カメラ含む
	ＥＶ制御盤から、監視カメラ用の監視装置までの配管・配線工事		○			電気設備のモニタ装置に映像を表示する場合
	ＥＶ制御盤又はＥＶ監視盤までの保守遠隔監視用（電話回線）及び緊急地震速報受信用の配管工事		○			
	ＥＶ制御盤又はＥＶ監視盤までの緊急地震速報受信用の配管工事		○			
	ＥＶ制御盤から専用インターホンまでの配管・配線工事				○	
	ＥＶ制御盤からＥＶ監視盤又は警報盤までの制御及びインターホンの配管・配線工事				○	
	動力計測用電力計から自動制御盤までの配管・配線工事			○		
5．その他	トラフ・ピット類（ふたを含む）	○				
	湧水・汚水ピット・ＲＣ造各種水槽	○				
	同上用防水・マンホール・タラップ等	○				
	避雷設備・同接地工事		○			
	ＡＬＣ板の壁開口・補強	○				
	厨房排水溝	○				
	厨房グリース阻集器			○		

区分	項目	A	E	M	EV	備考
5．その他（続き）	オイルサービスタンクの防油堤	○				
	フリーアクセスフロア内の防水堤	○				
	既設埋設配管配線調査（X線探査含む）	○	○	○		

仕上げ関係

区分	項目	A	E	M	EV	備考
1．軽鉄天井・壁下地	補強を要するボードの切り込み及び下地の補強	○				
	補強を要しないボードの切り込み		○	○		
	開口部の墨出し		○	○		
2．可動間仕切り	切り込み及び補強	○				
	位置ボックス	○				
3．つりボルト及びインサート	設備機器・器具・配管・配線・ダクト用		○	○		
4．外壁まわり	外壁ガラリ及びダクト接続用フランジ	○				
	ウエザーカバー、ベンドキャップ(シール共)			○		
	換気扇（取付枠共）			○		
	サッシパネル開口	○				
5．台所・湯沸室まわり	流し台・つり戸棚・水切り棚・コンロ台	○				
	フード（建築工事標準詳細図のもの、シール共）	○				その他はM
	ミニキッチン（照明、水栓を含む）	○				
6．浴室まわり	浴室ユニット、複合浴室ユニット、シャワーユニット			○		
	既製浴槽（ふたを含む）			○		
	浴室及び便所の床排水金物			○		
7．便所まわり	洗面カウンター	○				洗面カウンター一体タイプの場合はM
	鏡（規格寸法のみ）	○				規格寸法の場合はM
	衛生器具ユニット			○		
	手すり、背もたれ	○				衛生器具ユニットの場合はM
	ベビーチェア、ベビーベッド	○				
8．事務室まわり	ファンコイルカバー	○				
	家具組み込みの洗面器			○		切り込みはＡ
9．フリ-アクセスフロア	コンセント		○			
	床パネルの切り込み加工	○				
10．自動扉・電動シャッターまわり	防火戸の自動閉鎖装置		○			
	上部電動シャッター 本体・制御盤・手動開閉装置・ヒューズ装置	○				
	排煙窓本体・自動開閉装置	○				
	防煙たれ壁本体・駆動装置	○				
	上部電動シャッター，排煙窓及び防煙たれ壁連動制御装置の感知器		○			
	自動扉の本体・駆動装置・検出装置（センサー）	○				
	自動扉の手元電源スイッチ		○			
	自動閉鎖装置を取りつける防火戸の切り込み補強及びドアクローザー、フロアヒンジ	○				
	自動扉・電動シャッターからセンサー（付属スイッチ）への配管・配線工事	○				
	自動扉・電動シャッター本体までの配管，配線		○			
	電気錠の本体，扉内配線	○				
	電気錠の扉までの配管及び配線		○			
11．その他	２重ピット及びトレンチのマンホールふた	○				
	機器搬入用フック　ビーム	○				ＥＶ用フック含む
	チェーンブロック		○	○		
	化粧マンホール上ふたの表面仕上げ	○				
	点検口（天井・床下）	○				
	排煙口等の天井仕上材	○				排煙口はM
	消火器ＢＯＸ設置工事	○				
	誘導標識（誘導灯を除く）	○				
	煙突底部排水目皿・排水管	○				
	くつふきマット・玄関マット・自動扉マット部床排水金物（目皿共）・排水管	○				
	くつ洗い流し部排水金物・排水管	○				
	ルーフドレン	○				
	雨水流入配管	○				
	雨水利用設備集水管			○		電動遮断弁以降はM
	屋上緑化	○				屋上緑化用灌水装置までの配管はM
	ポンプ及びポンプアップ配管			○		

屋外排水設備・構内配電線路・構内通信線路・外構

区分	項目	A	E	M	EV	備考
1．雨水	屋外雨水排水設備	○				
	桝及び桝ふた	○				
	マンホールの化粧上ふたの表面仕上げ	○				
	雨水公設桝	○				公共下水道が分流式の場合
2．雑排水・汚水・電力・通信	屋外雑排水及び屋外汚水排水設備			○		
	桝及び桝ふた			○		
	マンホール、ハンドホールの化粧上ふたの表面仕上げ	○				
	排水公設桝			○		公共下水道が合流式の場合
3．植栽	植栽及び客土	○				
4．ユニット型浄化槽	タンク室の躯体	○				浄化槽本体はM
	タンク室の砂充てん			○		
	上記以外のユニット型浄化槽本体・配管及び据付等			○		
5．屋外オイルタンク	タンク室の躯体	○				タンク本体はＥ又はM
	タンク室の砂充てん		○	○		
	上記以外のオイルタンク本体・配管及び据付等		○	○		自家発用はＥ、熱源用はM
	配管トレンチ及びふた	○				トレンチ内架台等はＥ又はM
6．その他	駐車場ガソリントラップ（コンクリート造）	○				

電気配線配管

区分	項目	A	E	M	EV	備考
	機器付属の制御盤以降の２次側配管配線（接地線共）			○	○	
	機器付属の制御盤への１次側電源供給配管配線（接地線共）		○			
	自動制御と動力盤との電源用の渡り配管配線（接地線共）		○			
	機器と付属操作スイッチの渡り配管配線			○	○	
	煙感知器から連動制御盤を経て防煙ダンパ・防火防煙ダンパに至る配管配線		○			
	注油口内アース端子よりのアース用配管配線		○	○		
	ＡＣＰ屋外機と屋内機の渡り電源・信号・アース用配管配線			○		
	ＡＣＰマルチ形屋内機の電源・アース用配管配線		○			
	機器・電極棒用の電源配管配線		○			電極棒はM
	屋内消火栓ポンプ制御盤から消火栓ポンプ始動装置の電源、信号線の配管・配線		○			

凡例
- Ａ：建築工事
- Ｅ：電気設備工事
- Ｍ：機械設備工事
- ~~ＥＶ：エレベーター設備工事~~

この工事区分表は、建築工事（Ａ）、電気設備工事（Ｅ）、機械設備工事（Ｍ）、~~エレベーター設備工事（ＥＶ）~~といった施工上密接に関連する各工事において、材料や作業がどの工事に含まれているかを明確にするために共通事項として添付しているものである。よって、本工事の設計図書に記載されていない、工事範囲外の項目も含んでおり、本工事の具体の工事内容を示すものではないことに留意すること。

香山建築研究所
KOHYAMA ATELIER

一級建築士事務所第12399号(有)香山建築研究所　東京都文京区本郷2-12-10UT本郷3F
管理技術者　長谷川祥久(一級建築士第289714号)

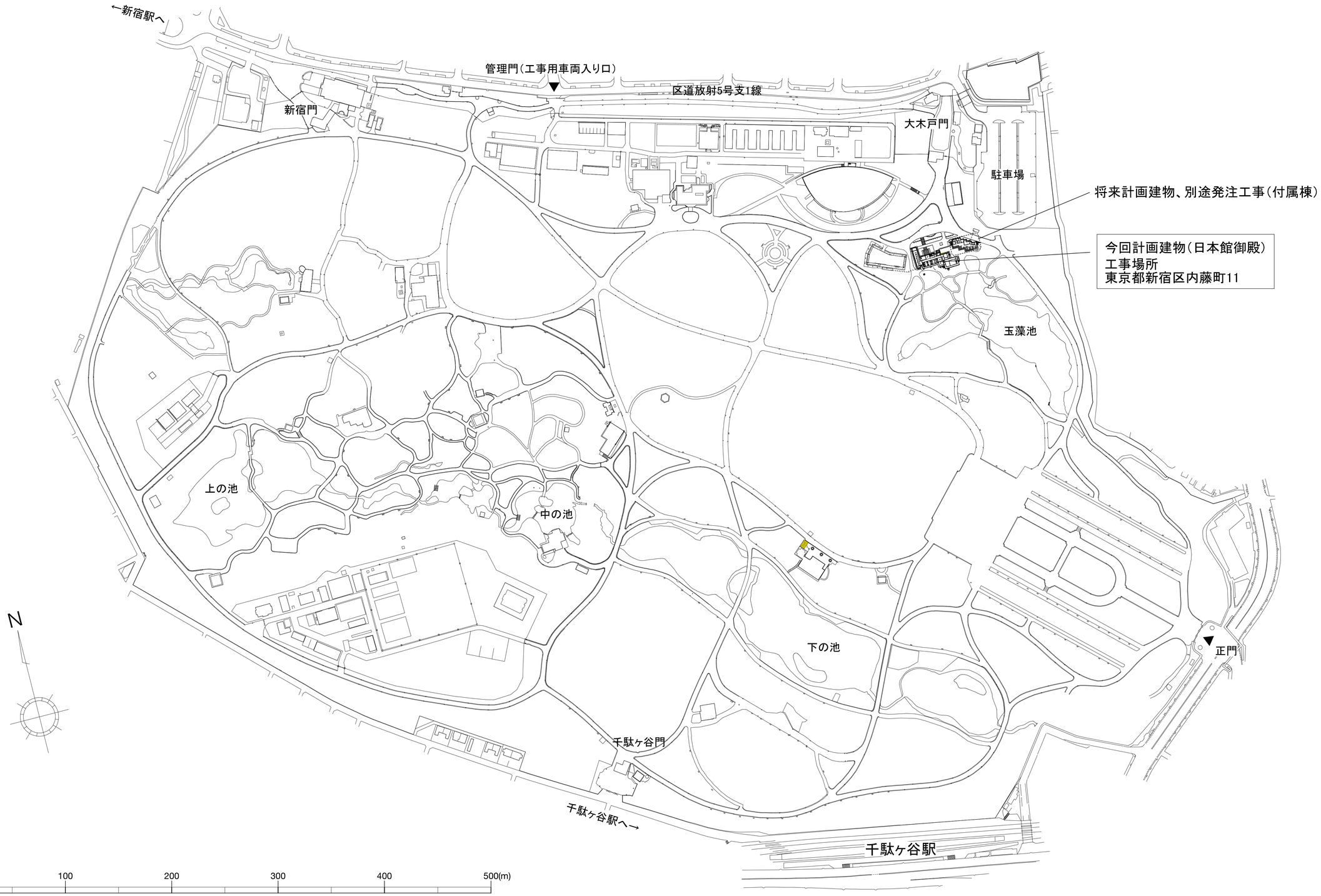
一級建築士事務所第12399号(有)香山建築研究所　東京都文京区本郷2-12-10UT本郷3F
意匠主任技術者　松本洋平(一級建築士第367970号)

令和7年度新宿御苑日本館御殿工事

工事区分表　A1：－　A3：－

環境省新宿御苑管理事務所

A-10
10
164



香山建築研究所
KOHYAMA ATELIER

一級建築士事務所第12399号(有)香山建築研究所　東京都文京区本郷2-12-10UT本郷3F
管理技術者　長谷川祥久（一級建築士第289714号）

一級建築士事務所第12399号(有)香山建築研究所　東京都文京区本郷2-12-10UT本郷3F
意匠主任技術者　松本洋平（一級建築士第367970号）

令和7年度新宿御苑日本館御殿工事

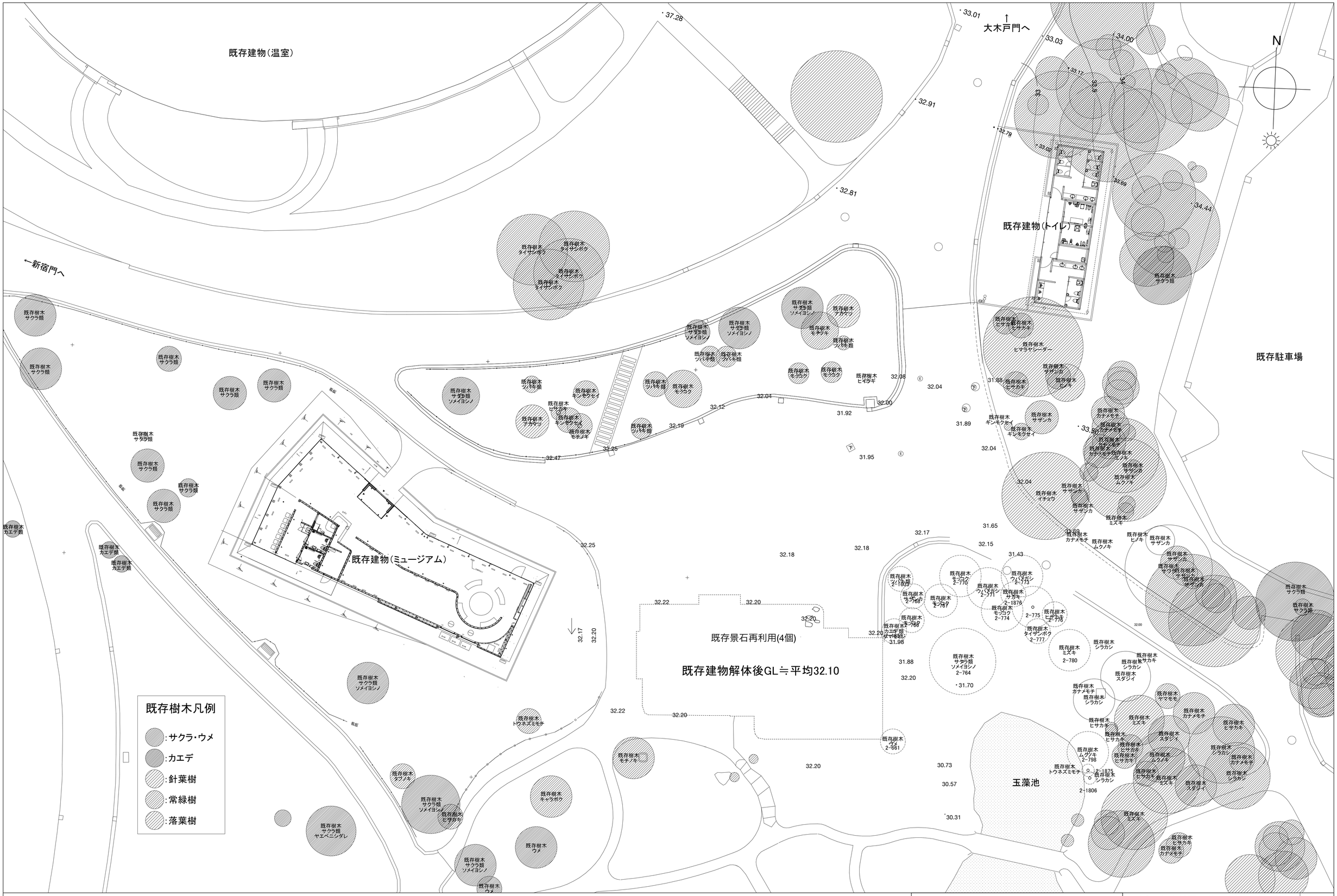
案内図　A1：二　A3：一

環境省新宿御苑管理事務所

A-11

11

164



香山建築研究所
KOHYAMA ATELIER

一級建築士事務所第12399号(有)香山建築研究所　東京都文京区本郷2-12-10UT本郷3F
管理技術者　長谷川祥久（一級建築士第289714号）

一級建築士事務所第12399号(有)香山建築研究所　東京都文京区本郷2-12-10UT本郷3F
意匠主任技術者　松本洋平（一級建築士第367970号）

令和7年度新宿御苑日本館御殿工事

現況図

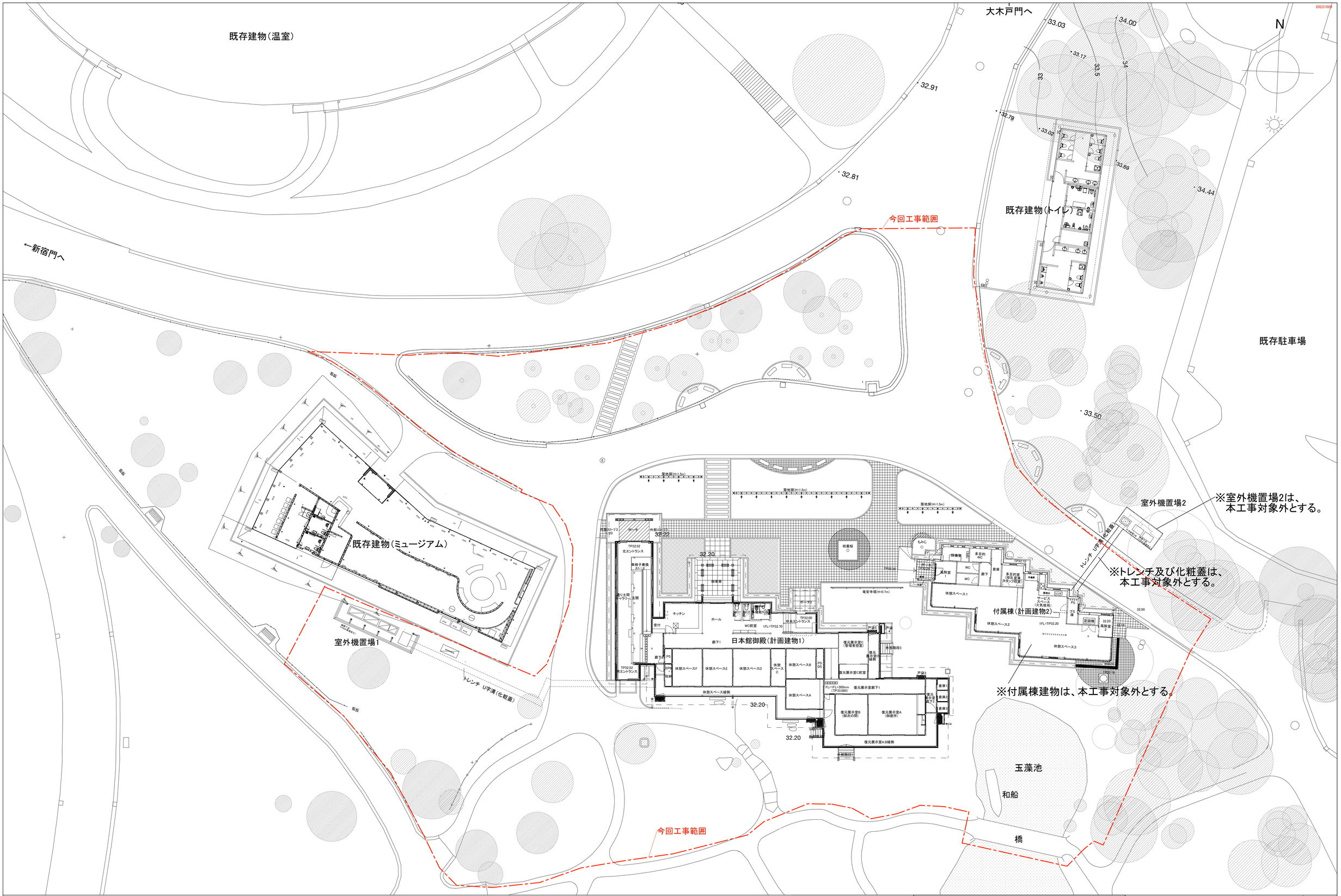
A1：S=1/200
A3：S=1/400

環境省新宿御苑管理事務所

A-12

12

164



香山建築研究所
KOHYAMA ATELIER

一級建築士事務所第12399号(有)香山建築研究所　東京都文京区本郷2-12-10UT本郷3F
管理技術者　長谷川祥久（一級建築士第289714号）

一級建築士事務所第12399号(有)香山建築研究所　東京都文京区本郷2-12-10UT本郷3F
意匠主任技術者　松本洋平（一級建築士第367970号）

令和7年度新宿御苑日本館御殿工事

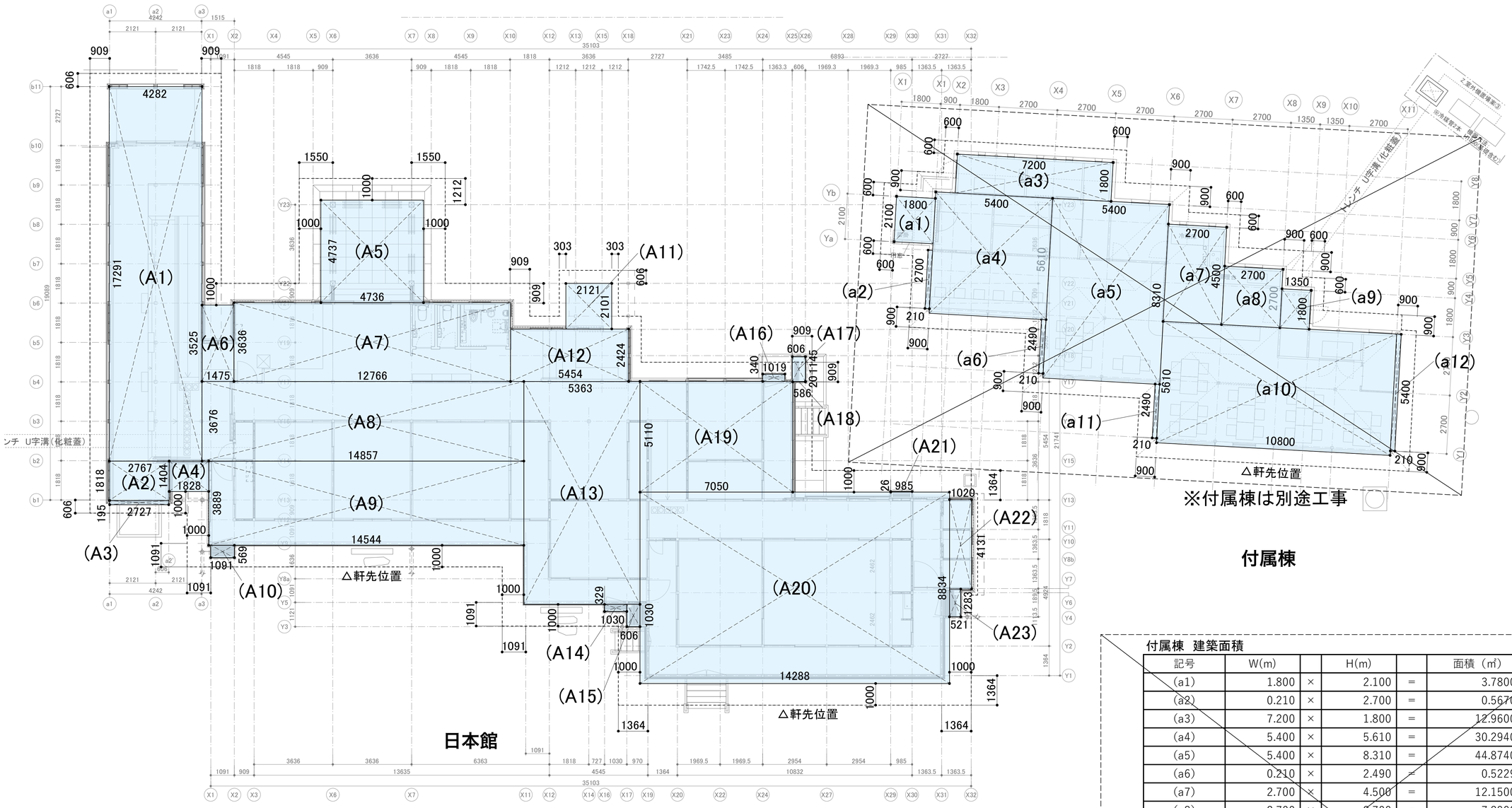
配置図　A1：S=1/200　A3：S=1/400

環境省新宿御苑管理事務所

A-13

13

164



日本館　建築面積

記号	W(m)		H(m)		面積（㎡）	記号	W(m)		H(m)		面積（㎡）
(A1)	4.282	×	17.291	=	74.040062	(A13)	5.363	×	10.292	=	55.195996
(A2)	2.767	×	1.818	=	5.030406	(A14)	1.030	×	0.329	=	0.338870
(A3)	2.727	×	0.195	=	0.531765	(A15)	0.606	×	1.030	=	0.624180
(A4)	1.828	×	1.404	=	2.566512	(A16)	1.019	×	0.340	=	0.346460
(A5)	4.736	×	4.737	=	22.434432	(A17)	0.606	×	1.145	=	0.693870
(A6)	1.475	×	3.525	=	5.199375	(A18)	0.586	×	0.020	=	0.011720
(A7)	12.766	×	3.636	=	46.417176	(A19)	7.050	×	5.110	=	36.025500
(A8)	14.857	×	3.676	=	54.614332	(A20)	14.288	×	8.834	=	126.220192
(A9)	14.544	×	3.889	=	56.561616	(A21)	0.985	×	0.026	=	0.025610
(A10)	1.091	×	0.569	=	0.620779	(A22)	1.020	×	4.131	=	4.213620
(A11)	2.121	×	2.101	=	4.456221	(A23)	0.521	×	1.283	=	0.668443
(A12)	5.454	×	2.424	=	13.220496	建築面積（㎡）				=	510.057633

日本館 建築面積(㎡)　＝　510.057 ･･･(A)

付属棟　建築面積

記号	W(m)		H(m)		面積（㎡）
(a1)	1.800	×	2.100	=	3.780000
(a2)	0.210	×	2.700	=	0.567000
(a3)	7.200	×	1.800	=	12.960000
(a4)	5.400	×	5.610	=	30.294000
(a5)	5.400	×	8.310	=	44.874000
(a6)	0.210	×	2.490	=	0.522900
(a7)	2.700	×	4.500	=	12.150000
(a8)	2.700	×	2.700	=	7.290000
(a9)	1.350	×	1.800	=	2.430000
(a10)	10.800	×	5.610	=	60.588000
(a11)	0.210	×	2.490	=	0.522900
(a12)	0.210	×	5.400	=	1.134000
建築面積（㎡）				=	177.112800

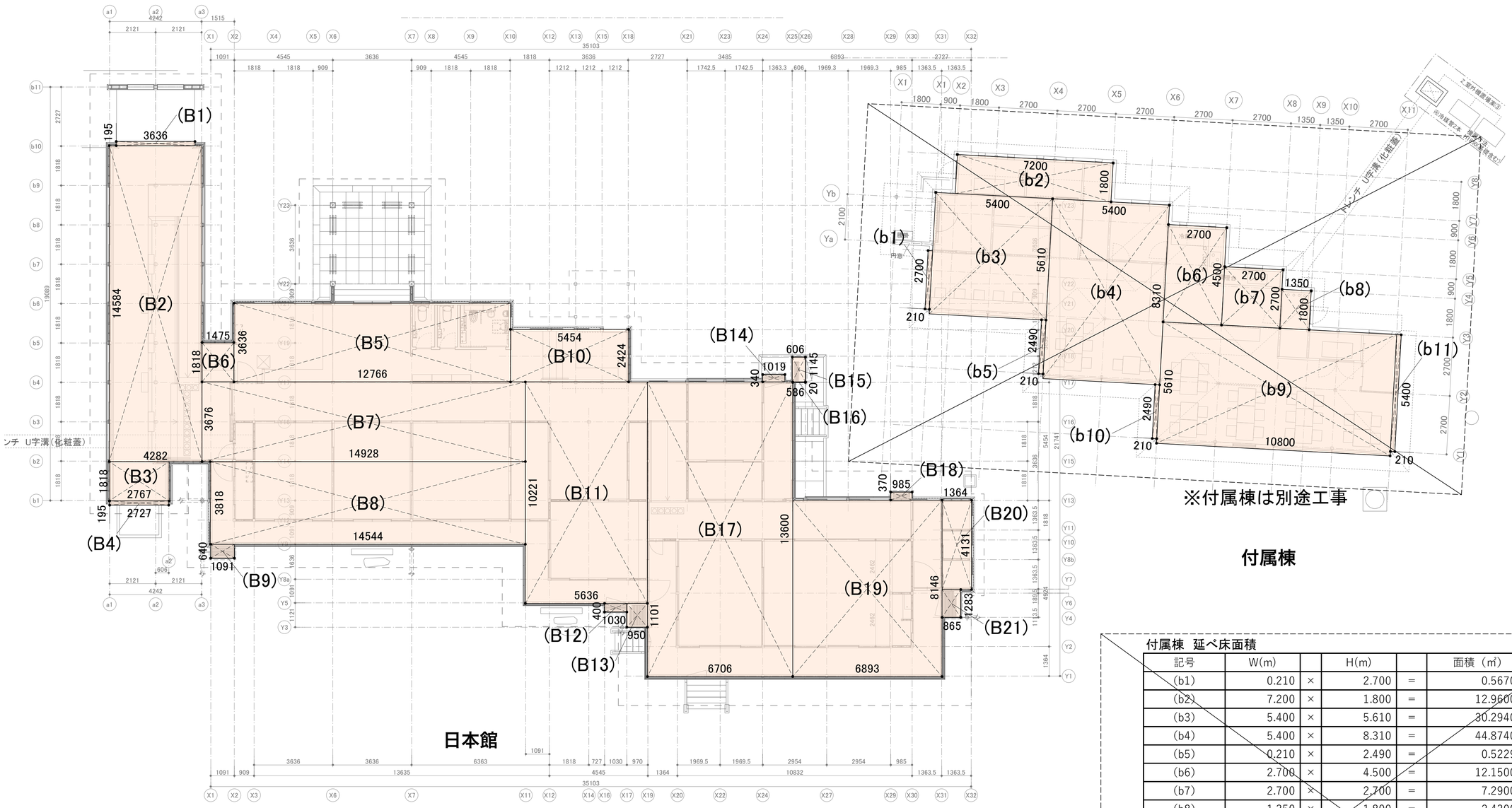
付属棟 建築面積(㎡)　＝　177.112 ･･･(a)

日本館+付属棟　建築面積＝(A)+(a)　＝　687.169 ㎡

香山建築研究所
KOHYAMA ATELIER
一級建築士事務所第12399号(有)香山建築研究所　東京都文京区本郷2-12-10UT本郷3F
管理技術者　長谷川祥久(一級建築士第289714号)
一級建築士事務所第12399号(有)香山建築研究所　東京都文京区本郷2-12-10UT本郷3F
意匠主任技術者　松本洋平(一級建築士第367970号)

令和7年度新宿御苑日本館御殿工事
求積図(1)　建築面積
A1：S=1/100
A3：S=1/200
環境省新宿御苑管理事務所

A-14
14
164



日本館 延べ床面積

記号	W(m)		H(m)		面積（㎡）	記号	W(m)		H(m)		面積（㎡）
(B1)	3.636	×	0.195	=	0.709020	(B13)	0.950	×	1.101	=	1.045950
(B2)	4.282	×	14.584	=	62.448688	(B14)	1.019	×	0.340	=	0.346460
(B3)	2.767	×	1.818	=	5.030406	(B15)	0.606	×	1.145	=	0.693870
(B4)	2.727	×	0.195	=	0.531765	(B16)	0.586	×	0.020	=	0.011720
(B5)	12.766	×	3.636	=	46.417176	(B17)	6.706	×	13.600	=	91.201600
(B6)	1.475	×	1.818	=	2.681550	(B18)	0.985	×	0.370	=	0.364450
(B7)	14.928	×	3.676	=	54.875328	(B19)	6.893	×	8.146	=	56.150378
(B8)	14.544	×	3.818	=	55.528992	(B20)	1.364	×	4.131	=	5.634684
(B9)	1.091	×	0.640	=	0.698240	(B21)	0.865	×	1.283	=	1.109795
(B10)	5.454	×	2.424	=	13.220496	建築面積（㎡）				=	456.718124
(B11)	5.636	×	10.221	=	57.605556						
(B12)	1.030	×	0.400	=	0.412000						

日本館 延べ床面積(㎡) ＝ 456.718 ･･･(B)

付属棟 延べ床面積

記号	W(m)		H(m)		面積（㎡）
(b1)	0.210	×	2.700	=	0.567000
(b2)	7.200	×	1.800	=	12.960000
(b3)	5.400	×	5.610	=	30.294000
(b4)	5.400	×	8.310	=	44.874000
(b5)	0.210	×	2.490	=	0.522900
(b6)	2.700	×	4.500	=	12.150000
(b7)	2.700	×	2.700	=	7.290000
(b8)	1.350	×	1.800	=	2.430000
(b9)	10.800	×	5.610	=	60.588000
(b10)	0.210	×	2.490	=	0.522900
(b11)	0.210	×	5.400	=	1.134000
建築面積（㎡）				=	173.332800

付属棟 延べ床面積(㎡) ＝ 173.332 ･･･(b)

日本館+付属棟 延べ床面積＝(B)+(b) ＝ 630.050 ㎡

香山建築研究所
KOHYAMA ATELIER
一級建築士事務所第12399号(有)香山建築研究所　東京都文京区本郷2-12-10UT本郷3F
管理技術者　長谷川祥久（一級建築士第289714号）
一級建築士事務所第12399号(有)香山建築研究所　東京都文京区本郷2-12-10UT本郷3F
意匠主任技術者　松本洋平（一級建築士第367970号）

令和7年度新宿御苑日本館御殿工事
求積図(2)　延べ床面積
A1：S=1/100
A3：S=1/200
環境省新宿御苑管理事務所

共　通　事　項

(1) 本仕上表の表記
1) 項目は、○印の付いたものを適用する。
○印の付かない場合は、※印の付いたものを適用する。
○印と ⊗ 印の付いた場合は、共に適用する。
2) 記載の（○－○○－○）内の数字は建築工事標準詳細図（令和4年版）の詳細番号を示す。
3) 略号は下表による。（[ ]はJIS旧略号及び名称を示す）

略 号	仕上材等	略 号	仕上材等
RC( )	コンクリート打放し（種別）	SOP	合成樹脂調合ペイント塗り
CB	コンクリートブロック積み	EP	合成樹脂エマルションペイント塗り
FS／TS	複層ビニル床シート／単層ビニル床シート	EP-G	つや有合成樹脂エマルションペイント塗り
[NC]	[ビニル床シート]	NAD	アクリル樹脂系非水分散形塗料塗り
KT	コンポジションビニル床タイル	DP-1	耐候性塗料塗り（1級）
[CT,CTS]	[コンポジションビニル床タイル（半硬質、軟質）]	DP-2	耐候性塗料塗り（2級）
FT	複層ビニル床タイル	DP-3	耐候性塗料塗り（3級）
[HT]	[ホモジニアスビニル床タイル]	WP	木材保護塗料塗り
KT(E)	帯電防止コンポジションビニル床タイル	CL	クリヤラッカー塗り
[VT(E)]	[帯電防止ビニル床タイル]	UC	ウレタン樹脂ワニス塗り
FOA	置敷きビニル床タイル	OS	オイルステイン塗り
FOB	薄型置敷きビニル床タイル	S-PR	せっこうプラスター塗り
VB	ビニル幅木	D-PR	ドロマイプラスター塗り
WB	木製幅木		
GB-R	せっこうボード		
GB-NC	不燃積層せっこうボード（化粧無し：下地張り用）		
GB-NC(T)	不燃積層せっこうボード（化粧有り：トラバーチン模様）		
GB-D	化粧せっこうボード		
GB-S	シージングせっこうボード		
GB-F	強化せっこうボード		
ケイカル板	けい酸カルシウム板（タイプ2）		
ケイカル板(P)	吸音用穴あき無石綿セメントけい酸カルシウム板		
DR	ロックウール化粧吸音板（フラットタイプ）		
DR(凹凸)	ロックウール化粧吸音板（凹凸タイプ）		
DR(軒天)	ロックウール化粧吸音板（軒天井用：フラットタイプ）		
DR(軒天凹凸)	ロックウール化粧吸音板（軒天井用：凹凸タイプ）		
PF板	押出法ポリスチレンフォーム断熱材		
RW-B	ロックウールガラスクロス張り		
GW-B	グラスウールガラスクロス張り		

4) 特記以外の鉄鋼面、亜鉛めっき鋼面は、SOP（F☆☆☆☆）とする。
5) 特記以外の建物内部の木部は、EP-G（水系）とする。ただし、和室まわりは塗装なしとする。
6) 備考欄の「測定対象室（　）」は特記仕様書の「室内空気中の化学物質の濃度測定」を行う対象室を示し、（ ）内数値は測定箇所数を示す。

外　部　仕　上　げ　※立面図1,2参照

	種　別	施工箇所
床	・コンクリート直均し仕上げ（1-01-3）（増打厚さ ※10mm ・ ）	
	・タイル張り仕上げ （1-01-6）（張り代 ※30mm ・ ）	
	・天然石（ひき石）（1-01-9）	
	・モルタル、防水モルタル（1-01-1）	※図示
	・視覚障害者用床タイル（1-01-7）	※図示
	・	
壁・柱・梁	※RC(B)増打厚さ20mm（2-02-8～11）(※出隅面取り20mm ・出隅角面取20×20mm）のうえ ・複層塗材（ ） ・外装薄塗材（ ） ・塗装なし ・ ・外装タイル密着張り（2-01-4） ・外装タイルマスク張り（2-01-7） ・	
腰	※壁・柱・梁に同じとする ・	
屋　根	※下地コンクリート直均し仕上げのうえ ・アスファルト防水（A-2）、保護コンクリート直均し仕上げ、伸縮目地 ・アスファルト防水（AI-2）、保護コンクリート直均し仕上げ、伸縮目地 ・アスファルト防水（D-2）	
軒　天	・	
庇	施工箇所	
	上　端	
	は　な	
	下　端	
外部詳細	・屋上パラペット	・コンクリート笠木：保護防水（・5-01-3 ・5-02-3） ・コンクリート笠木：露出防水（・5-03-1 ・5-04-1 ・5-05-1） ・アルミニウム笠木：保護防水（・5-01-1 ・5-01-5 ・5-01-7 ・5-02-1 ・5-02-5 ・5-02-7） ・アルミニウム笠木：露出防水（・5-03-2 ・5-04-2 ・5-05-2）
	・塔屋取合い	・コンクリート笠木（・5-01-4 ・5-02-4 ・5-03-3 ・5-04-3 ・5-05-3） ・アルミニウム製水切（・5-01-2、・5-01-6 ・5-03-4）
	・屋上点検口	※（5-21-1：ステンレス製ふた） ・
	・屋上換気塔	※（5-21-2） ・
	・屋上管類取出し口	※（5-22-1） ・
	・屋上基礎	・（5-22-2）・（5-22-3） ・
	・煙突	※煙突用成形ライニング材（7-21-1）径（ ）mm 天板（※有り ・無し） ・ボイラー用 ・冷温水発生機用 ・自家用発電機用 ・コジェネレーションシステム用 ・ 煙突用成形ライニング材の適用安全温度（ ）℃ ・
	・雨とい及びルーフドレン	※鋼管とい（5-32-1）径（ ）mm ・横型 ・たて型 ・硬質ポリ塩化ビニル管（5-32-1）径＝ mm ・横型 ・たて型
	・タラップ	・（8-31-1） ・（8-31-2） ※安全ｶﾞｰﾄﾞ付（8-31-3） ・
	・屋上手すり	※（5-23-1） ・
	・庁名文字	・（8-41-1） ・
	・くつふきマット	※排水付き（8-21-2） ・排水なし（8-21-1） ・泥だまり、排水付き（8-21-3）
	・くつ洗い流し	・一槽型（8-22-1） ・二槽型（8-22-2）
	・ウッドデッキ	・（8-12-3） ・（8-12-4） ・図示による

内　部　仕　上　げ

下地の区分欄の略号	C：コンクリート下地、ALC下地、押出成形セメント板下地 CB：コンクリートブロック下地 S：軽量鉄骨下地 W：木造下地 FA：フリーアクセスフロア

床

特記以外の下地及び詳細番号は下表による。

仕上げ種別	詳細番号
FS,KT,FT	（1-01-4）(増打厚さ ※10mm ・ ）
[NC],[CT,CTS],[HT]	
タイル	（1-01-6）(張り代 ※30mm ・ ）
カーペット	（1-02-4又は5）
畳	（1-02-3）(・ポリスチレンフォーム床下地t=(40)を省略する)
天然木化粧複合フローリング	（1-02-8又は9）
RC床用塗料 防塵用塗料	（1-01-3）(増打厚さ ※10mm ・ ）
モルタル 防水モルタル	（1-01-1）防水モルタル厚さ ※15mm ・30mm ・
フリーアクセスフロア	（1-02-14：※ H＝100 ・H＝ ） RC躯体面の指定仕上材（※ なし ・防塵用塗料塗り） 指定仕上材（※ タイルカーペット ・KT(E)）

幅　木

特記以外の下地及び詳細番号は下表による。

仕上げ種別	高さ(mm)	詳細番号
VB	※60 ・75 ・100 ・	（2-11-1）(2-11-9）
WB(樹種 ※杉 ・)	※60 ・75 ・100 ・	（2-11-4）(2-11-10） CL仕上げ
FS（ビニル床シート立ち上げ）	※60 ・75 ・100 ・	（2-11-2：アルミ製ジョイナー）

壁・柱

特記以外の下地及び詳細番号は下表による。

仕上げ種別	詳細番号
ボード張り（ RC 又は CB 下地）	（2-03-6又は7）(2-03-10又は11）
ボード張り（軽量鉄骨壁下地：一般壁）	（2-22-1）(2-24-5,6：継目処理の場合）
ボード張り（軽量鉄骨壁下地：遮音壁）	（2-23-1）(2-24-5,6：継目処理の場合）
内装タイル（ RC 又は CB 下地）	（2-01-2）
モルタル	（2-02-12）
吸音材張り（RC 又は CB 下地）	（2-02-13）
地下二重壁	（2-41-1）

特記以外のボード類は下表による。

種別	厚さ(mm)	備　考
GB-R	12.5	塗装仕上げ及び、壁紙張りの場合は継目処理（2-03-6又は7）(2-03-10又は11） ただし、仕上げ等行わない場合は突き付け（2-03-8又は9）(2-03-12又は13）とする。（二重張りは特記無き限り下張りは上張りと同厚のボードとする。）
ケイカル板	8	突付け（V目地）（2-03-17：下地張りは GB-S） （2-03-12：下地張りは ・GB-S ・ケイカル板）

(1) 特記以外のコンクリート打放しの出隅面取りは10mmとする。（梁型とも）
(2) 特記以外の下がり壁（3-12-1 ※塩ビ製見切縁 ・アルミ製見切縁）の仕上げは壁と同じとする。ただし下地張りは無しとする。
(3) 軽量鉄骨下地と RC又は CB下地のボード壁との一般壁の取合いは（2-24-4又は7 ※目透し ・継目処理 ）とする。
(4) ボード壁とサッシ取合いは（2-24-8）とする。
(5) 押入れ（6-46-1 ）の壁は GB-R 厚さ12.5mm塗装なし突付けとする。
(6) 化粧ケイカル板を使用する場合の目地処理は
（・目地シーリング工法 ・アルミジョイナー工法 ・ ）とする。
(7) タイルを、軽量鉄骨壁下地のボード面に接着張りを行う場合のボードは、下地張りをGB－S、上張りをケイカル板（突付け）とする。（2-03-13）

天　井

特記以外の下地及び詳細番号は下表による。

仕上げ種別	厚さ(mm)	詳細番号
DR (フラットタイプ)	・9 ・12	・（3-01-4） ・
DR (凹凸タイプ)	・12 ・15	・（3-01-4） ・
ケイカル板	・6	・（3-01-2） ・
GB-NC(T)	・9.5	・（3-01-2） ・
RW-B 又は GW-B 張り	・25	・（3-01-12）・

(1) 軽量鉄骨天井下地は（3-21-1,2）(3-21-3）(3-41-1,2）(3-42-1,2）とする。
(2) 押入れ（6-46-1 ）の天井は 厚さ12.5mm塗装なし突付けとする。
(3) 壁～天井の取合いは天井付き目地（3-11-3,4,7,8 ※塩ビ製見切縁 ・アルミ製見切縁 ）とする。
(4) DR の下張りは ※ GB-R12.5mm ・GB-NC9.5mmとする。
(5) GB-NC(T)の大きさは ※910×455mm ・910×910mmとする。
(6) 塗装仕上げ及び壁紙張りの場合はGB-R厚さ12.5mm（継目処理）とする。
(7) 外部のDR(軒天)の下地張りは GB-S厚さ12.5mmとする。

内部詳細

・断熱材	種　別 ※PF板打ち込み ・現場発泡断熱材 窓まわりなどの補修材は現場発泡断熱材とする。
	施工範囲 外壁 ※内面がGB-R張り（GL工法）の床面から梁型下端まで（階段は除く）の部分（7-01-2） ・内面がGB-R 張り（GL工法）の床面から屋根スラブ下面まで（階段は除く）の部分（7-01-1） ・図示による スラブ ・土層接地スラブ下面（機械室、電気室、自家発電機室は除く及び図示の範囲（7-01-2）(ただし、屋根スラブ下面を除く） ・図示による
・雨とい及び掃除口	※鋼管とい（5-32-1,2） ・
・カーテンボックス及びブラインドボックス	※アルミニウム製（3-31-3） ・木製（3-32-1） ・
・扉	(1) 壁当たりとなる開き戸の取付位置は壁面からの逃げ寸法を100mmとする。 (2) RCまたはCB壁に取付く建具は室外側枠納まりとする。
・階段手すり	※集成材（7-12-2～4.8） ・ ・ビニル製（7-12-5～7：通しのFBは38×9.0とする）
・トラフ	・しま鋼板 SOP、EP-G 又は溶融亜鉛めっき（1-21-3） ・ビニル床タイル（1-21-4） ・
・トイレブース	※既製品（へだての補強が必要な場合には、製造所の仕様による）
・便所手すり	※（6-23-1～3）(6-25-1）(6-26-1～3） ・
・便所防水	※塗膜防水（1-31-2） ・
・流し台およびコンロ台	・（6-11-1） ・図示による
・流し上部水切り	・奥行き55mm（6-11-3） ・奥行き（ mm)（6-11-4）
・吊戸棚	・（6-11-5） ・図示による
・フード	・（6-11-2） ・図示による
・和室出入口	※（6-42-1,2） ・（6-41-1） ・（6-41-2～5） ・図示による
・押入れ	※（6-46-1 ※天袋なし ・天袋あり）） ・図示による
・脱衣箱	・（6-32-1） ・図示による
・くつふきマット	※排水付き（8-21-2） ・排水なし（8-21-1） ・泥だまり、排水付き（8-21-3）
・タラップ	※（8-31-1） ・
・表示標識	・（8-42-1） ・（8-42-2） ・（8-43-1） ・（8-43-2） ・（8-43-3） ・（8-44-1） ・（8-44-2） ・（8-44-3） ・（8-44-4）
・木製受付カウンター	※（8-11-1） ・図示による
・コーナーカウンター	※（8-11-2） ・図示による
・木製コーナーガード	・（8-12-1） ・図示による
・木製腰壁	・（2-12-1） ・（2-12-2） ・図示による

階	室　名	床 下地	床 仕上げ	幅木 下地	幅木 仕上げ	壁・柱 下地	壁・柱 仕上げ	天井 下地	天井 仕上げ	備　考
高レベル復元的整備エリア										
1	復元展示室A(御座所) 復元展示室B(御次の間)	W	絨毯A敷き(畳下地)	W	畳寄せ ヒノキD60×H60	W	合板のうえ、ラスボードt7.5 下地t7.5+茶根岸砂壁	S	平格天井（桧） 格縁：W80H80@600程度（縦横共） 鏡板：t9（市松張り）	長押、鴨居、敷居 復元展示室A（御座所） ：測定対象室（1）
1	復元展示室A 床,床脇	W	板張り	W	―	W	合板のうえ、ラスボードt7.5 下地t7.5+茶根岸砂壁	S	床：GB-Rt12.5、ヒノキt9.0柾目（目透かし張り） 床脇：GB-Rt12.5、スギ杢目t12	天袋、違い棚、地袋 長押、鴨居、敷居
1	復元展示室C 復元展示室C 前室 復元展示室廊下1 内部スロープ2	W	絨毯A敷き(畳下地) 絨毯B敷き(畳下地) 絨毯B敷き(畳下地)	W	畳寄せ ヒノキD60×H60	W	合板のうえ、GB-Rt12.5 漆喰調塗装	S	猿頬天井 猿頬：W60H80 稲子天井：スギ柾目t7	長押、鴨居、敷居
1	復元展示室廊下2	W	ヒノキ圧密フローリング t15 w90	W	ぞうきんずりヒノキt10w31	W	合板のうえ、GB-Rt12.5 漆喰調塗装	S	猿頬天井 猿頬：W60H80 稲子天井：スギ柾目t7	長押、鴨居、敷居
1	倉庫1、2、3	W	ヒノキ圧密フローリング t15 w90	W	ヒノキt15H45	W	合板のうえ、GB-Rt12.5 漆喰調塗装 腰壁：羽目板張り	―	敷目板天井	長押、鴨居、敷居
1	復元展示室A,B縁側	W	板張り(ヒノキt30本実w120)	W	ぞうきんずりヒノキt33W31	W	合板のうえ、ケイカル板t6+t6 漆喰調塗装	W	屋根裏天井	木製欄干 外部階段1,2 長押、鴨居、敷居
1	復元展示室C縁側	W	板張り(ヒノキt30本実w120)	W	ぞうきんずりヒノキt33W31	W	合板のうえ、ケイカル板t6+t6 漆喰調塗装	S	猿頬天井 猿頬：W60H80 稲子天井：スギ柾目t7	外部階段3 長押、鴨居、敷居
1	御車寄	C	石敷	W	―	W	合板のうえ、ラスカットボードt9.0 本漆喰t7.5 押縁付羽目板張り	S	猿頬天井 猿頬：W60H80 稲子天井：スギ柾目t7	階段：石 自立式フェンス
復元的整備エリア										
1	休憩スペース A,B,C,D,E,F ホール	W	絨毯C敷き	W	ぞうきんずりヒノキt10W31	W	合板のうえ、GB-Rt12.5 漆喰調塗装	S	棹縁天井 棹縁：W36H40 稲子天井：スギ柾目t7	長押、鴨居、敷居 休憩スペースA ：測定対象室（1） 休憩スペースD,E,F ：測定対象室（2）
1	売店・キッチン	W	防滑抗菌長尺シート ＋合板t15+合板t6	W	SUS-HL t3.0 H100	W	合板のうえ、GB-St12.5 不燃化粧板t3.0	S	GB-Rt12.5 , DRt9.0	カフェカウンター 長押、鴨居、敷居
1	受付	W	防滑抗菌長尺シート ＋合板t15+合板t6	W	SUS-HL t3.0 H100	W	合板のうえ、GB-St12.5 不燃化粧板t3.0	S	敷目板天井	受付カウンター 長押、鴨居、敷居
1	WC前室	W	ヒノキ圧密フローリング t15 w90	W	ぞうきんずりヒノキt18W31	W	合板のうえ、GB-Rt12.5 漆喰調塗装	S	棹縁天井 棹縁：W36H40 稲子天井：スギ柾目t7	長押、鴨居、敷居
1	WC1、2 多機能トイレ	W	防滑抗菌長尺シート	W	ビニル巾木H60	W	下段：合板のうえ、GB-St12.5 不燃化粧板t3.0 上段：合板のうえ、GB-St12.5 漆喰調塗装	S	敷目板天井 敷目板：GB-Rt12.5、 天然木練付合板t6（目透かし貼り）	鏡 壁見切り
1	廊下1	W	絨毯C敷き	W	ぞうきんずりヒノキt10W31	W	合板のうえ、GB-Rt12.5 漆喰調塗装	S	棹縁天井 棹縁：W36H40 稲子天井：スギ柾目t7	長押、鴨居、敷居
1	廊下2 収納	W	ヒノキ圧密フローリング t15 w90	W	ぞうきんずりヒノキt18W31	W	上段：合板のうえ、GB-St12.5 漆喰調塗装	S	敷目板天井 敷目板：GB-Rt12.5、 天然木練付合板t6（目透かし貼り）	長押、鴨居、敷居
1	休憩スペース縁側	W	板張り(ヒノキt30本実w120)	W	ぞうきんずりヒノキt3W31	W	合板のうえ、ケイカル板t6+t6 漆喰調塗装	W	屋根裏天井	長押、鴨居、敷居
1	中央エントランス	W C	ヒノキ圧密フローリング t15 w90 モルタル金鏝.いぶし瓦300角t30	W	ぞうきんずりヒノキt3W31 タタキ部：ヒノキ巾木t15h250	W	合板のうえ、GB-Rt12.5 漆喰調塗装	S	棹縁天井 棹縁：W36H40 稲子天井：スギ柾目t7	長押、鴨居、敷居 下足入れ、腰掛け
エントランス部・共用部										
1	北エントランス 南エントランス	C	モルタル金鏝.いぶし瓦300角t30	W	ヒノキt21 H325、L4000	W	上段：合板のうえ、GB-St12.5 漆喰調塗装	W	屋根裏天井	下足入れ 測定対象室（2）
1	通り土間ギャラリー 玄関、内部スロープ1 車椅子乗換スペース	C	下足（土間ギャラリー） ：モルタル.いぶし瓦300角 上足（玄関、スロープ） ：合板t15,ヒノキ圧密フローリングt15 w90	W	木製	W	上段：合板のうえ、GB-St12.5 漆喰調塗装	W	屋根裏天井	
1	ポーチ	C	モルタル.いぶし瓦300角	W	付土台（b11通り、4面共）	W	合板のうえ、ラスカットボードt9.0 本漆喰t10	W	屋根裏天井	
1	外部スロープ1,2	C	石敷き		―					
1	PS,DS,EPS	W	ヒノキ圧密フローリング t15 w90	W	ぞうきんずりヒノキt18w31	W	合板のうえ、GB-St12.5 塗装無し（H=FL+3000まで）	―	直天	

共通事項

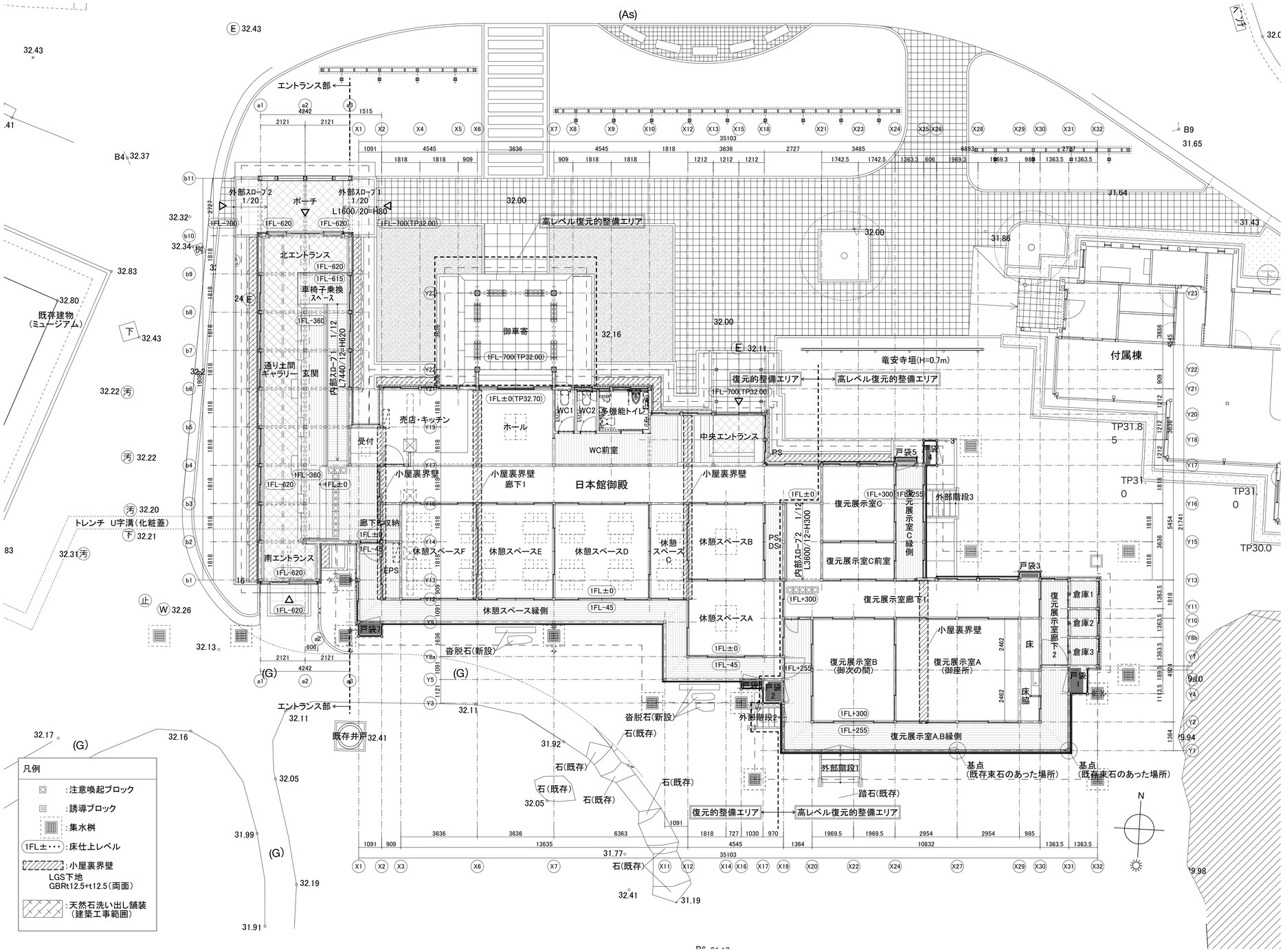
＜壁＞
※外壁、縁側壁（垂れ壁含む）
：断熱材（グラスウールK24t90）充填とする。
※外壁、縁側壁（垂れ壁含む）
：間柱のうえ下地合板t12（耐水）,気密シート貼りとする。
※不燃化粧板は
平目地、ジョイナー：R形状、端部ジョイナー：M型形状とする。

＜木部＞
※特記なき限り、外部に使用する木材の見掛り面は上小節以上。
ただし、抜節・死節は無しとする。また、付柱は柾目とする。
※特記なき限り、内部に使用する木材の見掛り面は上小節以上。
ただし、抜節・死節は無しとする。
※特記なき限り、見掛り面以外は、並材以上とする。

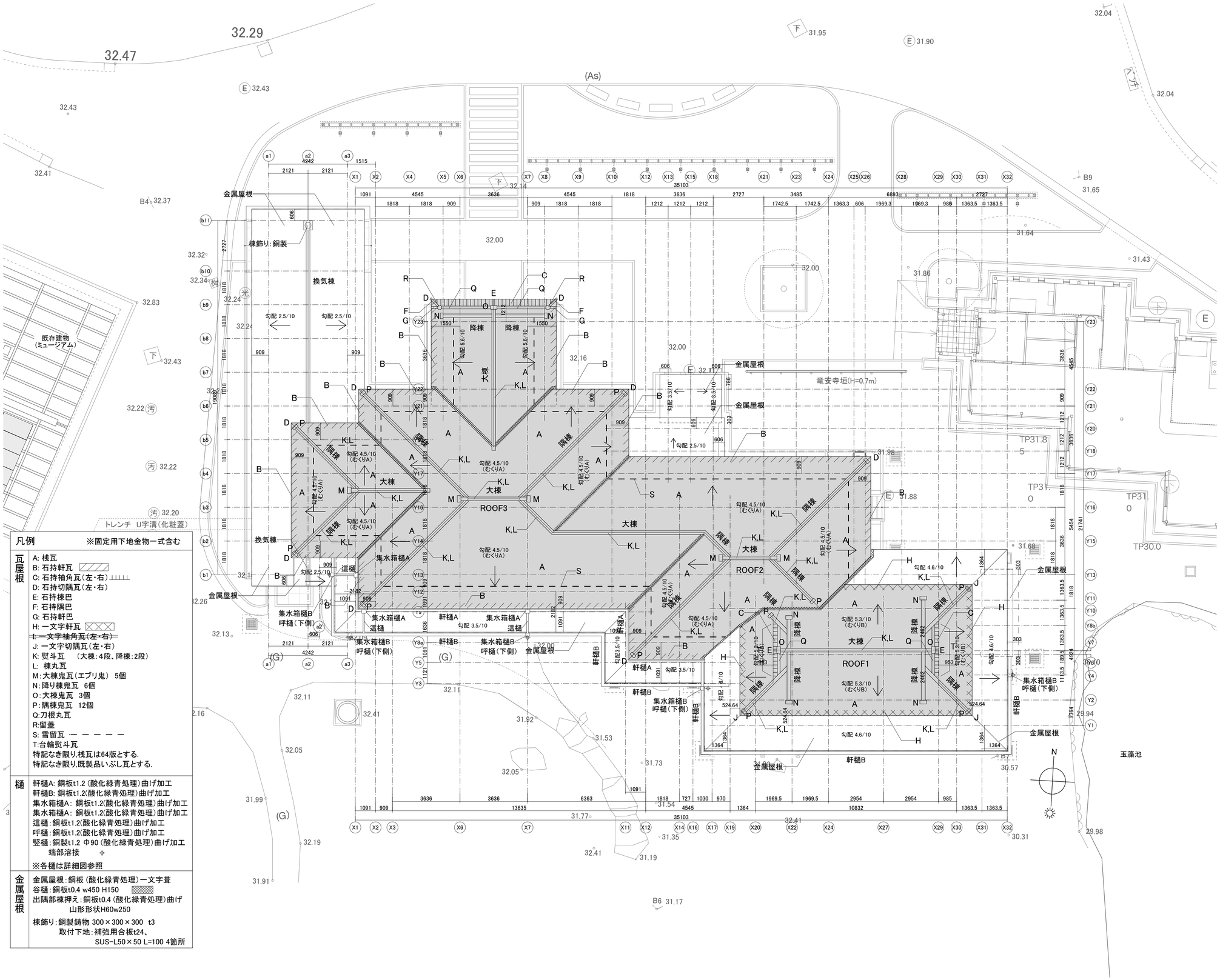
＜床＞
※高レベル復元エリアのフローリング/絨毯下地
：クッション材（畳t60）、合板t15、根太60×45@303、断熱ボードt60（取付金物）、気密シート、普通合板t9
※上記以外のフローリング/絨毯下地
：捨合板t15、構造用合板t15、根太60×45@454.5、断熱ボードt60（取付金物）、気密シート、普通合板t9
※内部スロープ2 絨毯下地
：合板t24、根太60×60@300、木東90×90@300、根絡み t15×H120

香山建築研究所
KOHYAMA ATELIER
一級建築士事務所第12399号(有)香山建築研究所 東京都文京区本郷2-12-10UT本郷3F
管理技術者 長谷川祥久（一級建築士第289714号）
一級建築士事務所第12399号(有)香山建築研究所 東京都文京区本郷2-12-10UT本郷3F
意匠主任技術者 松本洋平（一級建築士第367970号）

令和7年度新宿御苑日本館御殿工事
仕上表 A1：― A3：―
環境省新宿御苑管理事務所



香山建築研究所 KOHYAMA ATELIER 一級建築士事務所第12399号(有)香山建築研究所　東京都文京区本郷2-12-10UT本郷3F 管理技術者　長谷川祥久（一級建築士第289714号） 一級建築士事務所第12399号(有)香山建築研究所　東京都文京区本郷2-12-10UT本郷3F 意匠主任技術者　松本洋平（一級建築士第367970号）	令和7年度新宿御苑日本館御殿工事 平面図　A1：S=1/100　A3：S=1/200 環境省新宿御苑管理事務所	A-17 17 164



凡例

※固定用下地金物一式含む

瓦屋根

- A: 桟瓦
- B: 石持軒瓦
- C: 石持袖角瓦(左・右)
- D: 石持切隅瓦(左・右)
- E: 石持棟巴
- F: 石持隅巴
- G: 石持軒巴
- H: 一文字軒瓦
- ~~I: 一文字袖角瓦(左・右)~~
- J: 一文字切隅瓦(左・右)
- K: 熨斗瓦 (大棟:4段、降棟:2段)
- L: 棟丸瓦
- M:大棟鬼瓦(エブリ鬼) 5個
- N:降り棟鬼瓦 6個
- O:大棟鬼瓦 3個
- P:隅棟鬼瓦 12個
- Q:刀根丸瓦
- R:留蓋
- S: 雪留瓦
- T:台輪熨斗瓦

特記なき限り,桟瓦は64版とする.
特記なき限り,既製品いぶし瓦とする.

樋

- 軒樋A: 銅板t1.2 (酸化緑青処理)曲げ加工
- 軒樋B: 銅板t1.2(酸化緑青処理)曲げ加工
- 集水箱樋A: 銅板t1.2(酸化緑青処理)曲げ加工
- 集水箱樋A: 銅板t1.2(酸化緑青処理)曲げ加工
- 這樋:銅板t1.2(酸化緑青処理)曲げ加工
- 呼樋:銅板t1.2(酸化緑青処理)曲げ加工
- 竪樋:銅製t1.2 Φ90 (酸化緑青処理)曲げ加工
  端部溶接
- ※各樋は詳細図参照

金属屋根

- 金属屋根:銅板 (酸化緑青処理)一文字葺
- 谷樋:銅板t0.4 w450 H150
- 出隅部棟押え:銅板t0.4 (酸化緑青処理)曲げ山形形状H60w250
- 棟飾り:銅製鋳物 300×300×300 t3
  取付下地:補強用合板t24、SUS-L50×50 L=100 4箇所

香山建築研究所 KOHYAMA ATELIER 一級建築士事務所第12399号(有)香山建築研究所 東京都文京区本郷2-12-10UT本郷3F 管理技術者 長谷川祥久(一級建築士第289714号) 一級建築士事務所第12399号(有)香山建築研究所 東京都文京区本郷2-12-10UT本郷3F 意匠主任技術者 松本洋平(一級建築士第367970号)	令和7年度新宿御苑日本館御殿工事 屋根伏図 A1 : S=1/100 A3 : S=1/200 環境省新宿御苑管理事務所	A-18 18 164